

# 目 次

## 幼 児 教 育 科

### 【1年次】 基礎教養科目

キリスト教学	坂牛・白井	1
特別活動 A	濱 田	2
特別活動 B	佐 藤	3
日本語表現 I	白 井	4
日本国憲法	小 南	5
キャリアデザイン I (保育)	谷 本	6
キャリアデザイン I (ライフ)	谷 本	7
英 語	岡 野	8
ICT活用講座A	津 田	9
ICT活用講座B	津 田	10
ボランティア活動	谷本・山本	11
生涯スポーツ	小 野	12
スポーツと健康	小 野	13
子どもと遊びA	星 野	14
子どもと遊びB	山 本	15

### 専 門 科 目

教育心理学	林	16
特別支援	楯	17
保育内容演習「健康」	山 本	18
保育内容演習「人間関係」	津 田 <sup>Ⓐ</sup>	19
保育内容演習「環境」	藤 田	20
保育内容演習「言葉」	松 本 <sup>Ⓐ</sup>	21
保育内容演習「表現 I」	瀧 田	22
造形 I A	津 田 <sup>Ⓐ</sup>	23
造形 I B	津 田 <sup>Ⓐ</sup>	24
幼児体育 I A	小 寺	25
幼児体育 I B	小 寺	26
キリスト教教育	時 久	27
器楽 I A	池田 <sup>Ⓐ</sup> ・宇治田・高磯・福田・藤井 <sup>Ⓐ</sup>	28
器楽 I B	池田 <sup>Ⓐ</sup> ・宇治田・高磯・福田・藤井 <sup>Ⓐ</sup>	29
教育実習指導 I	山本・楯	30
保育原理	中 重	31
社会福祉	川 島	32
子ども家庭福祉	濱 田	33
社会的養護 I	川 島	34
子ども家庭支援の心理学	川 島	35
子どもの食と栄養	橋 本	36
乳児保育 I	中 尾	37
社会的養護 II	川 島	38
幼児音楽 I A	松本 <sup>Ⓐ</sup>	39
幼児音楽 I B	松本 <sup>Ⓐ</sup>	40
保育実習指導 I A	藤田・川島・松本 <sup>Ⓐ</sup>	41
保育実習指導 I B	藤田・川島	42
人権教育の研究	白 井	43
コンピュータ概論	津 田	44
WORD 演習 I	野 口	45
EXCEL演習 I	野 口	46
情報処理実習 I	津 田	47
初級簿記 A	津 田	48
初級簿記 B	津 田	49

### 【2年次】 基礎教養科目

特別活動 A	土 岐	50
特別活動 B	佐 藤	51
日本語表現 II	津田 <sup>Ⓐ</sup> ・白井	52
社会人基礎講座	正 中	53
キャリアデザイン II (保育)	谷 本	54
キャリアデザイン II (ライフ)	谷 本	55
インターンシップ I	谷 本	56
インターンシップ II	谷 本	57
キリスト教教育	坂 牛	58
生活経済	津 田	59
ボランティア活動	谷本・山本	60

### 専 門 科 目

教育原理	崎 浜	61
保育内容演習「表現 II」	瀧 田	62
保育実践演習	金 谷	63
器楽 II A	池田 <sup>Ⓐ</sup> ・宇治田・高磯・福田・藤井 <sup>Ⓐ</sup>	64
器楽 II B	池田 <sup>Ⓐ</sup> ・宇治田・高磯・福田・藤井 <sup>Ⓐ</sup>	65
保育者論	津 田 <sup>Ⓐ</sup>	66
教育課程論	田 口	67
保育内容総論	藤 田	68
保育方法論	濱 田	69
保育相談	中 重	70
教育実習指導 II	楯・山本	71
子育て支援	川 島	72
子どもの保健	早野・松本 <sup>Ⓐ</sup>	73
子どもの健康と安全	内 海	74
子ども家庭支援論	川 島	75
子どもの理解と援助	楯	76
保育の計画と評価	中 尾	77
乳児保育 II	中 尾	78
保育実習指導 I B	藤田・川島	79
保育内容演習「総合表現」	楯・松本 <sup>Ⓐ</sup> ・向井	80
幼児音楽 II A	向 井	81
幼児音楽 II B	向 井	82
造形 II A	佐 藤	83
造形 II B	佐 藤	84
幼児体育 II A	小 野	85
幼児体育 II B	小 野	86
保育実習指導 II	藤田・川島・松本 <sup>Ⓐ</sup>	87
保育実習指導 III	藤田・川島	88
総合音楽	池 田 <sup>Ⓐ</sup>	89
絵画表現	佐 藤	90
WORD 演習 II	野 口	91
EXCEL演習 II	野 口	92
プレゼンテーション演習	白 井	93
デジタルグラフィックス I	佐 藤	94
デジタルグラフィックス II	佐 藤	95
デジタルムービー I	佐 藤	96
情報処理実習 II	津 田	97
簿記演習	津 田	98
コンピュータ会計 I	津 田	99
コンピュータ会計 II	津 田	100

## 【1 年 次】

教育心理学特論 -----	崎 浜	101	子どもと生活 -----	山 本	109
保育内容特論 -----	淵 田	102	図画工作演習 -----	佐 藤	110
幼児理解特論 -----	津 田 <sup>Ⓐ</sup>	103	保育内容研究「人間関係」 -----	川 島	111
保育学研究 I -----	藤 田	104	保育内容研究「表現」 -----	淵 田	112
保育学研究 II -----	藤 田	105	保育実践研究 I -----	崎 浜	113
発達心理学特論 -----	崎 浜	106	体育演習 -----	小 野	114
児童家庭福祉特論 -----	吉 田	107	情報処理研究 I -----	津 田	115
社会福祉特論 -----	吉 田	108	修了研究 I-1 -----	崎 浜	116
			修了研究 I-2 -----	崎 浜	117

## 【2 年 次】

保育者論特講 -----	津 田 <sup>Ⓐ</sup>	118	臨床心理アセスメント -----	崎 浜	125
教育原理特論 -----	崎 浜	119	相談援助研究 -----	川 島	126
教育制度論特講 -----	崎 浜	120	子どもと健康 -----	小 野	127
乳児保育特論 -----	中 尾	121	情報処理研究 II -----	津 田	128
器楽演習 I -----	池 田 <sup>Ⓐ</sup>	122	修了研究 II-1 -----	勝木・中重	129
器楽演習 II -----	池 田 <sup>Ⓐ</sup>	123	修了研究 II-2 -----	勝木・中重	130
保育実践研究 -----	林	124			

# 1 年 次

## 基 礎 教 養 科 目

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教学 (10110)	講義	2	1年次 前期	必修	保育士資格選択	坂牛 裕 白井 智子
授業の到達目標	1. 日ノ本学園の建学の精神・歴史とその基礎であるキリスト教精神について学ぶ。 2. キリスト教のメッセージに触れ、学んだことを自分の言葉で表現できるようにする。 3. クリスマスなど身近なキリスト教行事に関する正確な知識を身につける。					
学位授与の方針との関連	キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。					
授業の概要	様々なテーマの聖書のメッセージや映像による解説を聴き、キリスト教に関する理解を深め、キリスト教精神に基づいた幼児教育について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・自己紹介アンケート				
	2	イエスキリスト 聖書のメッセージ①				
	3	世界の宗教とキリスト教				
	4	天地創造 聖書のメッセージ②				
	5	キリスト教の世界布教と日本伝来一日ノ本学園の創立ー				
	6	ノアの箱舟 聖書のメッセージ③				
	7	イエス・キリストの生涯				
	8	アブラハム 聖書のメッセージ④				
	9	キリスト教の暦と行事				
	10	ヤコブ～ヨセフ 聖書のメッセージ⑤ 1分間スピーチ				
	11	世界のクリスマスの祝い方 (グループワーク)				
	12	出エジプト～モーセ 聖書のメッセージ⑥ 1分間スピーチ				
	13	グループ発表・評価				
	14	予備日 1分間スピーチ				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：グループディスカッション、出席・授業態度・授業への参加意欲（50%） 「その他」：授業内レポート提出とグループワークによる発表（50%） ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業内で紹介された文献を図書館で調べ読んでおくこと。 復習：配布プリントの熟読および返却したレポートの確認をし、授業内容について理解を深めること。 体験としてキリスト教会への出席を奨励する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	・授業に積極的に参加し、必ずノートを取ること。 ・配布プリントは各自で管理すること（紛失しても再配布しない）。 ・居眠り、私語、授業に関係のない行為、許可のない携帯電話・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。 ・座席を指定する場合がある。 ・授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。					
テキスト	適宜プリントを配布する。					
参考書	『聖書』（新共同訳 日本聖書協会） その他の参考書については、授業中に提示する。					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動A (10120)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	土岐 一郎
授業の到達目標	1. キリスト教的人生観、世界観、倫理観を理解して自己の人間形成に役立てる。 2. 愛と奉仕の精神を身につける。 3. チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通して建学の精神を理解する。					
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教精神、建学の精神についての学びを深める。					
授業計画	授業内容					
	○チャペルアワーは讃美歌を歌い、聖書を読み、メッセージを聴き、お祈りをするという通常の礼拝形式で行う。					
	毎週のチャペルアワーに参加する。					
	チャペルアワーの中心は聖書に学ぶことに置かれている。講師から聖書の話を書き、讃美歌を歌い、祈りを通して、キリスト教の知識を深め、キリスト教の雰囲気にもふれる機会とする。					
	具体的にはメッセージ(説教)を通じて聖書の言葉の意味を考え、平和や、人権問題、貧困などの現代の課題等についても考える機会を持つようにする。					
	○その他のキリスト教関連行事に参加する。					
	クリスマス点灯式・・・イエスキリストの降誕にあたり、その真の意味を学ぶ。					
	クリスマス礼拝・・・イエスキリストの降誕を祝う。					
	卒業礼拝・・・本学における教育の締めくくりとして卒業式前日に行い、社会に出ていく卒業生への祝福と励励の場として礼拝をおこなう。					
	卒業式・・・卒業式に参加することを通じて、建学の精神について理解を深める。					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：チャペルや宗教活動への取り組み状況。(50%) 「その他」：感想文・報告書(毎回提出)(50%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・チャペルアワー開始まで讃美歌を練習したり、当日の聖書を読んで理解しておく。 ・神を讃美し、感謝と喜びの中でキリスト教行事に出席するよう配慮する。 ・チャペルを通して心に残った聖書箇所やメッセージについて記入する。 ・近くにある教会に行ってみる。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分)事後学習(45分)					
履修上の注意	活動の参加にあたっては、私語を慎みおごそかな思いで臨むこと。					
テキスト	新共同訳聖書(日本聖書協会) 讃美歌21(日本基督教団出版局)					
参考書						
その他	【オプショナル】各活動の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動B (10210)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 講演会やセミナーを通して、幼児教育に関する専門性を高め、また、多様な視点を身につける。					
学位授与の方針との関連	社会人として必要な視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	通常の教科学習だけでは獲得することのできない社会人としての素養を自治会活動や講演会等の様々な活動を通して培うことを目指す。					
授業計画	授業内容					
	・新入生歓迎会における学生相互の交流を深める活動					
	・大学祭におけるグループごとの共同作業による準備、運営等の学生主体の活動					
	・幼児教育研究センター主催の講演会を通して幼児教育についての学びを深めるための活動					
	・各種セミナーを通して一般常識を身につけるための活動					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	「試験」：（ %） 「平常点」：活動への取り組み状況（50%） 「その他」：活動報告書（50%）					
事前・事後の学習等の内容	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	活動には積極的に取りくむこと。					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスアワー】各活動の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本語表現 I (10310)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	白井 智子
授業の到達目標	<p>1. 相手に正確な情報や自分の思い・意見を伝える手段として、的確な文章を書く能力を身につける。</p> <p>2. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>3. 大学生生活に必要な日本語表現、社会人になっても通用する幅広い日本語表現力を習得する。</p>					
学位授与の方針との関連	教科学習、ワークショップなどを通じて、社会に生きる人として必要なコミュニケーション能力を有し、国際化の中で次代を担う人として必要な課題解決能力を身につけている。					
授業の概要	大学生生活に必要なテーマや現実的で身近なテーマを取り上げ、様々な練習、実践的な作業を通して、大学生・社会人として必要な日本語表現の基礎と知識を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業概要の説明、大学でのノートの取り方				
	2	自己紹介—具体的に話そう (グループワーク)				
	3	正しい日本語—仮名遣い、漢字、同音・同訓異義語、文法、話し言葉と書き言葉				
	4	敬語の基礎—基本ルールをマスターしよう				
	5	連絡メモの書き方—必要な情報を適切なタイミングで連絡しよう				
	6	メールの書き方—依頼メールの基本を学ぼう				
	7	手紙の書き方—書式とマナーの基本を身につけよう				
	8	要約する—要点をつかもう				
	9	説明する—正確にわかりやすく伝えよう (グループワーク)				
	10	援助を要請する—上手な頼み方スキル (グループワーク)				
	11	アンケートのとり方—アンケート用紙を作成しよう (グループワーク)				
	12	効果的なプレゼンテーション—レジюме・視聴覚資料を作成しよう (グループワーク)				
	13	グループ発表と評価①				
	14	グループ発表と評価②				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	<p>「試験」： 「平常点」：グループディスカッション、出席・授業態度・授業への参加意欲 (30%) 「その他」：グループワークによる発表と授業内レポート (70%)</p> <p>・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。</p>					
課題 (レポート等) のフィードバック						
事前・事後の学習等の内容	<p>予習：毎時間、次回授業の主要な内容について予習をしておくこと。</p> <p>復習：教科書や配布プリントを通読し、各回の授業内容について理解を深め、授業内容の具体的実践を行うこと。</p>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 45 分) 事後学習 ( 45 分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的に参加し、必ずノートを取ることを。</li> <li>・居眠り、私語、授業に関係のない行為、許可のない携帯電話・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。</li> <li>・座席を指定する場合がある。</li> <li>・授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。</li> </ul>					
テキスト	『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修/阿部朋世/福嶋健伸 (編著) 三省堂 適宜プリントを配布する。					
参考書	授業中に提示する。					
その他	【7/17アワー】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本国憲法 (10220)	講義	2	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	小南 浩一
授業の到達目標	1. 憲法とはそもそも何か、近代立憲主義について理解する。 2. 憲法の3つの特質について理解を深め、憲法の全体像を把握することができる。 3. 目的としての人権保障と、手段としての三権分立について理解することができる。					
学位授与の方針との関連	社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	憲法とは何か、何のためにあるのかという憲法の立憲主義について解説する。 その上で、立憲主義の中核を担う憲法13条の「個人の尊重」と「法の支配」の2つの原理を説明する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	はじめに 憲法とは何か				
	2	憲法の立憲主義 その歴史と意味				
	3	平和主義の原理 9条の意味				
	4	集団的自衛権行使容認の憲法解釈 (ディベートを行う)				
	5	基本的人権の原理				
	6	人権規定の核心的条項 憲法第13条について				
	7	思想・良心・信教の自由 靖国参拝を事例に (グループワークを行う)				
	8	集会・結社・表現の自由 判例を紹介する				
	9	基本的人権の限界				
	10	社会権 憲法第25・26・27条について				
	11	統治機構、権力分立について				
	12	国会、内閣、裁判所				
	13	憲法改正問題				
	14	日本国憲法の成立の歴史的経緯				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」： 授業内課題 (50%) 小テスト (30%) 提出物 (20%)					
課題 (レポート等)のフィードバック	課題レポートについては、添削返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容を把握しておくこと。 復習：テキストや配布プリントを熟読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 135分 ) 事後学習 ( 135分 )					
履修上の注意	授業中に配布した判例紹介などのプリントは、授業中に全部読むことはできないので、復習で必ず精読しておくこと。					
テキスト	伊藤真『伊藤真の憲法入門』講義再現版第6版 (日本評論社、2017年)					
参考書	樋口陽一『いま「憲法改正」をどう考えるか』岩波書店、2013年					
その他	【Wi-Fiあり】 毎週火曜日 授業の後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザイン I (保育) (10510-1)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. 保育についての理解を深め、保育者としての豊かな資質能力を醸成する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成し、より良い保育者としての自立を促す。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」				
	2	前期の振り返りと短大生活をデザインする				
	3	自己認知と自己肯定感の熟成				
	4	生きること・学ぶこと・働くこと①「人生をデザインする」				
	5	生きること・学ぶこと・働くこと②「人生における役割を考える」				
	6	自立して働くこと①進路理解「職種と適性について考える」				
	7	自立して働くこと②進路理解「自己の特徴と仕事をする上での価値観を考える」				
	8	職業的自立の必要性和税の仕組み				
	9	労働関連法規と社会保障制度				
	10	保育職としてこれからの自分を考える①「園を知る」				
	11	保育職としてこれからの自分を考える②「求められる保育士像」				
	12	保育職としてこれからの自分を考える③「自分が思い描く保育士像をデザインする」				
	13	卒業生から学ぶ : グループワーク				
	14	社会生活における消費者トラブル対策について : グループワーク				
15	学習の振り返りと「まとめ」					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、意欲など（20%） 「その他」：講義ノート・提出物（20%）、レポート（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。					
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。					
参考書	実践キャリア考（実教出版）					
その他	【オフィスアワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザイン I (ライフ) (10510-2)	講義	2	1年次 後期	選択	情報処理士必修	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. ライフキャリアからワークキャリアへの見通しが持てる力を育む。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」				
	2	前期の振り返りと短大生活をデザインする。				
	3	自己認知と自己肯定感の熟成				
	4	生きること・学ぶこと・働くこと①「人生をデザインする」				
	5	生きること・学ぶこと・働くこと②「人生における役割を考える」				
	6	自立して働くこと①進路理解「職種と適性について考える」				
	7	自立して働くこと②進路理解「自己の特徴と仕事をする上での価値観を考える」				
	8	職業的自立の必要性和税の仕組み				
	9	労働関連法規と社会保障制度				
	10	職をイメージしてこれからの自分を考える :グループワーク				
	11	社会生活における消費者トラブル対策について :グループワーク				
	12	就活準備を始めよう①「就職ガイダンス」				
	13	就活準備を始めよう②「自己PRシートの作成A(自己分析)」				
	14	就活準備を始めよう③「自己PRシートの作成B(能力特性を知る)」				
15	学習の振り返りとまとめ「2年次に向けて目標作成」					
授業の評価	「試験」: 「平常点」: 授業態度、意欲など (20%) 「その他」: 講義ノート・提出物 (20%)、レポート (60%)					
課題(レポート等)のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。					
事前・事後の学習等の内容	予習: 配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習: 返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 135 分) 事後学習 ( 135 分)					
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。					
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。					
参考書	実践キャリア考(実教出版)					
その他	【オフィスワ-】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
英語 (10320)	演習	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	岡野 真由子
授業の到達目標	1. 保育園、幼稚園、認定こども園での保育場面で必要な英語力を獲得する。 2. 英語でのあいさつ、天気、手遊び歌等を日常的に、気軽に保育に取り入れられる力を身につける。 3. 英語を用いた活動（アート・音と動き・読み聞かせ等）を保育現場で実践できる力を養う。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	米国および岡山県西栗倉村でのモンテッソーリ教育の実践をもとに、日本の子ども達と楽しめる英語表現や様々な遊びを学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業内容と西栗倉村におけるモンテッソーリ幼児教育（英語）の実践紹介 & 英語で自己紹介				
	2	あいさつ・天気・日付など 日々の保育で使える英語表現&歌あそび				
	3	英語絵本の読み聞かせと関連遊び				
	4	英語絵本の読み聞かせと関連遊び & プレゼンテーション				
	5	秋の遊び Halloween				
	6	外国人保護者に対する対応・挨拶・病気の伝え方など				
	7	英語でアート Vol.1				
	8	映画から学ぶ英語表現				
	9	英語でアート Vol.2				
	10	中間テスト				
	11	英語で音遊び（ムーブメントスカーフや木琴、リズムスティック等）				
	12	英語で音遊び&プレゼンテーション				
	13	クリスマスのお祝い				
	14	冬の遊び&プレゼンテーション				
15	春の遊び（イースター）&プレゼンテーション					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業への参加度・グループ活動への貢献度（50%） 「その他」：発表・提出物（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	実技発表の課題は個別もしくは全体にコメントを付する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：声を出して歌をうたったり、教科書を読み、発音やフレーズに慣れ親しんでおくこと。 復習：基礎的な英語表現など地道に努力を重ねることで習熟度を高めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	幼い子ども達を前にし、受験英語の得手不得手は関係ない。学生自身の心と世界が開かれるよう授業に臨むこと。					
テキスト	『幼保英検4級テキスト』幼児教育・保育英語検定協会（著）					
参考書						
その他	【オフスラー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ICT活用講座A (10410)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 使用しているスマホ・タブレット・パソコンの概歴を理解する。 2. スマホ・タブレット・パソコンのハードウェア・ソフトウェアの基礎知識を身につける。 3. セキュリティ・機器管理について理解し活用できるようにする。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	スマホ、タブレット、パソコンのハードウェア、周辺装置、関連機器、ネットワークの基本知識、セキュリティ・機器管理について学び、今後の情報社会でのICT活用について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	スマホを知る MNO・MVNO・SIM				
	2	スマホを知る SIM・LTE・5G				
	3	スマホを知る Facebook・Twitterについて調べ提出				
	4	スマホを知る Instagram・Lineについて調べ提出				
	5	スマホを知る その他推薦アプリを調べ提出とスマホ管理について				
	6	スマホを知る セキュリティ脆弱について				
	7	スマホを知る スマホセキュリティ、LineとTwitter対策				
	8	パソコンを知る インターネット・IPアドレス				
	9	パソコンを知る WiFi・ISP、OS				
	10	パソコンを知る bit・byte Hardware				
	11	パソコンを知る CPU・Memory				
	12	パソコンを知る HDD/SSD、容量				
	13	パソコンを知る Monitor、Printer				
	14	パソコンを知る 無線LAN、Web会議				
15	パソコンを知る 関連機器メモリ・カメラ・スキャナ					
授業の評価	「試験」：定期試験（60%） 「平常点」：小テスト4回×10%（40%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業の2回に1度の小テストにより理解度をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業前、テキストの指定されている箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：自主学習支援としてGoogle Classroomに授業内容のまとめ問題を掲載しているので学んだ内容の理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	社会ではコミュニケーション能力、情報処理能力が求められている。ソフトを使えるだけでなく、社会人として情報処理の知識を修得することを意識して学ぶこと。					
テキスト	『スマホ・パソコン活用基礎知識』 津田敏著 2021年					
参考書						
その他	【71577-】 授業の前後及びGoogle Classroom					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ICT活用講座B (10411)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. ビジネスソフトを実践的に活用するための色々な機能について理解する。 2. スマートフォン・USBフラッシュメモリ内・Web上のデータをタブレットPCで活用できるようになる。 3. 作品の趣旨を充分考え、作品の情報が伝わる工夫ができるようになる。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	スマートフォンやUSB、Webやクラウドストレージ内のデータ活用と多岐にわたる情報活用を通してICT活用力を向上させるとともに今後の情報社会でのICT活用について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品1作り①				
	2	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品1作り②				
	3	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品1作り③				
	4	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品1作り④ 発表				
	5	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品2①				
	6	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品2作り②				
	7	文書処理ソフト (Googleドキュメント)による作品2作り③ 発表				
	8	表計算処理ソフト (Googleスプレッドシート)による作品3作り①				
	9	表計算処理ソフト (Googleスプレッドシート)による作品3作り②				
	10	表計算処理ソフト (Googleスプレッドシート)による作品3作り③ 提出				
	11	プレゼンテーションソフト (Googleスライド) による作品4作り①				
	13	プレゼンテーションソフト (Googleスライド) による作品4作り②				
	14	プレゼンテーションソフト (Googleスライド) による作品4作り③				
	15	プレゼンテーションソフト (Googleスライド) による作品4作り④ 発表				
	16	プレゼンテーションソフト (Googleスライド) による作品4作り⑤ 発表				
授業の評価	「試験」： 「平常点」：文書処理作品2作品、表計算作品1作品、Pp作品1作品 4作品＝100% 「その他」：					
課題 (レポート等)のフィードバック	・スマートフォンとタブレットPC接続等の活用について助言助力する。 ・ソフトによるファイル作成、発表をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：次回テーマに該当するソフト機能等を学習し、ファイル作成を検討しておくこと。 復習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 45 分) 事後学習 ( 45 分)					
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。ソフトの機能を駆使した情報発信ができることもその一つである。社会人としての情報処理能力を修得するように意識して学ぶこと。					
テキスト	指定なし					
参考書						
その他	【Wi-Fi】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ボランティア活動 (10250)	実習	1	1年次通期 2年次通期	選択	保育士資格選択	谷本 章三 山本 郁子
授業の到達目標	1. 自己の人間性や専門性を見つめ、人のために何ができるかの気づき実践できる力を高める。 2. 「感じ」「考え」「行動できる」力を豊かに育み、与えるものより与えられるものの大きさを 感じられるようになる。 3. ボランティア活動を通して、人として社会人として自己の人生を豊かなものにしていく。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。</li> <li>社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。</li> </ul>					
授業の概要	自発的な意思により、人や社会と関わることを通して自己の再発見や自己実現の中で社会貢献をしていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「ボランティアの基本原則と年間計画等について」（講義）				
	2	基本原則・自主性・主体性に基づく活動				
	3	・社会性、連帯性のある活動				
	4	・無償性、無給性に基づく活動				
	5	・創造性・開拓性・先駆性のある活動				
	6	自己のボランティア活動スタイルの確認（何時・何処で・どれくらいの頻度で参加できるか）				
	7	・自己の特技や能力の活用				
	8	・何処（場所）に参加したいか				
	9	ボランティア活動の心構えと自己評価				
	10	・守秘義務の確認 ・自己の行動、言動には責任を持つ				
	11	・PDCAサイクルの実践を心掛ける ・相手や仲間の立場、考え方を尊重する				
	12	・一人で抱え込むのではなく、みんなで仕事を分担する				
	13	・常に自分の行動を振り返りながら、生き生きと楽しんで活動する				
	14	レポート提出（活動記録用紙、確認表をもとに）※所定の用紙に事業所から確認印をもらう				
15	まとめ（所定の用紙に活動の振り返りを記入し、担当者に提出する）					
授業の評価	「平常点」：ボランティア活動の活動時間、意欲、態度等（70%） 「その他」：提出物（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	各自が実施したボランティアの内容の活動記録用紙を担当者がチェックの上、アドバイスを行うので、それをもとに常に自己評価し、次の活動に生かすこと。					
事前・事後の学習等の内容	予習：ボランティア活動先の業務内容を事前に把握し、活動内容や活動場所を確認しておく。 また、実習先から喜んでもらえるようにするには何をすべきか常に考えておく。 復習：自分の実習先での行動を振り返り、反省点を次回に生かす。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	原則、各自がボランティア活動場所を開拓し自ら参加し活動を行うこと。担当者から活動場所を紹介することもある。実習時間は、合計40時間以上で単位認定を行う。（単位認定は、卒業年度の後期に行う）2年間（長期履修者は3年間）の在学中に活動参加をすること。					
テキスト	講義ごとに資料を配布する。					
参考書	自治体等の発行するボランティア通信等					
その他	【オフィスアワー】随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
生涯スポーツ (10610)	実技	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	小野 昌二
授業の到達目標	1. 生涯スポーツの意義を理解し、知識を獲得する。 2. スポーツの実践を通して、精神的、身体的、社会的な健康増進の重要性を理解する。 3. 安全にスポーツを行うための留意事項を理解し、安全なスポーツ実践の方法を身につける。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。</li> <li>・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。</li> </ul>					
授業の概要	自らがスポーツを楽しむ経験を積んでいきます。 前期期間中に数種のスポーツを楽しみます。 全ての種目、基本技術の習得からはじめ、段階的に授業展開を行います。 最終的にはゲームを楽しめるようにしていきます。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・アイスブレイク				
	2	フットサル				
	3	フットサル				
	4	フットサル				
	5	フットサル				
	6	バドミントン				
	7	バドミントン				
	8	バドミントン				
	9	バドミントン				
	10	バドミントン				
	11	ネット型・ゴール型スポーツの実践				
	12	ネット型・ゴール型スポーツの実践				
	13	ネット型・ゴール型スポーツの実践				
	14	ネット型・ゴール型スポーツの実践				
15	ネット型・ゴール型スポーツの実践					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度・意欲（50%） 「その他」：レポート（30%） 提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	各種目最終回終了時にレポートを提出。					
事前・事後の学習等の内容	予習：食事、睡眠など、体調を整えておくこと。 復習：身体的なケアとしてストレッチを習慣化すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。</li> <li>・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。</li> <li>・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。</li> <li>・各自で水分およびタオルを用意する。</li> <li>・各自で貴重品を管理する。</li> <li>・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。</li> </ul>					
テキスト	適宜資料配布					
参考書	適宜資料配布					
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
スポーツと健康 (10611)	講義	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	小野 昌二
授業の到達目標	1. スポーツ・エクササイズを通して身体活動に関する知識を獲得する。 2. 心身における健康の維持増進の重要性を理解する。 3. 安全にスポーツを行うための方法を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	実技では、スポーツ・エクササイズを通して健康の維持増進を図る。□ 理論では、健康的な生活を営むための知識を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 集団行動、ストレッチ、体幹トレーニング				
	2	バドミントン(ルール・基礎練習)				
	3	バドミントン(基本のショット)				
	4	バドミントン(サーブ)				
	5	バドミントン(ゲーム・ダブルス)				
	6	バドミントン(ゲーム・ダブルス)				
	7	バドミントン(ゲーム・ダブルス)				
	8	バドミントン(ゲーム・ダブルス)				
	9	体力と健康				
	10	休養・こころと健康				
	11	栄養と健康				
	12	運動と健康				
	13	生活習慣病				
	14	喫煙・アルコールと健康				
15	スポーツを取り巻く課題					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、意欲（50%） 「その他」：最終レポート（30%） 提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。					
事前・事後の学習等の内容	<b>【実技】</b> 予習:食事、睡眠等、体調を整えておく。 復習:心身のケアとしてストレッチを習慣化する。 <b>【理論】</b> 予習:健康に関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。 復習:授業の内容を整理し、まとめておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 <b>【実技】</b> ビアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。各自で水分、タオルを用意する、貴重品の管理をすること。運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。					
テキスト	適宜資料配布					
参考書	適宜資料配布					
その他	【オフィスアワー】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと遊びA (20671)	演習	1	1年次 集中	選択	保育士資格選択	星野 由香
授業の到達目標	1. グループワークであそびの面白さを分析し、プレゼンテーションを行えるようになる。 2. 必要な教材や援助の方法を研究できるようなる。 3. 様々なあそびの実践を通して、あそび心のある保育者として子どもに関わるような力を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	子どもの主体的で自発的な活動である「あそび」には、学びの機会がたくさんあり、一人ひとり面白いと感じるポイントには違いがある。さらに年齢月齢の差もあり、理解できること、技術の有無なども、あそびに夢中になれるかどうかを左右される。様々なあそびを通し、あそびについて学んでいく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	あそびってなあに／あなたの好きなあそび				
	2	しぜんあそび				
	3	かがくあそび				
	4	伝承あそび				
	5	身近な素材				
	6	もじ・かずあそび				
	7	手作りおもちゃ				
	8	おもちゃであそぶ				
	9	群れあそび				
	10	机上あそび				
	11	構成あそび				
	12	手あそび・指あそび				
	13	絵本の世界				
	14	音楽あそび				
	15	劇あそび				
授業の評価	「試験」： 「平常点」：出席状況・授業態度（40%） 「その他」：プレゼンテーション（50%）課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	前もって取り上げるあそびを提示しておくので、そのあそびをさらに楽しめる方法を考え、準備しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること					
テキスト	必要に応じて配布する					
参考書	必要に応じて配布する					
その他	【オフィスワーカー】水曜の昼休み 中重研究室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと遊びB (20671)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格選択	山本 郁子
授業の到達目標	1. 児童文化財についてそれぞれの特徴、制作方法、実践的活動方法について理解する。 2. 子どもの発達段階を理解する。 3. 実習や現場で演ずる技術を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通して実践力を修得している。					
授業の概要	子どもの遊びを豊かに展開するための重要な児童文化財の知識や技術を身につける。 手づくりおもちゃに取り組み、実践的な活動方法や演じ方の技術を身につけ能力と資質を育む。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・乳幼児の遊びと児童文化				
	2	児童文化財について				
	3	児童文化財の制作①				
	4	児童文化財の制作②				
	5	児童文化財の制作③				
	6	児童文化財の制作④				
	7	指導案作成				
	8	児童文化財による模擬保育①				
	9	児童文化財の制作⑤				
	10	児童文化財の制作⑥				
	11	児童文化財の制作⑦				
	12	児童文化財の制作⑧				
	13	指導案作成				
	14	児童文化財による模擬保育②				
15	まとめと振り返り					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、学習意欲、レポート（40%） 「その他」：作品（30%）、成果発表（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は、コメントを付して返却する</li> <li>・授業内容等に関するの質問については、個別又は、巡回指導で対応する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自計画的に取り組む。</li> </ul> 事前：授業内容の概要を把握しておく。 事後：習得技術や表現方法の工夫と努力をする。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から児童文化財に関心を持つよう心掛ける。</li> <li>・欠席をすると制作に遅れが出る。主体的・積極的に取り組む。</li> <li>・授業内容の概要を確認して、材料を準備する。</li> <li>・受講人数の制限があります（抽選）</li> </ul>					
テキスト	適宜資料を配布する。					
参考書	『幼保連携認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』					
その他	【オフィスワーカー】授業の前後					

1 年 次  
専 門 科 目

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育心理学	講義	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	林 幹士
授業の到達目標	1、保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	本講義では、大きく以下の3点について学修していく。1. 発達を捉える視点、2. 子どもの発達過程、3. 子どもの学びと保育、についてである。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子どもの発達の理解とその意義				
	2	子どもの発達と環境（事例を通してのケースワーク）				
	3	発達観、子ども観と保育観				
	4	保育実践の評価（グループワーク）				
	5	社会情動的発達①自己と感情				
	6	社会情動的発達②他者理解				
	7	社会情動的発達③他者とのかかわり				
	8	身体的機能と運動機能の発達				
	9	認知の発達①認識の基礎				
	10	認知の発達②数と形				
	11	認知の発達③言葉と文字				
	12	乳幼児期の学びにかかわる理論				
	13	乳幼児期の学びの過程と特性①認知的学び				
	14	乳幼児期の学びの過程と特性②社会情動的学び				
15	乳幼児期の学びを支える保育（事例を通してのケースワーク）					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業内で実施する小レポート（50%） 「その他」：最終レポート（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内で実施するレポートについて、次回の授業内で解説を行う。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：テキストの該当箇所について、事前によく読んでおくこと。 事後学習：授業で確認したテキストの箇所や配布資料等について、復習していくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	積極的に文章を記述することを求めます。また、授業内のテーマに関することについて、普段から関心を高めておくこと。授業内で積極的に自分の意見を述べること。					
テキスト	『新・基本保育シリーズ8 保育の心理学』公益財団法人児童育成協会＝監修／杉村伸一郎、山名裕子＝編集					
参考書	授業時に適宜紹介する					
その他	【Q&A】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別支援 (20520)	演習	2	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	楯 佳子
授業の到達目標	1. 障害児保育の基本的理念や歴史、制度を学び、現状と課題を理解する。 2. 各障害の特性と援助方法の理解を深め、保育現場における配慮や環境設定の工夫などの実践力を身につける。 3. 保護者支援や関係機関との連携など子どもの育ちを支える環境づくりや社会的なしくみを理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	障害児保育の理念、障害特性と支援のあり方について学び、保育実践における子どもの援助方法や保護者支援等の取り組みを理解する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	「特別支援」の概念と障害児保育の歴史の変遷				
	2	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解				
	3	肢体不自由児の理解と援助				
	4	知的障害児の理解と援助				
	5	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助				
	6	発達障害児の理解と援助				
	7	発達障害の感覚について				
	8	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助				
	9	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかわいり・育ちあい				
	10	障害児保育における子どもの健康と安全・職員間の連携と協働				
	11	指導計画および個別の支援計画の作成				
	12	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援				
	13	地域の専門機関との連携と福祉・教育における現状と課題				
	14	小学校等との連携				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、小テスト（20%） 「その他」：授業内課題（60%）レポート等提出物（20%） レポート等の課題は、コメントをつけて返却する。 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題（レポート等）のフィードバック	レポート等の課題は、コメントをつけて返却する。 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキスト等の該当箇所を通読し、各回の授業内容を把握しておく。適宜、演習を織り交ぜて授業を進めるため、事前に自分なりに課題を考え、演習に臨む準備をしておくこと。 復習：テキスト、配布プリントを通読し、授業内容を復習して理解を深めておくこと。 更に学びを深めるためにレポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害がある子どもの支援は授業だけで理解するのは困難であるため、普段からTV等のメディア、読書、ボランティア体験などを通して多くの実例に触れるように心がけること。</li> <li>・障害児への支援は、障害の有無に関わらず全ての子どもの保育の基本となるものである。一人ひとりの子どもに寄り添う気持ちを持ち、「自分ならどうするか」を常に考えながら受講する。</li> <li>・演習やグループワークでは、自分の意見をまとめて積極的に発言すること。</li> </ul>					
テキスト	『新基本保育シリーズ⑩ 障害児保育』 編集：西村重稀、水田敏郎 監修：児童育成協会 中央法規出版					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【ワイズワ-】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「健康」 (20601)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	山本 郁子
授業の到達目標	1. 乳幼児に育つ事が期待される健康な心と体について、その「ねらい」や「内容」を理解する。 2. 乳幼児の心身の健康や運動、基本的な生活習慣や安全に関する基礎的な知識を身につける。 3. 実際に保育を行う上での配慮や留意事項を理解し、具体的な指導、援助ができるようにする。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	乳幼児期における健康の意義、健康と心身の発達に関連、健康で安全な生活習慣形成と保育者の役割について理解する。また、子どもの健康教育についてグループワークや実習を取り入れながら学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	社会生活における健康的な生き方や生活(課題解決型学習)				
	2	保育内容「健康」の(ねらい及び内容)				
	3	保育内容「健康」の保育方法				
	4	乳幼児期の身体的な発達				
	5	乳幼児期の生活リズムと生活習慣				
	6	生活リズム・生活習慣かかわる指導				
	7	乳幼児期の食生活				
	8	食文化についての理解、保育における食事(実習)				
	9	食育にかかわる指導(グループワーク)				
	10	乳幼児期の運動発達				
	11	運動遊びにかかわる指導				
	12	乳幼児期の安全				
	13	安全への配慮と子どもへの安全教育				
	14	領域「健康」にかかわる現代的課題と動向				
15	まとめ					
授業の評価	「平常点」：授業態度、学習意欲、小テスト、提出物(40%) 「その他」：授業内課題(60%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付けて返却する。 ・授業内容等に関する質問については、個別又は、全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストを通読し、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業を見直し、質問や自己学習等で理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	・学習態度や学習意欲を評価する。 ・欠席や遅刻が多い場合は学習意欲に欠けるものとする。 ・毎授業の課題は、必ず提出すること。 ・必ずテキスト持参で授業にのぞむこと。					
テキスト	『新しい保育講座 保育内容 健康』 河邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則(編著) ミネルヴァ書房					
参考書	『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』 無籙 隆(著) 倉持清美(編集) 萌文書林 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針					
その他	【オフィスアワー】 随時					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「人間関係」 (20602)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田 由加子
授業の到達目標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本をふまえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 3. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもは生活の中で、人とかかわりをどのような過程を経て発展させていくのか。また、それを支える保育者の指導・援助はどうあるべきか等、「人間関係」領域の指導法を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	「人間関係」とは (プレゼンテーション)				
	3	私たちにとっての「人間関係」とは (プレゼンテーション)				
	4	現代の乳幼児を取り巻く人間関係 (プレゼンテーション)				
	5	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂(改定)と背景				
	6	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿				
	7	0～2歳児の人との関わりと保育				
	8	3～5歳児の人間関係の育ちを支える				
	9	子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係				
	10	子どもたちの人間関係を育む学級経営				
	11	領域「人間関係」の特性や子どもの体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用について				
	12	指導案の作成 (グループワーク)				
	13	指導案の実践 (グループワーク)				
	14	指導案から保育へ (グループワーク)				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度・小テスト(50%) 「その他」：授業内課題(30%)・提出物(20%)					
課題(レポート等)のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストについては授業内で答え合わせをする。</li> <li>・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 次回授業の主な内容について予習を課す。 復習：テキストを通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 理解度を確認するため、小テストを行うことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習( 45 分) 事後学習( 45 分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト・はさみ・のりは毎回必ず持参すること。</li> <li>・グループ活動では意欲的に参加すること。(グループ活動では、以下の点において評価する)</li> </ul> ①準備をして取り組んでいる。 ②話し合いに積極的に参加している。 ③グループに貢献するように作業している。 ④うなずき・アイコンタクトができています					
テキスト	『演習 保育内容「人間関係」－基礎的事項の理解と指導法－』田中和美・榎本真実編著 建帛社					
参考書	授業中に紹介する					
その他	【Wi-Fi】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「環境」 -20603	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 子どものためになる環境を理解する。 2. 保育者が創り出す環境について理解する。 3. 子どものためのよりよい環境を創り出す保育者の役割について理解を深める。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもにとっての「環境」、保育者にとっての「環境」、様々な経験を通して環境について基礎知識を学習する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	イントロダクション				
	2	子どものための園庭環境について				
	3	子どものための室内環境について				
	4	自然とのふれあいを通して				
	5	他領域との環境のつながりを考える				
	6	グループワーク ①園環境について				
	7	子どもと環境について考える				
	8	遊びを通じた環境				
	9	表現あそびをするのための環境				
	10	運動あそびと環境				
	11	グループワーク ②子どもを通じた環境				
	12	年中行事と保育の実際				
	13	指導内容と援助について				
	14	カリキュラムを通して環境について考える				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、レポート（40%） 「その他」：授業内課題（50%）、提出物（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：目的、目標をもって授業に挑みましょう。 復習：授業内で学んだことをリストアップして自らの保育の財産にしましょう。					
事前・事後の学習に必要な時間	一単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45分）					
履修上の注意	学ぶ姿勢、楽しみながら授業に参加すること。自身が保育者になったときのことを想像しながら共に学びを深めていきましょう。					
テキスト	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
参考書	必要に応じて配布する					
その他	【オプショナル】					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「言葉」 (20604)	演習	1	1年次 前期	選択	幼児必修 保育士資格必修	松本 恭子
授業の到達目標	1. 乳幼児期、その言葉はどのようにして獲得され育っていくのかを理解する。 2. 保育現場における具体的な状況に応じて、言葉を獲得していくための様々な援助をどのように進めていくのかを学ぶ 3. 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づいて理解を深めるとともに、子どもの豊かな言葉を育む保育者としての資質を養う。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	領域「言葉」のめざしているものを理解するとともに、保育実践の場における具体的な取り組みの手法を 修得し資質を養う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業の進め方についての説明, この授業の目的。			課題①	
	2	「子育てと言葉」・言葉の機能と獲得とは…				
	3	・コミュニケーションと言葉				
	4	「領域」について・領域の言葉について			課題②	
	5	・言葉と他の領域の関係				
	6	「言葉の獲得」 ・一語文以前				
	7	・話し言葉				
	8	「児童文化財」 ・言葉を育てる児童文化財			課題③	
	9	「言葉を育てる環境」・乳児の言葉を育てる環境				
	10	・幼児の言葉を育てる環境				
	11	・書き言葉への興味や関心を育てる環境			グループワーク②	
	12	「言葉の育ちにかかわる諸問題」・言葉の障害について				
	13	・母語が日本語でない子どもの理解と援助				
	14	実践発表③ ・まとめと評価				
15	教科「言葉」のまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、グループワークにおける協調性等（20%） 「その他」：筆記試験（50%） 提出物（10%） 実践発表（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：教科書に目を通し、学習の内容を把握しておきましょう。 復習：授業内容についてまとめておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は認めません。意欲的に取り組む態度が見られる学生は大きく評価します。					
テキスト	『保育内容 言葉』 小田豊・芦田宏・門田理世編著 北大路書房 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府 フレーベル館					
参考書						
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「表現Ⅰ」 (20605)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	澁田 陽子
授業の到達目標	1. 保育現場での乳幼児の表現の捉え方を理解する。 2. 乳幼児の表現発達に関する知識を獲得する。 3. 乳幼児が感じたことや考えたことを自分なりに表現するための、保育者役割や援助法を考えられるようになる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもの発達を見通したうえでの保育現場での表現援助法について学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育・教育の原理と保育内容「表現」				
	2	保育内容「表現」のねらい				
	3	保育内容「表現」の内容				
	4	感性とは何か				
	5	子どもの感性を磨く「音育」				
	6	身近なものに触れるということ				
	7	子どもが表現をする時（グループワーク）				
	8	1歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合				
	9	2歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合				
	10	1歳児クラスと2歳児クラスの「表現」を育てる保育者のありかた				
	11	3歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合				
	12	4歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合				
	13	5歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合				
	14	授業で紹介した音楽遊びの実践/音を聴く				
15	本授業のまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：ミニレポート（40%） 「その他」：提出物（20%）、（最終レポート）40%					
課題（レポート等）のフィードバック	レポートにコメントを記入し返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業1回目の授業が始まる前に、教科書1章通読し、2,3,4,回目の授業前には、予定している授業の部分の教科書を読み深めてくること。5-15回目の授業予習については、前の授業の終わりに予習について説明を行う。 復習：教科書と配布プリント、ディクテイクしたノートを見直し、授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	シラバスの内容は、授業進行状況と合わせて変更の可能性がある					
テキスト	『新・保育と表現』 石上浩美編著 発行所 嵯峨野書院					
参考書	『0～5歳児の発達と保育と環境がわかる本』大竹節子・塩谷香 監修 ひかりのくに株式会社 保育の表現技術実践ワーク 今井真理編 保育出版社					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形 I A (20730)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田由加子
授業の到達目標	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	乳幼児における表現活動の大切さと子どもの発達過程を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する学習をする。実際に材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、手の動きによる描写や造形、描画材の特徴の理解及び表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作体験を交えながら、実践での造形教育活動を行うにあたり、環境構成を踏まえた指導計画案の作成や援助のあり方についての知識を関連づけながら学習を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	美術教育の変遷とこどもの表現について				
	3	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における表現領域について				
	4	乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について				
	5	えがく領域の環境づくりと指導・援助について				
	6	つくる領域の環境づくりと指導・援助について				
	7	造形表現における評価のあり方について				
	8	小学校とのつながりを意識した連続性のある造形活動の構成について				
	9	領域「造形表現」の特性や子どもの体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用法について				
	10	指導計画（保育案）について				
	11	指導計画（保育案）の作成				
	12	模擬保育発表 グループ①				
	13	模擬保育発表 グループ②				
	14	模擬保育発表の振り返り				
15	えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）とまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業の参加度（40%） 「その他」：提出課題（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。□ また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館					
その他	【ワイアワ】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形 1B (20730)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田由加子
授業の到達目標	1. 幼稚園教育要領・表現（造形）の目標、内容について理解している。 2. 造形表現題材開発とその振り返りから、子どもの実態を視野に入れた保育設計の在り方を理解している。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼稚園教育要領に示された幼児の造形表現に関する目標や内容を理解し、造形表現題材開発をする中で、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼児期における「造形表現」の目的と意義				
	2	幼児の造形表現の発達と教師の役割				
	3	描画（かく）活動の意味と理解				
	4	制作（つくる）活動の意味と理解				
	5	教材研究（教材のとらえ方と活用法について）				
	6	条件の提示と活動の関係（条件提示と発問の関係について）				
	7	表現活動の動機づけ（意欲をひきだす場の設定について）				
	8	表現活動の展開（教師の指導、助言、支援のあり方について）				
	9	個別指導と集団指導（中間意識育成の重要性について）				
	10	活動からの学び取りと活動の連続性について				
	11	造形表現題材開発①（ローラーであそぶ）				
	12	造形表現題材開発②（絵に描いてあそぶ）				
	13	造形表現題材開発③（段ボールであそぶ）				
	14	造形表現題材開発④（粘土であそぶ）				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業の参加度（40%） 「その他」：提出課題（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。□ また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館					
その他	【オフィスワーカー】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育 I A (20740)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	小寺 隆志
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための基礎的知識を取得し、その指導の土台を作る。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。 4. 安全に運動をするための環境設定を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児期における身体活動の意味や価値を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた運動の基礎知識を習得する。運動遊びの実践を通して、必要な働きかけや安全管理を習得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・アイスブレイク				
	2	現代の幼児を取り巻く環境と体育の意味				
	3	幼児期の心身の発育発達と運動技能理解				
	4	集団遊び①				
	5	集団遊び②				
	6	大型遊具を使った運動遊び マット・跳び箱①				
	7	大型遊具を使った運動遊び マット・跳び箱②				
	8	大型遊具を使った運動遊び 平均台・鉄棒				
	9	小型遊具を使った運動遊び ボール①				
	10	小型遊具を使った運動遊び ボール②				
	11	小型遊具を使った運動遊び フープ・なわ				
	12	身近なものを使った遊び 新聞紙・ペットボトル				
	13	身近なものを使った遊び 段ボール				
	14	リズム体操&サーキット運動				
15	リズム体操&サーキット運動					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度及び取り組み意欲（70%） 「その他」：最終レポート（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。</li> <li>・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。</li> <li>・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。</li> <li>・各自で水分およびタオルを用意する。</li> <li>・各自で貴重品を管理する。</li> <li>・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、事前前に必ず申し出ること。</li> </ul>					
テキスト	適時資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</a>					
その他	【Wi-Fiあり】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育 1B (20741)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	小寺 隆志
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための基礎的知識を取得し、その指導の土台を作る。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。 4. 安全に運動をするための環境設定を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児期における身体活動の意味や価値を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた運動の基礎知識を習得する。 運動遊びの実践を通して、必要な働きかけや安全管理を習得する。 指導実践はグループを作り、グループディスカッションを行い計画、実践します。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼児体育における安全管理				
	2	幼児体育指導法①				
	3	幼児体育指導法②				
	4	集団（群れ）あそびの指導立案				
	5	集団（群れ）あそびの指導実践①				
	6	集団（群れ）あそびの指導実践②				
	7	集団（群れ）あそびの指導実践③				
	8	サーキット運動の指導立案				
	9	サーキット運動の指導実践①				
	10	サーキット運動の指導実践②				
	11	サーキット運動の指導実践③				
	12	リズム運動の指導立案				
	13	リズム運動の指導立案				
	14	リズム運動の指導実践①				
15	リズム運動の指導実践②					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度及び取り組み意欲（60%） 「その他」：指導実践（30%） 最終レポート（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。</li> <li>・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。</li> <li>・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。</li> <li>・各自で水分およびタオルを用意する。</li> <li>・各自で貴重品を管理する。</li> <li>・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、事業前に必ず申し出ること。</li> </ul>					
テキスト	適時資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</a>					
その他	【Wi-Fiあり】 授業の前夜					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教教育 (20110)	講義	2	1年次 後期	必修		時久 牧人
授業の到達目標	1. キリスト教について学び、キリスト教の本質である「愛」について多角的に理解する。 2. 「愛すること」を日常生活および教育現場にて適用するための実践的知識と能力を身につける。 3. 「神を愛し人を愛せ」という言葉を深く理解する。 4. 神の作品という概念を学び、肯定的なセルフイメージを持つ。					
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	キリスト教及びキリスト教教育の歴史を学び、愛するとは何かを深く理解し、他者に伝えることができるよう表現力を培う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	「キリスト教」について 聖書の各書の大まかな把握				
	2	聖書の読み方について（グループディスカッションを含む）				
	3	創造主、イエスキリスト、聖霊について①				
	4	創造主、イエスキリスト、聖霊について②				
	5	キリスト教の人間観について				
	6	キリスト教の教育観 幼児教育の目的について				
	7	キリスト教の教育観 幼児教育の歴史について				
	8	現代日本社会、および子供たちの現状を理解し、ディスカッションの時を持つ				
	9	キリスト教の行事を知る				
	10	「愛する」について 愛することと恋することの決定的な違い				
	11	「愛する」ことの構造				
	12	「愛する」ことの構造 東洋的思考と西洋的思考について				
	13	つながり力grade up①				
	14	つながり力grade up②				
15	聖書の物語を読みプレゼンテーションを行う					
授業の評価	「試験」：					
	「平常点」： 授業・発表態度及びディスカッションの積極性（40%）					
	「その他」： 提出物（課題・レポートなど）（40%） 最終レポート（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	提出したものは、コメントを付して返却。場合によっては再提出をしてもらう。 授業内容に関する質問には個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	各回のテーマを事前に調べておく。また授業の内容をレポートにまとめておく。 疑問点があれば調べ、内容によっては次の授業において質問するように準備しておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	授業への取り組み姿勢も評価の対象であり、授業内容の理解度も重視している。 それらを踏まえて単位取得を目指してほしい。					
テキスト	『新キリスト教保育指針』キリスト教保育連盟 聖書 讃美歌					
参考書	『（改訂版）こどもさんびか』日本キリスト教団出版局、 『マザー・テレサ 愛のことば』女子パウロ会 『トリニティーブック（私たちが信じる神）』時久牧人 広畑キリスト教会 『愛するということ』エーリッヒ・フロム 紀伊国屋書店					
その他	【7/157-7】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽 I A (20710)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照
授業の到達目標	1. 基本的な読譜力を獲得している。 2. ピアノ演奏の基礎技術を獲得し、初歩レベルの単純な楽曲を演奏できる。 3. コードによる簡単な伴奏法を学習し、基本形での伴奏付けができる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学のグレードカリキュラムに従い、個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。</li> <li>・楽譜の読み方やピアノ演奏の基礎技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。</li> <li>・基本形を用いたコードによる伴奏法をこどものための楽曲演奏により学習する。</li> <li>・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲の2種類の課題を実践、実習する。</li> <li>・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション、各自のグレード判定、音符の読み方・音の高さの学習				
	2	簡単な伴奏のためのコードについての学習				
	3	音符の種類と長さ				
	4	進度別課題① 拍子に合わせて弾く	伴奏付け実習「こどものうた」へ長調の楽曲			
	5	進度別課題② 音符の長さを弾き分ける	ちょうちょ			
	6	進度別課題③ 5本の指を独立して動かす	チューリップ			
	7	進度別課題④ 3度音程による和音の練習	伴奏付け実習「こどものうた」へ長調の楽曲			
	8	進度別課題⑤ 左右別々の音を同時に弾く	ぶんぶんぶん			
	9	進度別課題⑥ 左右別々に弾き始める	びよんびよんカエル			
	10	進度別課題⑦ タイの練習	伴奏付け実習「こどものうた」 任意の楽曲			
	11	進度別課題⑧ 左手の加線譜の練習	〃			
	12	進度別課題⑨ 〃	〃			
	13	進度別課題⑩ 八分音符を演奏する	〃			
	14	進度別課題⑪ 〃	〃			
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習					
授業の評価	「試験」：実技試験（80%） 「平常点」：課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度（20%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。</li> <li>・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、ブレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。</li> <li>・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。</li> <li>・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。</li> <li>・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。</li> <li>・日頃から、課題曲の楽譜を声に出して何度も音読みし、早く楽譜に慣れる等、譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。</li> </ul>					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ、ほか</li> <li>・『こどものうた100』小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社</li> <li>・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。</li> </ul>					
備考	池田京子・宇治田仁美・高磯八千代・福田真梨奈・藤井直子					
その他	【WizAvatar】授業の前夜やSNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽1B (20711)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照
授業の到達目標	1. 基本的な読譜力を習得している。 2. ピアノ演奏の基礎技術を習得し、へ音譜表を含んだ楽曲を演奏できる。 3. コードによる簡単な伴奏法を学習し、基本形と転回形とを用いた伴奏付けができる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学のグレードカリキュラムに従い、個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。</li> <li>・進度別グレード課題でへ音譜表を含んだ楽曲を扱い、読譜力やピアノ演奏基礎技術を獲得する。</li> <li>・コードによる伴奏法や規則的なリズム表現の技術をこどものための楽曲課題により学習する。</li> <li>・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲など、2種類以上の課題を実践、実習する。</li> <li>・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	進度別課題①	ハ長調 I、IV、Vの分散和音	伴奏付け実習：「こどものうた」		
	2	進度別課題②	バイエル47番、48番	〃		
	3	進度別課題③	バイエル50番	リズム表現実習：マーチ		
	4	進度別課題④	バイエル51番、52番	〃		
	5	進度別課題⑤	1拍目の休符の練習	リズム表現実習：任意の楽曲		
	6	進度別課題⑥	バイエル53番、54番	〃		
	7	進度別課題⑦	両手とも指を独立して動かす	伴奏付け実習：「こどものうた」		
	8	進度別課題⑧	バイエル56番、57番	〃		
	9	進度別課題⑨	3/8拍子、6/8拍子	実習に役立つ課題の演奏		
	10	進度別課題⑩	左手のへ音譜表での伴奏	〃		
	11	進度別課題⑪	音符の長さを弾き分ける	讃美歌の演奏		
	12	進度別課題⑫	ト長調の楽曲 バイエル76番	〃		
	13	進度別課題⑬	ニ長調の楽曲 バイエル75番	伴奏付けの実習：「こどものうた」		
	14	進度別課題⑭	イ長調の楽曲 バイエル79番	〃		
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習					
授業の評価	「試験」：実技試験（80%） 「平常点」：課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度（20%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。</li> <li>・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。</li> <li>・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。</li> <li>・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。</li> <li>・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。</li> <li>・日頃から、課題曲の楽譜を声に出して何度も音読みし、早く楽譜に慣れる等、譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。</li> </ul>					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムI、ほか</li> <li>・『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社</li> <li>・『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著 全音楽譜出版社</li> <li>・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。</li> </ul>					
備考	池田京子・宇治田仁美・高磯八千代・福田真梨奈・藤井直子					
その他	【オフィスアワー】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育実習指導 I (10811)	演習	1	1年次 前・後期	選択	幼児必修	山本 郁子 楯 佳子 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 幼稚園・こども園教育実習の意義と目的を理解する。 2. 教育実習に必要な知識と技術を習得する。 3. 学内の付属幼稚園にて観察実習を行い、講義で学んだ理論を観察実習にて確認し、教育・保育の基本を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得して。					
授業の概要	幼稚園・こども園教育実習の事前・事後指導を行い、教育実習の意義を理解し、実習を有意義に行うための理論と技術を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	教育実習 I の目的と意義				
	2	幼稚園教育要領 こども園教育・保育要領 保育実技(手あそび) 第1章「幼稚園教育の基本」「教育及び保育の基本」「教育課程」				
	3	" 第2章「ねらい及び内容」 保育実技(手あそび)				
	4	" 第3章「留意事項」「健康及び安全」 第4章「子育ての支援」				
	5	付属幼稚園見学 保育実技(手あそび・わらべうた)				
	6	幼稚園・こども園一日の生活の流れ 保育実技(手あそび)				
	7	教育実習個人票作成 グループワーク：保育実技(絵本の読み聞かせ)				
	8	観察実習日誌の説明 実習記録の書き方① グループワーク：保育実技(絵本の読み聞かせ)				
	9	" 実習記録の書き方② グループワーク：模擬保育				
	10	" 実習記録(エピソード記録)の書き方③ グループワーク：模擬保育				
	11	参加実習の方法と教材研究(絵本・遊び) グループワーク：模擬保育				
	12	実習オリエンテーション 教材研究(絵本・遊び)				
	13	教育実習に向けての心得とマナー				
	14	教育実習の事後報告・礼状作成				
15	自己評価と今後の課題 まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、提出物等 (60%) 「その他」：付属幼稚園での実習日誌への取組、小テスト等 (40%)					
課題(レポート等)のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。</li> <li>.</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：授業において理解出来なかった事柄については、授業中あるいは授業後に質問し、授業内容を理解すること。 レポートや、実践に役立つ手作り教材を課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目では実習に対する意欲的な姿勢、学生としての態度とマナーを重視する。</li> <li>履修登録をしても下記の場合、学外実習参加を認めないことがある。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①事前の実習指導において2回以上の欠席がある。</li> <li>②授業態度が不良である。</li> <li>③小テストの成績が著しく低い。</li> <li>④教員による会議で実習が認められないと判断されたとき。</li> </ul> </li> <li>提出物期限は厳守すること。</li> </ul>					
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 『学び続ける保育者をめざす「実習の本」』久富陽子編著 萌文書林					
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子編 わかば社					
その他	【オフィスワーカー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育原理 (20140)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	中重 直俊
授業の到達目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育の意義、目的、法令、制度について多様な角度から考える。保育所保育指針における保育の基本について学習する。保育に関する思想や歴史の変遷について学ぶ。さらに、保育の現状と課題について把握する。保育に関する幅広い視野を養い、子どもの発達にとってよりよい保育のあり方を考える。自分の意見を発表したり書いたりする機会を多く設ける。この授業を通して、保育により興味を持つことができる。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育の理念と概念				
	2	保育の社会的役割と責任				
	3	保育の制度的位置づけ				
	4	保育所保育指針に基づく保育				
	5	3歳未満児の保育（事例検討）				
	6	3歳以上児の保育（事例検討）				
	7	子育て支援と家庭との連携				
	8	保育の目標と方法				
	9	保育の計画・実践および評価				
	10	諸外国の保育の思想と歴史①（グループワーク）				
	11	諸外国の保育の思想と歴史②（グループワーク）				
	12	日本の保育の思想と歴史①（グループワーク）				
	13	日本の保育の思想と歴史②（グループワーク）				
	14	諸外国の保育の現状と課題				
15	日本の保育の現状と課題					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：グループワーク課題（50%）・レポート（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・グループワーク課題やレポート等は、コメントをつけて返却する。 ・授業内容に関する質問は、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：事前に指定された資料やテキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容についてまとめること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	予習・復習を行い、自分なりの保育観について考えていくようにすること。					
テキスト	『基本保育シリーズ1保育原理（第2版）』『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会福祉 (20140)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 現代社会における社会福祉の意義・理念・歴史の変遷・対象に関する知識を習得する。 2. 社会福祉の各領域についての法制度・実施体系等について理解する。 3. 保育士として社会福祉における相談援助・利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会福祉の原理・原則を理解し、現代社会における社会福祉の施策と動向及び必要性と今後の課題について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	現代社会における社会福祉の概念				
	2	欧米の社会福祉の歴史的変遷				
	3	日本の社会福祉の歴史的展開				
	4	社会福祉の原理と社会保障				
	5	生活保護制度				
	6	社会福祉サービスの概要と専門職				
	7	社会福祉専門職の専門性と倫理				
	8	社会福祉の法体系・制度				
	9	ソーシャルワークの意義と内容①保育士と社会福祉の関係性～社会福祉法制度上から見た保育士の立ち位置へ～				
	10	ソーシャルワークの意義と内容②社会福祉と保育士の関連性から見た相談援助（グループワーク）				
	11	現代社会における児童福祉の施策と課題				
	12	現代社会における障害福祉の施策と課題				
	13	現代社会における高齢者福祉の施策と課題				
	14	保育士としての権利擁護と苦情解決、利用者保護				
15	まとめ、ふりかえり（グループワーク）					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	専門職者を目指す者として自覚して受講すること。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。 授業内容に関する質問、疑問は積極的にしていただきたい。					
テキスト	・『保育と社会福祉』橋本好市・宮田徹 編 みらい出版 ・『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい出版（既に持っているものでよい）					
参考書	・『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田句哉 編 萌文書林 ・『障害者への支援と障害者自立支援制度』相澤譲治・橋本好市・直島正樹 編 みらい出版 その他、必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オフィスワーカー】当該講義日の昼休み					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭福祉 (20411)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	濱田 敏子 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開について理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもの権利を守るために必要なものはゆるぎない人権意識である。その基盤となる知識や見識を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	子ども家庭の福祉				
	3	子ども家庭福祉の歴史				
	4	子ども家庭福祉の制度と法律				
	5	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 ①				
	6	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 ②				
	7	児童福祉施設の現状 グループワーク				
	8	少子化と子育て家庭へのサービス				
	9	様々な保育サービス グループワーク				
	10	ひとり親家庭の福祉サービス				
	11	子育て支援と子どもに関する諸問題				
	12	子どもの貧困と対策				
	13	地域における連携・協働とネットワーク				
	14	これからの子ども家庭福祉を考える				
15	まとめ グループワーク					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、提出物など（20%） 「その他」：授業内課題・小テスト（80%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	教科書の内容プラス現在の社会状況と加味して子ども家庭福祉に関する学びを行えるように実施する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を読み、ニュースに関心を持つこと。</li> <li>積極的に発言すること</li> </ul>					
テキスト	『図解で学ぶ保育「子ども家庭福祉」』直島正樹・河野清志編著 萌文書林					
参考書	『基本保育データブック2021』全国保育士養成協議会 監修 中央法規 『子ども家庭福祉』新保幸雄・小林理 著 中央法規					
その他	【Wiisアワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会的養護 I (20510)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 社会的養護における原理・原則について理解する。 2. 社会的養護の先人の知恵、努力、功績に関する知識を獲得する。 3. 社会的養護の学問を基礎とした自らの考える力を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会的養護の原理・原則を理解し、現代社会における社会的養護の施策と動向、および必要性和今後の課題について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	社会的養護とは何か				
	2	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利				
	3	社会的養護の仕組み				
	4	社会的養護に関する法制度～児童福祉法、措置制度、利用・契約制度について～				
	5	社会的養護の歴史の変遷について				
	6	施設養護①～児童養護施設、乳児院について～				
	7	施設養護②～児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設について～				
	8	施設養護③～障害児施設について～				
	9	施設における支援の実際～社会的養護にかかわる専門職～				
	10	施設養護における現場実践について（グループワーク）				
	11	家庭養護～里親、ファミリーホーム、養子縁組について～				
	12	家庭養護における実践について（グループワーク）				
	13	被措置児童等虐待の現状について～社会的養護の課題～				
	14	施設運営管理について～第三者評価、施設最低基準～				
15	まとめ、振り返り					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付けて返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	専門職者を目指す者として自覚して受講すること。授業内容に関する質問、疑問は積極的にしていただきたい。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。					
テキスト	・『演習・保育と社会的養護実践』—社会的養護Ⅱ— 橋本好市・原田句哉 編（株）みらい ・『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい出版					
参考書	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田句哉・杉山宗尚 編 萌文書林 その他、必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オプスワーカー】当該講義日の昼休み					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援の心理学 (20211)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎知識や発達課題等について理解する。 2. 各発達時期の課題や移行を理解した上で、子どもの精神保健について理解する。 3. 家族や家庭の意義や機能を理解した上で、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	人間の生涯発達に関する心理学の基礎知識の理解を深め、子どもや保護者、家庭と向き合う際に基本姿勢であるカウンセリングマインドを活かした実践的な教育・保育等について具体例を踏まえて学習する。また、今日の家族・家庭の意義や機能を考えながら、子育て家庭をめぐる現状と課題について解説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	生涯発達とは何か				
	2	乳幼児期から学童期前期にかけての発達				
	3	学童期後期から青年期にかけての発達				
	4	成人期・老年期における発達				
	5	子育てを取り巻く社会的状況				
	6	家族・家庭の意義と機能～多様な家庭形態の理解～				
	7	親子・家族関係の理解と心理的視点				
	8	子育ての経験と親としての育ち				
	9	多様な家庭形態とその理解				
	10	特別な配慮を必要とする家庭				
	11	発達支援の必要な子どもがいる家庭				
	12	子どもの精神保健①(乳児期に見られる行動理解)				
	13	子どもの精神保健②(幼児期に見られる行動理解)				
	14	学童期以降の精神保健(精神疾患の理解)				
	15	子どもの心の健康(子どもの生活環境や生育歴)とまとめ				
授業の評価	「試験」：筆記試験 (60%) 「平常点」：授業態度、講義ノート(20%) 「その他」：レポート等提出物 (20%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習( 135 分) 事後学習( 135 分)					
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、生涯発達や現代の家族や家庭について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。					
テキスト	『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』 青木紀久代 編 (株)みらい					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【オプショナル】講義日のお昼休み。					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの食と栄養 (20310)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格必修	橋本 賢
授業の到達目標	1. 食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達との関連について理解を深める。 2. 保育における食育の基本と内容および実施環境を理解し、協働者との連携の重要性を理解する。 3. アレルギーを含む病児に対して栄養学的なアプローチをする能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	基礎的な栄養学をもとにライフステージ別の栄養代謝を把握し、食と栄養に関する現状および問題点を見出す。調乳、離乳食および幼児食の提供を行う栄養士の業務を紹介し、連携をとれるような食育計画を立案する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子どもの食生活の現状と課題、望まれる食生活について；子どもの健康な食生活				
	2	栄養と栄養素の働き；栄養学の学問について				
	3	三大熱要素（糖質・脂質・たんぱく質）の機能と役割；食育に必要な基礎栄養学				
	4	ビタミン、ミネラルの機能と役割；食育に必要な基礎栄養学				
	5	栄養素の消化と吸収；食育に必要な基礎栄養学				
	6	健全な児を育むための食と栄養について；妊娠授乳期の栄養				
	7	新生児期・乳児期の栄養について				
	8	母乳、育児乳とその調整方法、離乳食について；乳児期の食事（乳汁、離乳）				
	9	幼児期の食事の意義；幼児期の食事と栄養				
	10	保育所、幼稚園、学校給食と食育について				
	11	施設ごとの食育活動と協働連携について；食育活動				
	12	食育授業を考える（食育計画の立案：グループ学習）				
	13	食育プレゼンテーション（プレゼンテーション）				
	14	アレルギー児に対する栄養				
15	先天性疾患、障がい児、病児に対する栄養					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：受講態度（30%） 「その他」：レポートおよび課題（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	学修内容によってレポートを課す。レポートの内容に不備があれば修正を含む再提出を求めることがある。再提出の内容も含めて総合的に評価し、その他の評価点とする。 評価後のレポートはコメントを付して返却し、復習に活用できるようにする。 授業内容やレポート共通の質問は授業内で全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	日頃から栄養、食についての情報収集を心がけ、質問に対して十分に回答できるようにしておくこと。 個別の情報収集や学修内容を元に、グループで食育を考えてプレゼンテーションを課します。 多職種連携に携わる保育者としての積極性と協調性をもって取り組んでください。 10回以上の出席がないと、定期試験受験資格を失い、成績評価対象から除外されます。					
テキスト	プリント配布 『子どもの食と栄養』岡崎光子 編著 子どもの食と栄養 光生館					
参考書	『子どもの食と栄養 改訂第2版』 水野清子ら編著 診断と治療社					
その他	【Wi-Fi授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育 I (20650)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格必修	中尾 博美
授業の到達目標	1. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協同及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	人格の基礎が形成される時期に、環境と体験の相互作用を通して、豊かな心情・意欲・態度を育てる保育者の具体的な関わりと、養護と教育について学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	乳児保育の意義と歴史				
	2	子どもと家庭を取り巻く現状と課題				
	3	0歳児の身体機能の発達と保育（1）				
	4	0歳児の身体機能の発達と保育（2）				
	5	1歳児の発育・発達を踏まえた保育				
	6	2歳児の発育・発達を踏まえた保育				
	7	自己肯定感を育む保育				
	8	自我の芽生えと自律を支える保育				
	9	手指の機能・事物の操作の発達と保育				
	10	3歳未満児の保育における配慮				
	11	3歳未満児の発達にふさわしい教材の研究（プレゼンテーション）				
	12	あやし遊び、わらべ歌遊びの実際（グループワーク）				
	13	乳児保育における計画・記録・評価				
	14	乳児保育と保育士の専門性				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：最終レポート（50%） 提出物（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・提出されたレポートについては、個別または授業の中でコメントする。 ・授業内容に関する質問は個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：電車の中や買い物などで出会う乳幼児の観察をして記録したり、社会の情勢と乳児の置かれている状況に関心をもって新聞記事に目を通したりすること。 復習：テキストや配布プリントを通読し各回の授業の内容を理解しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	分からないことはその場で質問し、積極的に授業に参加すること。					
テキスト	『乳児の生活と保育』 松本園子編著 ななみ書房 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
参考書	授業の中で紹介する。					
その他	【Wi-Fiあり】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会的養護Ⅱ (20511)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 社会的養護の基礎知識を深め、現状を把握する。 2. 児童養護の現場の実状を知り、具体的な支援の方法を学ぶ。 3. 保育所以外の児童福祉施設等での保育士の働きを知り、保育者として多様性のある実践力を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会的養護の具体的な実践について理解し、事例をもとに保育者に求められる役割について考える。施設養護や家庭養護の実践、日常生活支援、治療的支援、自立支援等について学び、子どもの福祉にかかわる実践力を身につける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み				
	2	社旗的養護を必要とする子どもの理解と権利				
	3	社会的養護にかかわる保育士の役割				
	4	保育士の倫理および責務				
	5	保育士の専門性				
	6	施設における支援の実際①～アドミッションケアについて～				
	7	施設における支援の実際②～インケアについて～				
	8	施設における支援の実際③～リビングケア・アフターケアについて～				
	9	社会的養護にかかわる相談支援①～家庭・家族への支援～				
	10	社会的養護にかかわる相談支援②～里親への支援・自立支援について～				
	11	記録および評価①～社会的養護実践における記録～				
	12	記録および評価②～社会的養護実践における評価～				
	13	記録および評価③～事例から学ぶ～				
	14	ケーススタディ～具体的なケースから学ぶ～（グループワーク）				
15	まとめ・振り返り					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60％） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20％） 「その他」：レポート等提出物（20％）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、子育て支援の現状や課題、実習先などで取り組まれている子育て支援について関心をもち、目頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。					
テキスト	『演習・保育と社会的養護実践』—社会的養護Ⅱ— 橋本好市・原田句哉 編（株）みらい					
参考書	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田句哉・杉山宗尚 編 萌文書林 その他、必要に応じて随時紹介する。					
その他	【7/15/17】当該講義日の昼休み					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽 I A (20710)	演習	1	1年次 前期	選択	保育士資格必修	松本 温子
授業の到達目標	1. 基礎的な音楽理論を理解し、活用する事が出来る。 2. 基本的な発声を身につけ、豊かな歌唱・弾き歌いが出来る。 3. 合唱を通して、声を合わせて表現する事を体験し、同時に、表現力、聴き合える耳を養う。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	「保育の上で、音楽（音楽理論の修得、歌う、演奏する、聴き合う、表現する）の担う力は非常に大きい」という事を理解し、その技術や知識を高め、保育者としての学びと心を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業内容・基本理念／オリエンテーション（幼児音楽 I における“自己目標”を掲げる）				
	2	歌唱姿勢・呼吸法／譜表・階名				
	3	発声法・譜表・音名／弾き歌い準備				
	4	音符・休符／弾き歌い				
	5	コードネーム／弾き歌い（“春のうた”を中心に）				
	6	拍子記号・変化記号／弾き歌い				
	7	調号／弾き歌い				
	8	合唱／全音・半音／弾き歌い				
	9	合唱／音階／弾き歌い（“夏のうた”を中心に）				
	10	音階／弾き歌い				
	11	音程／弾き歌い				
	12	プレゼンテーション：「“自己目標”に対するの評価、改善点、新たな目標など」 ／音程／弾き歌い				
	13	歌唱まとめ（独唱）／弾き歌い				
	14	弾き歌いまとめ（独奏）／音楽理論まとめ				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」：音楽理論筆記試験、実技試験（60%） 「平常点」：授業態度（30%） 「その他」：提出物など（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート、提出物等の課題は、押印やコメントなどを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：次回授業で使用する教材（プリント、「子どものうた100」）箇所をよく読み解き、概要を把握しておくこと。 復習：各回に覚えた授業内容をより深く理解するよう、教材（プリント、「子どものうた100」）を見直しておくこと。レポート提出を課することがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	“幼児音楽 I”での主たる内容“音楽理論”に真剣に取り組み、学習し、理解すること。 歌唱、及び、弾き歌いの練習に十分励むこと。出席状況、授業態度を重視する。 意欲的な姿勢で授業に取り組み、教材などの準備物を忘れないこと。					
テキスト	『子どものうた100』 小林美実 監修 チャイルド本社 ・教材プリント配布(1年を通して使用)					
参考書	授業の際、必要に応じ、プリント配布					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽 I B (20710)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格必修	松本 温子
授業の到達目標	1. 幼児音楽 I Aでの学習の上に、さらに、基礎的な音楽理論の理解を深め活用する事が出来る。 2. 基本的な発声を身につけ、豊かな歌唱・弾き歌いが出来る。 3. 弾き歌いでは、表情豊かに歌いながら伴奏が出来る技術を習得する。 4. 器楽合奏を通して、楽器の扱いや奏法を習得し、音色を楽しみながら音楽表現を行う。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児音楽 I Aで学習・習得した知識や経験を踏まえて、さらに、その技術や知識を高め、保育者としての学びと心を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	前期学習の復習と確認/幼児音楽 I Bにおける“自己目標”を掲げる/弾き歌い				
	2	コードの転回形/弾き歌い (“秋のうた”を中心に)				
	3	ハ長調 音階・カデンツ/弾き歌い				
	4	へ長調 音階・カデンツ/弾き歌い				
	5	ト長調 音階・カデンツ/弾き歌い				
	6	各調 音階・カデンツ/弾き歌い				
	7	属7和音/弾き歌い (“冬のうた”を中心に)				
	8	属7和音・メジャーコード・マイナーコード/弾き歌い				
	9	移調/弾き歌い				
	10	伴奏付け (ハ長調) /器楽合奏・説明				
	11	伴奏付け (へ長調) /器楽合奏				
	12	プレゼンテーション: 「“自己目標” に対するの評価、改善点、新たな目標など」 /伴奏付け (ト長調)				
	13	反復記号・強弱記号/歌唱まとめ (独唱)				
	14	弾き歌いまとめ (独奏) /音楽理論まとめ				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」: 実技試験、音楽理論筆記試験 (60%) 「平常点」: 授業態度 (30%) 「その他」: 提出物など (10%)					
課題 (レポート等) のフィードバック	・レポート、提出物等の課題は、押印やコメントなどを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習: 次回授業で使用する教材 (プリント、「子どものうた100」) 箇所をよく読み解き、概要を把握しておくこと。 復習: 各回に覚えた授業内容をより深く理解するよう、教材 (プリント、「子どものうた100」) を見直しておくこと。レポート提出を課することがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 45分 ) 事後学習 ( 45分 )					
履修上の注意	“幼児音楽 I” での主たる内容 “音楽理論” に真剣に取り組み、学習し、理解すること。 歌唱、及び、弾き歌いの練習に十分励むこと。出席状況、授業態度を重視する。 意欲的な姿勢で授業に取り組み、教材などの準備物を忘れないこと。					
テキスト	『子どものうた100』 小林美実 監修 チャイルド本社 ・音楽理論 教材プリント配布 (1年を通して使用)					
参考書	授業の際、必要に応じ、プリント配布					
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導ⅠA (20821)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員) 川島 直子 松本 恭子
授業の到達目標	1. 保育所の内容や機能、保育士の仕事について理解する。 2. 保育実習では保育理論と実践の統合を図り、保育を総合的に理解し、保育士としての専門性を具体的に学び、現場での体験を通して理解する。 3. 保育実習Ⅱに向け自己課題を明確にする。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	保育者になるための基本的な知識を身につけ、実習の意義や実習施設について確認・理解をする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	実習Ⅰについて	実習の目的と意義			
	2	保育所実習について	保育所実習の目的と意義 ビデオ視聴 課題作成 (1) 保育実技・絵本			
	3	保育実習の具体的内容	課題作成 (2) 保育実技・手遊び			
	4	保育実習事前指導	個人票作成 1			
	5	〃	個人票作成 2 保育所生活1日の流れを把握する(乳児) 実習記録の書き方(1)			
	6	〃	オリエンテーションについて(1)			
	7	〃	オリエンテーションの日程を決める(グループワーク)			
	8	〃	保育所生活1日の流れを把握する(幼児) 実習記録の書き方(2)			
	9	〃	実習記録の書き方(3) 研究保育案(1)			
	10	〃	実習先での立ち居振る舞いについて 守秘義務について 研究保育案(2) (グループワーク)			
	11	〃	自己紹介(1) 学校への緊急連絡について			
	12	〃	行き帰りの服装について			
	13	〃	保育実習に臨むために(心構え、服装、身だしなみ、持ち物確認) 実習要項確認(グループワーク)			
	14	事後実習指導	実習先へのお礼状			
15	まとめ	保育実習の反省と課題				
授業の評価	「試験」: 「平常点」: 授業態度、提出物など(60%) 「その他」: 実習評価、実習や実習日誌への取組みなど(40%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	保育実習にかかわる準備(教材作り等)を行うこと。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としての行動とマナー」を要求する。 履修登録をしていても、学外実習参加を認めない場合がある。 ①授業態度が不良である。②授業において課された課題を提出しない場合。 ③授業において出された指示・指導に従わない場合。 ④教員による会議で実習が認められないと判断された場合。 ⑤事前実習指導欠席2回以上の場合。 実習の評価と授業評価とを、総合的に評価する。					
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』生活技術教育研究会編 ななみ書房 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』駒井美智子 萌文書林					
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』守巧・小櫃智子 著 わかば社					
その他	【WiSアワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導ⅠB (20831)	演習	1	1年次後期 2年次前期	選択	保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員) 川島 直子
授業の到達目標	1. 福祉施設の内容や機能、また、保育士や施設教員の仕事について講義を通して学び、施設実習が円滑に実践できることを目指す。 2. 実習施設の一日の生活の流れや支援の内容を理解する。 3. 実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	意義と目的、概要、実習生に求められるものなど				
	2	福祉施設、利用者、職員の理解				
	3	DVD「施設実習の基本」				
	4	生活指導、学習指導、社会人としての常識				
	5	療育指導、自立支援				
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設				
	7	児童発達支援センター				
	8	障害者支援施設（入所更生、通所授産）				
	9	個人票作成、オリエンテーションについて				
	10	実習課題、事前確認事項				
	11	実習日誌の書き方				
	12	指導計画の書き方				
	13	実習中のケーススタディ				
	14	グループ討議、お礼状作成				
15	実習の反省とまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、課題提出（40％）、レポート（10％） 「その他」：実習態度、実習評価など（50％）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	教科書、配布プリントを通読しておくこと 授業を欠席した場合、補講を行うので手続きをしにくること					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としてのマナー」を要求する。 ①事前指導の欠席が2回以上の場合、②授業態度、出席状況が悪い場合、 ③授業において課された課題を提出しない場合、④教員による会議で実習が認められないと判断された場合、⑤小テストの成績が著しく低い場合、実習を認めない。					
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房					
参考書	『保育所保育指針』 必要に応じ配布する					
その他	【オフィスワーカー】					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
人権教育の研究 (20150)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格選択	白井 智子
授業の到達目標	1. 自身の自尊感情を見つめ、他者への思いやりを深め、人間関係を構築する能力を身につける。 2. 社会で起きている事象に関心を持ち、自分事に置き換えて考える力をつける。 3. 子どもの人権尊重やこどもへの人権教育の重要性を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識として、子どもの命や保護者との関係性などについて幅広い視野で考察する方法を身につける。また、グループワークを通してコミュニケーション能力や課題解決能力を高め、保育・教育により高い関心と知識を得る。					
授業の概要	現在起きている暮らしの中の人権にかかわる諸問題について映像や資料を通して学び、人権の意義や重要性についてグループで議論および課題を解決し、子どもの人権と保育について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業概要の説明と自己紹介				
	2	子どもの権利条約について				
	3	世界人権宣言と日本における人権課題				
	4	性的マイノリティと人権				
	5	デートDV 対等な関係の築き方を考える				
	6	障害のある人と人権				
	7	外国人と人権				
	8	インターネットと人権				
	9	SDGsからみた人権とジェンダー				
	10	絵本を使った人権教育				
	11	グループワーク				
	12	暮らしの中の人権				
	13	児童虐待 子どもの健全育成を考える				
	14	グループ発表と評価				
15	グループ発表と評価 まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：グループディスカッション、出席・授業態度・授業への参加意欲（30%） 「その他」：グループワークによる発表と授業内レポート（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：新聞などを読み、今起きている人権侵害について理解しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習しておくこと。 復習：配布プリントを通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・Wordでのレポート作成およびPPTでのプレゼンテーションができるようにしておくこと。 ・授業に積極的に参加し、必ずノートを取ることを。 ・居眠り、私語、授業に関係のない行為、許可のない携帯電話・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。 ・座席を指定する場合がある。 ・授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。					
テキスト	適宜プリントを配布する。					
参考書	授業中に提示する。					
その他	【Wi-Fiあり】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ概論 (20910)	講義	2	1年次 後期	選択	情報処理士必修	津田 敏
授業の到達目標	1. パソコンの内部3大装置及び周辺装置である入力装置・出力装置について理解する。 2. ネットワーク、Wi-Fi、スマホ通信について理解する。 3. 関連機器やソフトウェアについて理解する。					
学位授与の方針との関連	・ 教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・ 社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	パソコンの基本的知識、ネットワーク、関連機器について学び情報処理について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	〈PBL〉インターネット、IPアドレスとは				
	2	〈PBL〉ハードウェア、ソフトウェア、OSとは				
	3	〈PBL〉ビットとバイトとは				
	4	〈PBL〉ハードウェア内部構造とは				
	5	〈PBL〉CPU、メモリとは				
	6	〈PBL〉HDD、SSDとは				
	6	〈PBL〉出力装置ディスプレイ（解像度、光3原色、4K/8K）とは				
	7	〈PBL〉プリンタ（種類・接続方法・解像度・用紙）とは				
	8	〈PBL〉無線LANとは				
	9	〈PBL〉関連機器とは				
	10	〈PBL〉MNO&MVNO&SIMとは				
	11	〈PBL〉スマホ通信規格とは				
	12	〈PBL〉スマホとSNSとは①				
	13	〈PBL〉スマホとSNSとは②				
14	〈PBL〉役立つアプリと会議アプリとは					
15	〈PBL〉データ管理&セキュリティ対策					
授業の評価	「試験」：定期試験（60%） 「平均点」：小テスト4回（40%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・ 授業の4回に1度の小テストにより理解度をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・ 授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：自主学習支援としてClassroomに授業内容のまとめ問題を掲載しているので学んだ内容の理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	社会人が持つ情報処理の基礎知識として修得し、今後の社会で活かせるように取り組むこと。					
テキスト	『スマホ・パソコン活用基礎講座』 津田敏著 2021年					
参考書	『スピードマスター ITパスポート試験 テキスト&問題集 六訂版』著：ITパスポート試験教育研究会 2021年					
その他	【おしごと】 授業の前後及びGoogle Classroom					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
WORD演習 I (20920)	演習	2	1年次 前期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1. IT基礎・活用講座で習得する基礎技能を基に、より実践的な文章作成技法の習得をする。 2. WORDを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力を身につける。 3. コミュニケーションとしての文書表現力の基本を身につける。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。</li> </ul>					
授業の概要	実社会ではコミュニケーション手段の一つとしてドキュメントの果たす役割は重要である。あらゆるビジネスシーンに応じて、的確で分かり易いドキュメント作成技法の演習をする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	文書表現の概観： コミュニケーション手段としての役割、文書表現手法の概要				
	2	文書表現手法1： 情報をわかりやすく的確に伝えるための文書表現手法				
	3	文書表現手法2： ビジネス文書表現手法				
	4	文書作成とカスタマイズ： 作成および各種設定の役割と機能。文書内容の検索				
	5	文章の設定： 文字と段落の書式設定、文字列の操作、改ページ機能操作				
	6	ビジュアルコンテンツ操作1： 図の挿入、テキストボックスの利用				
	7	ビジュアルコンテンツ操作2： 図の挿入、書式設定、各種オブジェクトの利用				
	8	文書の整理： 文章の構成。表やリストによる内容整理。差込機能				
	9	書の校閲： 文書間の比較、変更履歴の管理、コメントの取扱				
	10	文書の共有と保護： 共有の概念、操作。文書セキュリティの管理				
	11	課題演習1： 必須重点事項、操作演習				
	12	課題演習2： ポイント、必須重点事項、操作演習				
	13	総合演習1： わかりやすい文章表現の工夫1 PBL<課題解決型学習>				
	14	総合演習2： わかりやすい文章表現の工夫2 PBL<課題解決型学習>				
15	総合演習3： まとめ演習					
授業の評価	「試験」：筆記試験、実技試験（60%） 「平均点」：受講態度、小テスト（20%） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。</li> <li>・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外においても継続的な練習が望ましい。</li> </ul>					
テキスト	『完全マスター Word 2016』 noa出版					
参考書	『Word 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム					
その他	【ワイスワ-】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
EXCEL演習 I (20930)	演習	2	1年次 後期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	<p>1. IT活用講座で習得した基礎技能を基に、より実践的な表計算技法の習得をする。</p> <p>2. EXCELを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力を身につける。</p> <p>3. 数値データの表現力の基本技能を身につける。</p>					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	実数値情報を含む処理（データの視覚化・蓄積管理等）は実社会においても欠かせない手法である。これらの基本概念を理解し、具体的操作方法を演習していく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	表計算機能による情報処理概観：数値情報の基本的な取扱い手法、視覚化・蓄積の重要性				
	2	データの作成と基本操作：オート機能、データの信頼性、ワークシートの管理				
	3	データ内容の書式設定：シートの書式設定、セルの取扱、テーブルの書式設定				
	4	数式の作成と編集1：ページ書式、ヘッダー・フッター、ページ区切り				
	5	数式の作成と編集2：条件付き数式でのデータ集計				
	6	数式の作成と編集3：条件付き数式でのデータ検索、文字列操作				
	7	データの視覚化1：各種グラフを使ってのデータの視覚化処理				
	8	データの視覚化2：各種オブジェクトを使って総合的な視覚化処理				
	9	データの視覚化3：各種関数を使って総合的な視覚化処理				
	10	データ共有とセキュリティ：ブックの管理、保護、共有、配布の各種機能				
	11	課題演習1：必須重点事項、操作演習				
	12	課題演習2：ポイント、必須重点事項、操作演習				
	13	総合演習1：実社会における表計算処理1 PBL<課題解決型学習>				
	14	総合演習2：実社会における表計算処理2 PBL<課題解決型学習>				
15	総合演習3：まとめ演習					
授業の評価	<p>「試験」：筆記試験、実技試験（60%）</p> <p>「平均点」：受講態度、小テスト（20%）</p> <p>「その他」：提出作品、課題レポート等（20%）</p>					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。</li> <li>復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。					
テキスト	『完全マスター Excel 2016』 noa出版					
参考書	『Excel 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム					
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理実習 I (20970)	実習	1	1年次 後期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. テキストエディタを使用してWebサイトを作成する能力を修得する。 2. Webサイトの作成をHTMLとCSSで学び、情報発信力を修得する。 3. Webサイトの作成に当たり、画像の編集や形式、パスについて学び、それらに伴う知識を修得する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	情報発信作成の基礎を身につけ社会での情報発信の在り方について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	Webサイトを制作を始める前に				
	2	制作の準備と基本のHTML				
	3	リンクと画像の挿入①				
	4	リンクと画像挿入②				
	5	2ページ以降の作成①				
	6	2ページ以降の作成② テーブル				
	7	CSSの基礎①				
	8	CSSの基礎② テキスト・フォントサイズ				
	9	CSSの基礎③ 行間の調整				
	10	フロート、テーブル、フレックスボックス				
	11	フォームの作成				
	12	自作Webサイト制作①				
	13	自作Webサイト制作②				
	14	自作Webサイト制作③				
15	自作Webサイト制作④ 発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：各回の理解度・作成度60%、自作Webサイト作成40% 計100% 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・HTML&CSSの使用タグは多くあるので基礎を修得するためのフォローする。 ・Webサイト作成におけるHTMLやCSSについての質問に個別に回答する。 ・HTMLは多々ある言語の一つで、他のWebサイトも同様にいくつかの言語で作成していることを認識する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：HTML、CSSについての用語等を調べ見ておくこと。 復習：HTML、CSSで作成した内容、ルールについて理解し対処できるようにすること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	Webサイト作成の基礎について修得し、今後就職先で貢献するとの思いで取り組むこと。					
テキスト	『スラスラわかるHTML&CSSのきほん 第2版』狩野祐東著（SBクリエイティブ）2021年					
参考書	なし					
その他	【オフィスワーカー】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
初級簿記A (21010)	演習	2	1年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 簿記の用語や企業の取引の基礎・基本について理解する。 2. 企業の日々の取引の仕訳、帳簿の記帳記入方法を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・簿記は、日常生活の家計簿から、企業の経理、そして国家予算まで幅広く用いられていることを学ぶ。 ・ビジネスの万国共通言語と言われる、簿記の基本的なルールを学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	簿記の基礎①				
	2	簿記の基礎②				
	3	商品売買① 掛け、返品				
	4	商品売買② 諸掛り、問題				
	5	現金預金① 現金、普通預金・当座預金				
	6	現金預金② 小口現金、問題				
	7	手形と電子記録債権・債務 問題				
	8	有形固定資産、商品以外の売買				
	9	手形貸付・借入、前払・前受、仮払・仮受、立替・預り等				
	10	商品券、収益・費用、消費税、株式 問題				
	11	帳簿① 仕訳帳、総勘定元帳、現金出納帳、小口現金出納帳等				
	12	帳簿② 仕入帳・売上帳、受取手形・支払手形記入帳、売掛・買掛金元帳等				
	13	帳簿③ 商品有高帳、固定資産台帳 問題				
	14	帳簿④ 問題				
15	帳簿⑤ 問題					
授業の評価	「試験」：定期試験 (60%) 「平常点」：小テスト (40%) 「その他」：					
課題 (レポート等)のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：テキストの該当箇所を通読しておく。 ・復習：新しい用語や仕訳等は、使えるようにしておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 135分 ) 事後学習 ( 135分 )					
履修上の注意	・会計特有の専門用語の意味を理解することに努める。					
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書 第9版』：滝澤ななみ著 TAC出版 2021年					
参考書						
その他	【オフィス777】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
初級簿記B (21011)	演習	2	1年次 後期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 仕訳の理解を深め、伝票と日計表の作成、試算表の作成を学ぶ。 2. 試算表から損益計算書・貸借対照表をまとめた精算表を作成する力をつける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・初級簿記Aに連続するもので、簿記についてさらに理解を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	試算表① 合計試算表				
	2	試算表② 残高試算表				
	3	伝票と仕訳日計表				
	4	仕訳日計表から総勘定元帳				
	5	仕訳日計表から総勘定元帳 問題				
	6	決算手続き①				
	7	決算手続き② 現金過不足、貸倒引当金				
	8	決算手続き③ 減価償却、有形固定資産売却				
	9	決算手続き④ 売上原価の算定、消費税納付額計算				
	10	決算手続き⑤ 収益の前受、費用の未払、収益の未収				
	11	決算手続き⑥ 法人税等の処理、問題				
	12	決算手続き⑦ 問題				
	13	決算手続き⑧ 問題				
	14	精算表の作成				
15	財務諸表の作成					
授業の評価	「試験」：定期試験（60%） 「平常点」：小テスト（40%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：次回の内容を読み、疑問点があれば書き出す。 ・復習：新しい勘定科目等の意味を理解するようにする。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	・会計の特殊な用語、勘定科目があるので、意味を理解するように心掛ける。					
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書 第9版』：滝澤ななみ著 TAC出版 2021年					
参考書						
その他	【Wiスター】授業の前後					

2 年 次

基 礎 教 養 科 目

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動A (10120)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	土岐 一郎
授業の到達目標	1. キリスト教的人生観、世界観、倫理観を理解して自己の人間形成に役立てる。 2. 愛と奉仕の精神を身につける。 3. チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通して建学の精神を理解する。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。</li> <li>社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。</li> </ul>					
授業の概要	チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教精神、建学の精神についての学びを深める。					
授業計画	授業内容					
	○チャペルアワーは讃美歌を歌い、聖書を読み、メッセージを聴き、お祈りをするという通常の礼拝形式で行う。					
	毎週のチャペルアワーに参加する。					
	チャペルアワーの中心は聖書に学ぶことに置かれている。講師から聖書の話やきき、讃美歌を歌い、祈りを通して、キリスト教の知識を深め、キリスト教の雰囲気にもふれる機会とする。					
	具体的にはメッセージ（説教）を通じて聖書の言葉の意味を考え、平和や、人権問題、貧困などの現代の課題等についても考える機会を持つようにする。					
	○その他のキリスト教関連行事に参加する。					
	クリスマス点灯式・・・イエスキリストの降誕にあたり、その真の意味を学ぶ。					
	クリスマス礼拝・・・イエスキリストの降誕を祝う。					
	卒業礼拝・・・本学における教育の締めくくりとして卒業式前日に行い、社会に出ていく卒業生への祝福と激励の場として礼拝をおこなう。					
	卒業式・・・卒業式に参加することを通じて、建学の精神について理解を深める。					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：チャペルや宗教活動への取り組み状況。（50%） 「その他」：感想文・報告書（毎回提出）（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャペルアワー開始まで讃美歌を練習したり、当日の聖書を読んで理解しておく。</li> <li>神を讃美し、感謝と喜びの中でキリスト教行事に出席するよう配慮する。</li> <li>チャペルを通して心に残った聖書箇所やメッセージについて記入する。</li> <li>近くにある教会に行ってみる。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	活動の参加にあたっては、私語を慎みおごそかな思いで臨むこと。					
テキスト	新共同訳聖書（日本聖書協会） 讃美歌21（日本基督教団出版局）					
参考書						
その他	【オフィスアワー】各活動の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動B (10210)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 講演会やセミナーを通して、幼児教育に関する専門性を高め、また、多様な視点を身につける。					
学位授与の方針との関連	社会人として必要な視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	通常の教科学習だけでは獲得することのできない社会人としての素養を自治会活動や講演会等の様々な活動を通して培うことを目指す。					
授業計画	授業内容					
	・新入生歓迎会における学生相互の交流を深める活動					
	・大学祭におけるグループごとの共同作業による準備、運営等の学生主体の活動					
	・幼児教育研究センター主催の講演会を通して幼児教育についての学びを深めるための活動					
	・各種セミナーを通して一般常識を身につけるための活動					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	「試験」： ( % ) 「平常点」：活動への取り組み状況 ( 50% ) 「その他」：活動報告書 ( 50% )					
事前・事後の学習等の内容	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 45分 ) 事後学習 ( 45分 )					
履修上の注意	活動には積極的に取りくむこと。					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスワーカー】各活動の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本語表現Ⅱ (10311)	演習	1	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田 由加子 白井 智子
授業の到達目標	1. 日本語表現を幅広く深く理解する。 2. 保育者、そして社会人としての人間力を身につける。 3. 自己表現する力を獲得する。 4. 論文作成や文献検索等に使用できるICT能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	・ 教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・ 社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	1. 学びを通してコミュニケーション能力やプレゼンテーション力を高める。 2. 関心を持つテーマを取り上げ、論文としてまとめる。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	教育時事問題に関する口頭発表と討議①				
	3	教育時事問題に関する口頭発表と討議②				
	4	教育時事問題に関する口頭発表と討議③				
	5	卒業論文作成についての説明				
	6	卒業論文の題材・骨子の作成（担当者からの助言）				
	7	ICTを使用した文献検索について				
	8	論文作成の形式についての説明				
	9	卒業論文の原稿作成①（担当者からの助言）				
	10	卒業論文の原稿作成②（担当者からの助言）				
	11	卒業論文の原稿作成③（担当者からの助言）				
	12	卒業論文の仕上げ（最終点検）				
	13	卒業論文のまとめ（卒業論文報告会の準備）				
	14	卒業論文報告会①				
15	卒業論文報告会②					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（30%） 「その他」：授業内課題（50%）・提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・ 卒業論文の原稿を添削し返却、そして、修正後に再提出する。 ・ 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：論文作成にあたり、取り上げるテーマの資料の収集を行う。 復習：授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45分）					
履修上の注意	本科目は卒業論文の作成を最終目的の一つとしているので、自主的、自発的に取り組むこと。					
テキスト	適宜プリント配付					
参考書	授業内で紹介する					
その他	【オフィスアワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会人基礎講座 (10240)	演習	2	2年次 前期	選択	保育士資格選択 情報処理士選択	正中 千穂
授業の到達目標	1. 社会人と学生の違いを理解する。 2. 基本的な大人としてのマナーを知る。 3. 基本的なマナーを実践する。					
学位授与の方針との関連	社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	社会人としての礼法、(挨拶、言葉遣い、来客対応など)と伝統文化を演習形式で伝える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	社会人と学生の違い				
	2	言葉遣い				
	3	メール・はがき・手紙				
	4	生活に季節感をとり入れる				
	5	花束をもらおう				
	6	挨拶の仕方(プレゼンテーション)				
	7	身だしなみ				
	8	生活のマナー				
	9	コミュニケーション				
	10	利休居士七ヶ条に学ぶ				
	11	手紙の書き方				
	12	おいしくお茶を入れましょう				
	13	正しい席順				
	14	食事の作法				
15	人前での話し方(プレゼンテーション)					
授業の評価	「試験」:実技試験、筆記試験(50%) 「平常点」:小テスト、レポート(50%) 「その他」:( )%					
課題(レポート等)のフィードバック	レポートはコメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習:事前にテーマに関する内容について調べておくこと。 復習:授業内容を振り返るとともに、レポートに書かれたコメントをみて理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	演習で習ったことを日常の生活に取り入れて実践すること。					
テキスト	テキストは使用しない。					
参考書						
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅡ (保育) (10511-1)	講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. 保育についての理解を深め、保育者としての豊かな資質能力を醸成する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成し、より良い保育者としての自立を促す。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」				
	2	社会人として生きる意味について				
	3	保育の現状と課題				
	4	雇用情勢と経済				
	5	自分を知る「自己認知と適性」				
	6	実習に際して「心構えと礼状等の書き方」				
	7	就職活動①「自己PRシートを書こう」				
	8	就職活動②「履歴書を書こう①」				
	9	就職活動③「履歴書を書こう②」				
	10	就職活動④「面接練習」：グループワーク				
	11	就職活動⑤「電話対応について」：グループワーク				
	12	就職活動⑥「求人票の見方、園選びについて、見学依頼の仕方」				
	13	知っておこう！働くときのルールと権利				
	14	学習の振り返りと「まとめ」振り返りカードを使って				
15	就職内定までの道のり再確認					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、意欲など（20%） 「その他」：講義ノート・提出物（20%）、レポート（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。					
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。					
参考書	実践キャリア考（実教出版）					
その他	【Wi-Fi】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅡ (ライフ) (10511-2)	講義	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. ライフキャリアからワークキャリアへの見通しが持てる力を育む。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」				
	2	社会人として生きるために①「働く意味」				
	3	社会人として生きるために②「自己理解」				
	4	社会人として生きるために③「進路理解」				
	5	雇用情勢と経済				
	6	就職活動①「エントリーシートを書こう」				
	7	就活活動②「履歴書を書こう①」				
	8	就職活動③「履歴書を書こう②」				
	9	就職活動④「面接練習」 : グループワーク				
	10	就職活動⑤「ハローワークの活用方法」				
	11	就職活動⑥「自己適性と職種の決定」				
	12	社会人として活躍するために①「接遇・マナー等」				
	13	社会人として活躍するために②「電話のかけ方・マナー等」 : グループワーク				
	14	社会人になるあなたに「環境の変化への対応について」				
15	学習の振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」 「平常点」: 授業態度、意欲など (20%) 「その他」: 講義ノート・提出物 (20%)、レポート (60%)					
課題 (レポート等) のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。					
事前・事後の学習等の内容	予習: 配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習: 返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 135 分) 事後学習 ( 135 分)					
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。					
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。					
参考書	実践キャリア考 (実教出版)					
その他	【7/15アワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
インターンシップ I (10520)	実習	2	2年次 前期	選択	情報処理士必修	谷本 章三
授業の到達目標	1. 自己分析と働く意義を理解する。 2. 就業体験を通じて職業能力と自己の現在の能力について理解する。 3. 就職体験から学び得たことをまとめ分析ができる能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	インターンシップの目的や意義、課題を理解認識し、就業体験に臨み、現在の自己能力について考え、今後の学び方について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	インターンシップを考える①就きたい仕事の具体化と働く意義				
	2	インターンシップを考える②インターンシップの目的と課題				
	3	インターンシップを考える③インターンシップ先の企業研究				
	4	インターンシップの実践 臨地就業体験				
	5	〃				
	6	〃				
	7	〃				
	8	〃				
	9	〃				
	10	〃				
	11	〃				
	12	〃				
	13	〃				
	14	〃				
15	インターンシップ体験発表 体験発表と今後についての意見交換					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：授業意見発表30点、インターンシップ先評価70点 計100点					
課題（レポート等）のフィードバック	各テーマについての考えがまとまるようにアドバイスをする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：各テーマの内容について考え授業に臨むこと。 復習：授業で考えまとめたことの修正、不足を補いながら再度考えること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	社会人に求められる能力にコミュニケーション能力や課題発見・解決能力がある。 問題や気づいたことについて考え調べ分析解決が出来る力が身につくように授業に臨むこと。					
テキスト	指定なし					
参考書	『インターンシップ』 マイナビ 2020年度版					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
インターンシップⅡ (10521)	実習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 自己分析と働く意義を理解する。 2. 就業体験を通じて職業能力と自己の現在の能力について理解する。 3. 就職体験から学び得たことをまとめ分析ができる能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	インターンシップの目的や意義、課題を理解認識し、就業体験に臨み、現在の自己能力について考え、今後の学び方について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	インターンシップを考える①就きたい仕事の具体化と働く意義				
	2	インターンシップを考える②インターンシップの目的と課題				
	3	インターンシップを考える③インターンシップ先の企業研究				
	4	インターンシップの実践 臨地就業体験				
	5	〃				
	6	〃				
	7	〃				
	8	〃				
	9	〃				
	10	〃				
	11	〃				
	12	〃				
	13	〃				
	14	〃				
15	インターンシップ体験発表 体験発表と今後についての意見交換					
授業の評価	「試験」： 「平均点」： 「その他」：授業意見発表30点、インターンシップ先評価70点 計100点					
課題（レポート等）のフィードバック	各テーマについての考えがまとまるようにアドバイスをします。					
事前・事後の学習等の内容	予習：各テーマの内容について考え授業に臨むこと。 復習：授業で考えまとめたことの修正、不足を補いながら再度考えること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	社会人に求められる能力にコミュニケーション能力や課題発見・解決能力がある。 問題や気づいたことについて考え調べ分析解決が出来る力が身につくように授業に臨むこと。					
テキスト	指定なし					
参考書	『インターンシップ』 マイナビ 2020年度版					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教保育 (10110)	講義	2	2年次 後期	選択	保育士資格選択	坂牛 裕
授業の到達目標	1. キリスト教の考え方を知り、それに基づいた保育実践を行える 2. キリスト教のメッセージを通して、良い物事の捉え方を身につける 3. お祈りやクリスマスの行事の意味を知る					
学位授与の方針との関連	キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。					
授業の概要	毎回、テーマを設定し、メッセージを聴き、レポートを作成し、提出する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・アンケート				レポート1
	2	信じること 望むこと 愛すること 忍ぶこと				レポート2
	3	保育者(大人)の役割と目標 教育保育の考え方				レポート3
	4	子どもの主体性の育て方1(食事・睡眠) メリハリ				レポート4
	5	子どもの主体性の育て方2(着脱・排泄) 発達段階				レポート5
	6	子どもの主体性の育て方3(手洗・片付) 保育者の態度				レポート6
	7	子どもの可能性を引き出す環境づくり 遊びの作り方				レポート7
	8	優しい子・気の利く子に育てるには?(ステレオタイプの脅威)				レポート8
	9	しつけとは(愛と教育) なぜ子どもを叩いてはいけないのか				レポート9
	10	良い保育者とは(ブレインストーミング・KJ法)				レポート10
	11	お祈りの意味 キリスト教行事の実際				レポート11
	12	保護者との向き合い方 1分間スピーチ				レポート12
	13	トラブルをどう考えるか 1分間スピーチ				レポート13
	14	奉仕の精神 同僚・上司との関係 1分間スピーチ				レポート14
15	まとめ 1分間スピーチ				レポート15	
授業の評価	「平常点」: 毎回のレポートの評価の積み重ねで点数評価する(60%) 「その他」: 出席、授業態度、授業への参加意欲を評価する(40%)					
課題(レポート等)のフィードバック	上記、「平常点」(レポート)及び「その他」をそれぞれ3段階評価(A・B・C)。 レポートはテーマに対する理解度のチェックを行った上、返却していく。 必要に応じて個別の回答を行い、理解を深める方法とする。					
事前・事後の学習等の内容	返却するレポートの積み重ねをノートとして扱う。 準備学習は、図書館の活用を奨めるため、随時、参考文献を紹介する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 事前学習( 135 分) 事後学習( 135 分)					
履修上の注意	座席は担当者が指定する席とする。指定席は必要に応じて変更することがある。 私語等、授業の障害となる場合には平常点を与えない。 授業態度・参加意欲を重視する。 授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。					
テキスト	テキストは使用せず、毎回、テーマに添ったプリントを配布し、それをテキストとする					
参考書	「聖書」(新共同訳 日本聖書協会)					
その他	【オプスワー】 授業の前後を積極的に活用してほしい。体験として聖パウロこども園の見学を奨励する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
生活経済 (10230)	講義	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 社会人としての経済観念を身につける。 2. 正規・非正規雇用の違い、基本的な税について理解する。 3. 家庭生活に必要な費用・経費、自動車・住宅ローン購入について理解し表計算ソフトで算出ができるようにする。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	労働者の所得や税、生活費等についての理解を深め、社会人としての生活の在り方を考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	初任給はどれくらいか(学歴差・性差・地域差・職歴差等から考える)				
	2	生活最低必要経費はどれくらい必要か				
	3	贅沢品等購入費はどれくらい使うか				
	4	自動車の購入費用や維持費はどのくらい掛かるか				
	5	住宅の購入(ローン購入)はどのくらい掛かるか				
	6	税金にはどのような種類があるか				
	7	年間に納める税金はどのくらいか				
	8	子育てに掛かる費用(出産から卒業まで)はどのくらいか				
	9	定年後の生活費はどれくらいか				
	10	正規雇用と非正規雇用の違いは				
	11	正規雇用と非正規雇用の所得差はどれくらいか				
	12	家計簿をつけるのはなぜか、必要か				
	13	家計簿を作る①				
	14	家計簿を作る②				
15	生活経済で学んだ総まとめ					
授業の評価	「試験」: 「平均点」: テーマごとのまとめと感想 2点×15コマ(30%)、取組・理解・まとめ(70%) 「その他」:					
課題(レポート等)のフィードバック	・感想文についてはコメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	事前: ・自主学習支援としてGoogle Classroomに授業で使用する資料等を掲載するので学ぶ(学んだ)内容の理解を深める。 ・日頃から金銭感覚を持った生活を心掛けること。 事後: 授業でまとめたものを見返し、今後の生活に生かせる工夫をする。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習( 135 分) 事後学習( 135 分)					
履修上の注意	社会人に求められる能力に経済観念がある。経済観念を持った考えや行動が身につくように臨むこと。					
テキスト	指定なし					
参考書	『くらしとお金のワークブック』日本FP協会					
その他	【ワイスター】授業の前後及びGoogle Classroom					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ボランティア活動 (10250)	実習	1	1年次通期 2年次通期	選択	保育士資格選択	谷本 章三 山本 郁子
授業の到達目標	1. 自己の人間性や専門性を見つめ、人のために何ができるかの気づき実践できる力を高める。 2. 「感じ」「考え」「行動できる」力を豊かに育み、与えるものより与えられるものの大きさを感じられるようになる。 3. ボランティア活動を通して、人として社会人として自己の人生を豊かなものにしていく。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。</li> <li>・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。</li> </ul>					
授業の概要	自発的な意思により、人や社会と関わることを通して自己の再発見や自己実現の中で社会貢献をしていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「ボランティアの基本原則と年間計画等について」（講義）				
	2	基本原則・自主性・主体性に基づく活動				
	3	・社会性、連帯性のある活動				
	4	・無償性、無給性に基づく活動				
	5	・創造性・開拓性・先駆性のある活動				
	6	自己のボランティア活動スタイルの確認（何時・何処で・どれくらいの頻度で参加できるか）				
	7	・自己の特技や能力の活用				
	8	・何処（場所）に参加したいか				
	9	ボランティア活動の心構えと自己評価				
	10	・守秘義務の確認 ・自己の行動、言動には責任を持つ				
	11	・PDCAサイクルの実践を心掛ける ・相手や仲間の立場、考え方を尊重する				
	12	・一人で抱え込むのではなく、みんなで仕事を分担する				
	13	・常に自分の行動を振り返りながら、生き生きと楽しんで活動する				
	14	レポート提出（活動記録用紙、確認表をもとに）※所定の用紙に事業所から確認印をもらう				
15	まとめ（所定の用紙に活動の振り返りを記入し、担当者に提出する）					
授業の評価	「平常点」：ボランティア活動の活動時間、意欲、態度等（70%） 「その他」：提出物（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	各自が実施したボランティアの内容の活動記録用紙を担当者がチェックの上、アドバイスを行うので、それをもとに常に自己評価し、次の活動に生かすこと。					
事前・事後の学習等の内容	予習：ボランティア活動先の業務内容を事前に把握し、活動内容や活動場所を確認しておく。 また、実習先から喜んでもらえるようにするには何をすべきか常に考えておく。 復習：自分の実習先での行動を振り返り、反省点を次回に生かす。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	原則、各自がボランティア活動場所を開拓し自ら参加し活動を行うこと。担当者から活動場所を紹介することもある。実習時間は、合計40時間以上で単位認定を行う。（単位認定は、卒業年度の後期に行う）2年間（長期履修者は3年間）の在学中に活動参加をすること。					
テキスト	講義ごとに資料を配布する。					
参考書	自治体等の発行するボランティア通信等					
その他	【オフィスアワー】 随時					

2 年 次

専 門 科 目

専  
門  
科  
目

2年次

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育原理 (20230)	講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	崎浜 聡
授業の到達目標	1. 家庭並びに学校・社会で受けた「教育」を振り返り、教育に関する知識を深めることができる。 2. 教育の「必要性」、「可能性」について、既存の様々な教育の理論と実践から理解できる。 3. 教育の原理論を通じて、「教育を受ける側」から「教育を行う側」の「視点（教育観）」へと転換できる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	教育原論とは、①なぜ教育するのか（教育原理）、②正しい教育とは何か（教育的価値）、③どのように教育すべきか（教育方法）、④教師と生徒の望ましい関係とは（教育的関係、教育愛）、など私たちが教育するための基盤となる理論を扱う教育学であり、講義では、以上の要点を既存の理論と実践から学んでいく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 教育を原理的に理解することは				
	2	教育の原理				
	3	教育の目的				
	4	教育の歴史				
	5	教育の思想①：ヘルバルトの近代教育学と教育的タクト論				
	6	教育の思想②：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、倉橋惣三、吉村真理子の幼児教育思想				
	7	教育の内容				
	8	教育の方法				
	9	教育の計画と評価				
	10	教育の制度				
	11	保育者になるということとは				
	12	子どもの道徳性				
	13	教育の諸問題（グループワーク）				
	14	今後の幼児教育の展望				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（10%） 「その他」：授業内課題（80%）提出物（10%） ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意						
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、資料を配布する。					
その他	【オプショナル】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「表現Ⅱ」 (20606)	演習	1	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	澁田 陽子
授業の到達目標	1. 教育現場での表現教育の目的と意義を理解する。 2. 幼児の表現を引き出す技術を獲得する。 3. 乳幼児の表現教育の指導法考案の手順を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	表現Ⅰで獲得した知識を基に、幼児の表現を引き出す技術を身につけるために自らで体験を重ねる。 それらの活動を通して、 ①乳幼児の表現を引き出す方法を学ぶ。 ②自らの感性を養う。 ③乳幼児の活動の予測や対応、助言のあり方指導上の留意点を考察する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	表現とはなんだろう				
	2	表出的表現と表現的表現				
	3	生活の中での表現活動				
	4	生活を活かした行事の中での表現活動(1)				
	5	生活を活かした行事の中での表現活動(2)				
	6	保育内容「表現」に関する指導計画(理論)				
	7	保育内容「表現」に関する指導計画(実践)				
	8	創造力を育てる表現遊び				
	9	社会性を育てる表現遊び				
	10	感覚や気づきを育てる表現遊び				
	11	身体を育てる表現遊び				
	12	心を育てる表現遊び				
	13	表現活動実践(1)				
	14	表現活動実践(2)				
15	発達への道すじと表現・本授業のまとめ					
授業の評価	「試験」: 「平常点」: 授業への取り組み方(意欲・関心・態度)、グループワーク、発表など(40%) 「その他」: 提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど)(20%), 最終レポート(40%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・実技発表、レポート、提出物など課題は、個別または全体にコメントを付する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習: 該当箇所の通読、準備。 復習: 授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考えよう。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	・ノート、ファイル(配付プリント用)を持参すること。ノート・ファイルは提出することがある。 ・授業は、学生の興味・関心、進度に応じて、授業計画の各単元を行き来しながら総合的に進める。					
テキスト	『新・保育と表現』 石上浩美編著 発行所 嵯峨野書院					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践演習 (20630)	演習	2	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	金谷 公子
授業の到達目標	1. 保育者の役割と子どもの見方、捉え方について理解する。 2. 子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導ができる知識を身につける。 3. 保育内容の知識や技能等を獲得する。					
学位授与の方針との関連	・保育に関する専門的知識・技術を修得している。 ・教科学習及び実習を通じて実践力を取得している。					
授業の概要	変化する社会の中で、求められる保育者としての理解を深め、子どもや保護者に対する援助の技術方法等についての実践力を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育実践演習についての概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。				
	2	保育者とは、専門職としての保育者の仕事とは、保育者の役割、子どもに対する責務について理解する。				
	3	保育を巡る社会的状況について理解する。				
	4	保育者の専門性、保育実践力を構成する要素について考える。				
	5	保育における環境の意義と物的環境について理解し環境の構成について考える。				
	6	子どもの遊びの意義と重要性を理解し事例を通して考える。				
	7	発達段階に応じた教材研究・作成をする。(ペープサート制作・教材作り)				
	8	発達段階に応じた教材研究・作成をする。(ペープサート制作・教材作り)				
	9	子どもの反応を見ながら作成した教材を使用し保育を展開する。(ペープサートの発表)				
	10	子どもの反応を見ながら作成した教材を使用し保育を展開する。(ペープサートの発表)				
	11	保育実践を想定して保育環境の構成・遊びの展開について考える。(グループワーク・発表)				
	12	教育・保育目標を達成する」ためのPDCAサイクルの循環について理解する。				
	13	特別に支援が必要な子どもについて個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。				
	14	特別に支援が必要な子どもへの対応について事例を通して考える。(グループワーク・発表)				
15	授業の振り返りと理解度を再確認し、保育に関する新たな課題に関心を持ち自分なりに理解する。					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業への取組（意欲・関心・態度・課題への取組など）（20%） 「その他」：実技発表・課題の提出（ペープサート）（50%）授業内提出物（感想・小レポートなど）（30%） ・授業内レポートなどの提出はコメントを付して返却する。返却後要点の解説を行い知識の定着を図る。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・グループの討議については、発表の授業を実施します。 ・主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・グループの討議については、発表の授業を実施します。 ・主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。					
事前・事後の学習等の内容	予習：プリント、ノートをよく通読し授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：配布プリントを通読し、授業内容について理解を深めておくこと。 授業後に復習を求め、その際レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	・課題については、定められた期間で取り組み提出すること。 ・ペープサート制作については、事前に内容、教材等を研究をし、材料を準備しておくこと。 ・毎回授業内で配布するプリント、資料などについては活用することがあるため毎回持参すること。					
テキスト	・プリント・資料などを配布					
参考書	・「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「認定こども園教育・保育要領解説」 ・保育・教職実践演習（第2版）「保者に求められる保育実践力」小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子 編著 建帛社					
その他	【7/15アワー】 ・授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅡA (20712)	演習	1	2年次 前期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照
授業の到達目標	1. やや複雑なリズムや音階を含んだ楽曲をスムーズに演奏できる。 2. ヘ音譜表に難なく対応できる。 3. 少し速いテンポのリズムや付点のリズムを演奏できる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。</li> <li>・進度別グレード課題などで、やや複雑なリズムや音階を扱い、ピアノ演奏基礎技術を習得する。</li> <li>・こどものうたやリズム表現等の楽曲による演習を重ね、読譜力や表現力の向上を目指す。</li> <li>・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲などの2種類以上の課題を实践、実習する。</li> <li>・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)</li> </ul>					
授業計画	回数 授業内容					
	1	進度別課題① 音階の練習	5月頃～7月頃のうた、又は付点のリズムの楽曲、他			
	2	進度別課題② バイエル83番	〃			
	3	進度別課題③ へ長調の楽曲	〃			
	4	進度別課題④ バイエル85番	〃			
	5	進度別課題⑤ 様々な連符の練習	少し速いテンポのリズム表現実習:かけあし			
	6	進度別課題⑥ バイエル86番	〃			
	7	進度別課題⑦ アーフタクトの練習	保育・教育実習に役立つ課題			
	8	進度別課題⑧ バイエル89番、90番	〃			
	9	進度別課題⑨ 3連符の分散和音	讃美歌の演奏			
	10	進度別課題⑩ バイエル92番	リズム表現実習:任意の楽曲			
	11	進度別課題⑪ 十六分音符の分散和音	〃			
	12	進度別課題⑫ バイエル94番	こどものうたの実習:任意の楽曲			
	13	進度別課題⑬ 十六分音符によるメロディー	〃			
	14	進度別課題⑭ バイエル96番	〃			
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習					
授業の評価	「試験」: 実技試験 (80%) 「平常点」: 課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度 (20%) 「その他」:					
課題(レポート等)のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習: 毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習: 授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。</li> <li>・爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。</li> <li>・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。</li> <li>・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。</li> <li>・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。</li> <li>・譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。</li> <li>・個々の履修科目等の都合により、クラス編成を調整する場合がある。</li> </ul>					
テキスト	・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他 ・『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社 ・『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著 全音楽譜出版社 ・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。					
備考	池田京子・宇治田仁美・高磯八千代・福田真梨奈・藤井直子					
その他	【オフィスアワー】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅡB (20713)	演習	1	2年次 後期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照
授業の到達目標	1. ソナタ形式の楽曲など、広い音域や素早い動きにも対応したが演奏できる。 2. こどものための楽曲を弱拍にも音が加わった楽譜通りの伴奏で、演奏できる。 3. 強弱等、楽譜の指示記号を意識した演奏ができる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。</li> <li>ピアノ演奏技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。</li> <li>こどものうたやリズム表現等の演習を重ね、教育・保育現場での実践を目指してレパトリーを増やす。</li> <li>原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲などの2種類以上の課題を実践、実習する。</li> <li>適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	進度別課題① へ長調の楽曲	保育・教育実習に役立つ課題			
	2	進度別課題② ドミナント和音の学習(借用和音含む)	〃			
	3	進度別課題③ レガートで演奏する	〃			
	4	進度別課題④ ブルグミュラー25の練習曲 1番	リズム表現の実習：スキップ			
	5	進度別課題⑤ イ短調の楽曲	〃			
	6	進度別課題⑥ 素早い動きとスタッカート	リズム表現の実習：任意の楽曲			
	7	進度別課題⑦ 左右同じ速さで十六分音符を演奏する	〃			
	8	進度別課題⑧ ブルグミュラー25の練習曲 2番	讃美歌の演奏			
	9	進度別課題⑨ へ長調の楽曲	〃			
	10	進度別課題⑩ 3/4拍子を意識して演奏する	こどものうたの実習：任意の楽曲			
	11	進度別課題⑪ 十六分音符の音階的な動き	〃			
	12	進度別課題⑫ 1拍の幅を十分に勘定して弾く	〃			
	13	進度別課題⑬ 楽曲の前半と後半の表情を弾き分ける	〃			
	14	進度別課題⑭ ブルグミュラー25の練習曲 5番	〃			
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習					
授業の評価	「試験」：実技試験 (80%) 「平常点」：課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度 (20%) 「その他」：					
課題(レポート等)のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別のグレードによっては、ソナチネⅠ・Ⅱ巻、ソナタ、その他の楽曲を学習する。</li> <li>爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。</li> <li>適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。</li> <li>教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。</li> <li>授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。</li> <li>譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。</li> <li>個々の履修科目等の都合により、クラス編成を調整する場合がある。</li> </ul>					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他</li> <li>『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社</li> <li>『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著、全音楽譜出版社</li> <li>讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。</li> </ul>					
備考	池田京子・宇治仁美・高磯八千代・福田真梨奈・藤井直子					
その他	【フォロー】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育者論 (20110)	講義	2	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田 由加子
授業の到達目標	1. 人的環境として、保育者の子どもに与える影響は極めて大きく、その責任の重要性を認識するとともに知識や技術を身につける。 2. 保育者へ目指すことの意味を明確にしていき、保育者の役割や倫理について理解を深める。 3. 子どもへのかかわりや保護者支援に関する協働などについて幅広く理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育者の制度的な位置づけや、保育の役割と倫理について理解し、保育の具体的な実践から保育の協働性について考え、保育者の専門的成長について理解していく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	保育者になるということ (プレゼンテーション)				
	3	保育職とは (プレゼンテーション)				
	4	子どものかかわり (プレゼンテーション)				
	5	現代の保育にまつわる問題				
	6	保育者の仕事と役割				
	7	保育者の制度的位置づけ				
	8	保育者になるための学び				
	9	保育者に求められる資質とは				
	10	子育て支援と保育者の役割				
	11	現代社会の変化と保育者の仕事や課題				
	12	日本の保育者のあゆみ				
	13	資料にみる保育者の姿				
	14	諸外国の保育者				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験 (50%) 「平常点」：授業態度・小テスト (30%) 「その他」：ワークシート等提出物 (20%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：事前に配布されたプリントを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 次回授業の主な内容について予習を課す。 復習：各回のプリントを通読し、授業内容について理解を深めておくこと。 理解度を確認するため、小テストを行うことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 45 分) 事後学習 ( 45 分)					
履修上の注意	・はさみ・のりは毎回持参すること。 ・配られたプリントはファイリングしておくこと。					
テキスト	適宜プリント配布					
参考書	授業内で紹介する					
その他	【7/17アワー】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育課程論 (20620)	講義	2	2年次 前期	選択	幼児必修	田口 啓子
授業の到達目標	1. 幼稚園における教育課程編成の意義・目的・機能を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則や編成方法を理解する。 3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	教育課程、指導計画の意義や編成の方法、それに関わるカリキュラム・マネジメントの基本的な事項について学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
	2	教育課程の意義				
	3	幼稚園教育要領の変遷（グループワーク）				
	4	教育課程の役割・機能				
	5	教育課程編成の基本原則				
	6	教育課程編成の観点と思想				
	7	教育課程編成の背景（グループワーク）				
	8	教育課程・指導計画の編成と展開（1）長期（グループワーク）				
	9	教育課程・指導計画の編成と展開（2）短期（グループワーク）				
	10	教育課程・指導計画の編成と展開（3）小学校への円滑な接続				
	11	教育課程に関する法律				
	12	教育課程の類型				
	13	教育課程の評価及び省察				
	14	教育課程の改善（グループワーク）				
15	まとめ（グループワーク）					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業への取り組み（20%） 「その他」：授業内課題（80%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、期限までに提出のこと。返却時にコメントを付す。 ・授業内容に関する質問への回答は、基本的に講義時間内で回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや配布プリント等の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・私語やスマホ等の利用は、禁止します。 ・授業内容に関する疑問、質問を積極的にすること。 ・授業は、その内容を踏まえ事前にテキストを通読しておくこと。					
テキスト	『幼稚園教育要領』（平成30年3月 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成30年3月 内閣府・文部科学省）					
参考書	授業の中で適宜紹介します。					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容総論 (20610)	演習	2	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 保育の全体的な構造と5領域について総合的に学ぶとともに、実際の保育においては領域の枠を超えて展開されることを理解する。 2. 子育て支援と保育内容、子どもの発達過程を踏まえて理解し、様々な保育についても学び、修得する。 3. 保育現場の状況をイメージするために事例を取り入れながら、保育内容がどのような仕組みで子ども達を支えているかを理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の子どもは遊びの中で学び育っていく。どのような経験が大切かを考え、その経験から総合的に何を学んでいくかを知る。</li> <li>・アクティブ・ラーニング形式で授業を行う。</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育の基本及び保育内容の理解				
	2	保育の全体構造と保育内容				
	3	保育内容の歴史の変遷とその社会的背景				
	4	子どもの発達や生活に即した保育内容 1	グループワーク			
	5	子どもの発達や生活に即した保育内容 2	グループワーク			
	6	保育における観察と記録	グループワーク			
	7	養護及び教育が一体的に展開する保育				
	8	環境を通して行う保育				
	9	生活や遊びによる総合的な保育				
	10	個と集団の発達を踏まえた保育				
	11	生活や発達の連続性に考慮した保育				
	12	家庭・地域との連携を踏まえた保育				
	13	小学校との連携を踏まえた保育				
	14	保育の多様な展開				
15	保育内容における課題 まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 授業態度、課題への取り組み (40%) 「その他」： 授業内課題 (50%)、提出物 (10%)					
課題(レポート等)のフィードバック	授業内容の質問については、個別又は全員に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習： 次回の授業箇所を通読し概要を把握しておく。 復習： レポートを課すことがあるので、テキストを通読し授業内容の理解を深めておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (135分) 事後学習 (135分)					
履修上の注意	シラバスの内容は授業進行状況と合わせるため変更することがある。必ずテキストを持参する。また、配布プリントは整理してファイリングすること。グループの話し合いや活動に積極的に参加すること。					
テキスト	『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ 保育内容総論』 開仁志 編著 教育情報出版					
参考書	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館					
その他	【オフィスアワー】					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育方法論 (20640)	講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修	濱田 敏子 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 多様化した現代社会の中で生き抜くことのできる子どもを育む保育者になるための準備として、1年次の前期から学んだ講義や実習を振り返り、自分が興味をもった領域の保育方法を考察する。 2. 実習での体験から、保育の分析を行い、保育者としての援助、指導のあり方を考察し導き出すことができる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	理論と実践のつながりを大切にし、保育を構成する力や子どもの活動にそって総合的に指導する力を身につけていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション グループ討議とレポート				
	2	保育の基本と保育方法 保育者とは何か				
	3	幼児理解とその方法 保育における幼児理解				
	4	環境の構成と保育の展開 環境の構成の意味(グループワーク)				
	5	一人一人に応じた指導 保育の質と評価				
	6	遊びの指導 遊びの中での学び				
	7	伝承遊びの意義 体験活動				
	8	生活の指導・豊かな体験と園行事				
	9	小学校との連携 円滑な接続とは				
	10	様々な保育形態 「主体的・対話的で深い学び」と教材研究				
	11	学び合い育ち合うクラスづくり 児童文化財と保育 (グループワーク)				
	12	園内外の環境を活かした保育				
	13	保育者に求められる専門性 保育の構想力と実践力				
	14	まとめに向けて 体験活動(グループワーク)				
15	まとめ 方法論を考察する					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、提出物(20%) 「その他」：授業内課題・体験活動(80%)					
課題(レポート等)のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回の授業範囲の予習として、テキストを読んでおく。</li> <li>復習は授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し、理解を深める。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習ⅠⅡ、教育実習ⅠⅡで作成した記録を常備すること。</li> <li>自分で解決する自主的な取り組みが必要。</li> </ul>					
テキスト	『保育方法論』 神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎 編著 光生館					
参考書	『保育方法・指導法』 大豆生田啓友・渡邊英則 ミネルヴァ書房					
その他	【Web】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育相談 (20220)	講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修	中重 直俊
授業の到達目標	1、保育相談支援の考え方を説明できる。 2、保育相談支援の方法を身につける。 3、保育相談支援の実際について理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育者が実践している保育相談支援について学ぶ。保育相談の支援方法について確認する。保育相談支援の実際について、事例をもとに理解を深めていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保護者に対する保育相談支援の意義				
	2	保育の特性と保育士の専門性を活かした支援				
	3	子どもの最善の利益と福祉の重視				
	4	子どもの成長の喜びの共有				
	5	保護者の養育力の向上に資する支援				
	6	信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重				
	7	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力				
	8	保育に関する保護者に対する指導				
	9	保護者支援の内容				
	10	保護者支援の方法と技術				
	11	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス				
	12	保育所における保育相談支援の実際(グループワーク①)				
	13	保育所における特別な対応を要する家庭への支援(グループワーク②)				
	14	児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援(グループワーク③)				
15	障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援(グループワーク④)					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：最終レポート（70%）・グループワークにおけるレポート（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	グループワークにおけるレポートについては、コメントをつけて返却する。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：シラバスの「授業計画」に沿って事前にテキストを読んでおくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ） 事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	テキストは必ず事前に読んでおくこと。グループワークには、積極的に参加すること。					
テキスト	『基本保育シリーズ1 9 保育相談支援』公益財団法人児童育成協会＝監修／西村重稀、青井夕貴＝編集 中央法規(2015)					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【Wi-Fiアワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育実習指導Ⅱ (20813)	演習	1	2年次 前・後期	選択	幼児必修	楯 佳子 (実務家教員) 山本 郁子
授業の到達目標	1. 幼稚園・こども園教育(保育)について理解を深め、実習を通して幼稚園(保育)教諭の責務を学ぶ。 2. 実習日誌、保育指導案の作成の仕方を学ぶ中から、保育実践の視点を習得する。 3. 明確な自己課題をもって実習に臨み、幼稚園(保育)教諭に必要な知識や技能・態度・専門性を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を取得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	幼稚園・こども園教育実習の事前・事後指導について事例を交えながら行う。 また、グループ討議、ロールプレイなども取り入れながら実践に即した形で授業を行う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	教育実習Ⅱの目的・授業の概要と自己課題 実習園の確認				
	2	個人票作成① 保育実技(わらべうた・手あそび)				
	3	個人票作成② 部分実習と研究保育についての理解				
	4	保育指導案について学ぶ ①幼児の活動 環境の構成				
	5	" ②保育者の援助・留意点				
	6	保育指導案作成 オリエンテーションの方法と内容				
	7	" オリエンテーションの日程確認保育指導案作成				
	8	保育指導案作成				
	9	手作り教材の保育指導案作成と模擬保育① グループワーク				
	10	手作り教材の保育指導案作成と模擬保育② グループワーク				
	11	教材研究 保育指導案作成と模擬保育③ グループワーク				
	12	実習日誌、提出書類の配布と内容の説明・書き方の指導				
	13	教育実習の心得とマナーの確認				
	14	教育実習の振り返り 実習報告書、礼状作成				
15	教育実習の反省と自己評価・課題 まとめ					
授業の評価	「試験」：実施しない 「平常点」：授業態度、提出物 (60%) 「その他」：小テスト、実習態度、実習評価 (40%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：教育実習への自己課題を明確にもち、課題克服に向けて積極的に取り組む。 各回の授業内容の概要を事前に把握しておくこと。 復習：授業の終わりにレポート提出を求める場合がある。 レポートや、手作り教材を課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分)事後学習(45分)					
履修上の注意	・履修登録を行っていても学外実習参加が認められない場合を下記に示す。 ①事前実習指導を2回以上欠席した場合 ②授業における課題が未提出の場合 ③授業での指示・指導に従わない場合 ④教員による会議において実習が認められない場合 ⑤必要な単位修得が出来ていない場合 ⑥小テストの成績が著しく低い場合・実習評価と授業評価を併せて評価					
テキスト	・『保育指導案 大百科事典』 関仁志(編) 一藝社 ・『学びつづける保育者をめざす実習の本』 久富陽子 萌林書林					
参考書	・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 ・必要に応じ配布					
その他	【ワイルド】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子育て支援 (20530)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 子育て支援の意義や基礎知識について理解する。 2. 子育て支援を行う上で、保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を養うことができる。 3. 地域資源の活用や関係機関との連携や協働の意義を理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を身に付ける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子育て支援の基本となる保育者と保護者の関係構築に必要な技術、及び知識について学びを深め、理論的な援助技術をもとに、実践的なコミュニケーションのあり方を身に付ける。また、子育て支援の近年の状況や課題も踏まえ、専門家が行う相談の共通点と相違点を知り、専門機関との連携・協働について理解を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育と子育て支援				
	2	子どもの権利と子育て支援				
	3	保育の専門性と子育て支援				
	4	子育て支援の展開過程				
	5	子育て支援における計画・記録・評価				
	6	保護者との信頼関係の構築				
	7	保護者の理解とかかわり方				
	8	地域資源の活用と関係機関との連携・協力				
	9	保育所や幼稚園等の特性を生かした保護者への支援				
	10	特別な支援を必要とする子どもをもつ保護者への支援				
	11	課題のある保護者や家庭に対する子育て支援				
	12	保育所や幼稚園等における子育て支援の現状				
	13	児童福祉施設における子育て支援				
	14	児童発達支援センター等における子育て支援				
15	まとめ・振り返り					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、子育て支援の現状や課題、実習先などで取り組まれている子育て支援について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。					
テキスト	『演習・保育と子育て支援』小原 敏郎・橋本 好市・三浦 主博 編（株）みらい					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【おやすみ】 講義日のお昼休み。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの保健 (20320)	講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格必修	早野 克典 松本 享
授業の到達目標	1. 乳幼児疾患について理解する。 2. 背後に隠されている家族病理までも推し量れる勘を養う。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育を担当する保育者が、子どもの保健領域の理解を深め、今後の保育に反映していく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	こどもの発育、栄養（母乳、人工ミルク）				
	2	成長と発達 「正常」と「異常」 -いつまで様子を見る？				
	3	生活と保健(排泄、睡眠)、外出、衛生				
	4	病気と異常 主な症状と対応と主な病気と対応				
	5	感染症総論				
	6	風邪の仕組み				
	7	応急手当				
	8	各自の母子手帳をもとに、なぜ「母子手帳」が重要か？				
	9	予防接種				
	10	アレルギーマーチ 喘息とは？原因、症状、治療、園で突発発作が起きたら？				
	11	虐待 虐待と地域と家族と温かい心を育む				
	12	小児救急				
	13	子どもと薬				
	14	保育園の保健の実際 園医をして思うこと				
15	<保育園における感染対策>グループ討論 総括					
授業の評価	「試験」：筆記試験（90%） 「平常点」：授業態度、意欲、出席（10%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 また前期、後期の最終授業では、前期、後期それぞれのまとめ、総括を行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習： 復習：各回の授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	スライドやプリントを中心に授業を行う。 欠席回数が5回を超える場合は、当該科目の受験資格を失い、単位が認められません。 授業態度が著しく悪い場合、退室を命じることがある。 また、度重なる場合、当該科目の履修を取り消すことがある。 本講義では、授業態度を重視する。座席は指定された場所に着席していないと欠席扱いになることがある。勉強をしていないと判断した者には、再試やレポートを行う。					
テキスト	適宜資料配布					
参考書	『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド』 日本外来小児科学研究会編著 医歯薬出版株式					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名	
子どもの健康と安全 (20322)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	内海 尚美	
授業の到達目標	1. 乳幼児の成長・発達の特徴を理解する。 2. 保育施設における健康管理や安全管理を理解する。 3. 乳幼児に多くみられる病気とその症状について理解し、基礎的な観察技術を習得する。 4. 乳幼児に起きやすい事故とその対応方法について理解し、基礎的な応急処置技術を習得する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	既習科目で習得した知識をもとに、保育現場において子どもの健康と安全を守るために必要な知識と技術を学びます。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション：授業内容、子どもの健康と保健における現状と課題				講義	
	2	子どもの身体的な発育・発達（乳幼児期）				講義	
	3						
	4					子どもの日常生活援助1：着替え、排泄ケア	演習
	5	子どもの日常生活援助2：沐浴	演習				
	6	健康観察1：身長、体重、頭囲、胸囲	講義、演習				
	7	健康観察2：体温、呼吸、脈拍	講義、演習				
	8	子どもの病気と症状：乳幼児に多い病気	講義				
	9	子どもの病気と症状：症状の観察と対応	講義				
	10	子どもの病気と症状：手洗い、薬法	講義、演習				
	11	子どもの病気と症状：与薬	講義				
	12	子どもの発達特性と事故	講義、グループワーク				
	13	子どもの事故と対応（気道内異物除去、止血法、包帯法）	演習				
	14	子どもの事故と対応（心肺蘇生）	演習				
15	まとめ：健康管理と事故防止	講義					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度・演習レポート（40%） 「その他」：						
課題（レポート等）のフィードバック	レポート等の課題は、コメントを付けて返却する。 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	【予習】テキストや参考書の該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、整理しておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）						
履修上の注意	主体的に講義・演習に参加すること。 授業で配布するプリント類は各自ファイルに綴じるなどして、テキストとともに持参すること。						
テキスト	『これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」』 鈴木美枝子編著 創成社						
参考書	適宜プリントを配布						
その他							

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援論 (20420)	講義	2	2年次 後期	選択	保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 子ども家庭支援の意義や基礎知識について理解する。 2. 子ども家庭支援における保育者の専門性と基本的態度について習得する。 3. 子ども家庭支援の実際を理解し、実践方法を身に付ける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	現代のわが国におけるさまざまな問題から家庭支援のあり方について理解を深め、保育者として、子どもだけでなく多様な保護者(家庭)とのかかわりやニーズに合わせた柔軟な支援について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子ども家庭支援とは何か				
	2	子ども家庭支援の意義と役割(今日の子育て支援に求められているもの)				
	3	子ども家庭支援のあゆみ				
	4	子ども家庭支援に関わる法・制度①(家庭、保護者、家族、子ども、など各々の有効な法制度)				
	5	子ども家庭支援に関わる法・制度②(わが国の子ども家庭支援政策)				
	6	保育者の専門性と基本的態度				
	7	社会資源と地域のネットワーク				
	8	保育者による子ども家庭支援の実際①(保育所等を利用する子どもの家庭への支援)				
	9	保育者による子ども家庭支援の実際②(地域の子育て家庭への支援)				
	10	保育者による子ども家庭支援の実際③(障害がある子どもがいる家庭への支援)				
	11	保育者による子ども家庭支援の実際④(子どもの虐待問題を抱えた家庭への支援)				
	12	保育者による子ども家庭支援の実際⑤(ひとり親家庭・ステップファミリーへの支援)				
	13	ワークで学ぶ子ども家庭支援(グループワーク)				
	14	これからの子ども家庭支援(課題と展望)				
15	まとめ・振り返り					
授業の評価	「試験」:筆記試験(60%) 「平常点」:授業態度、講義ノート(20%) 「その他」:レポート等提出物(20%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習:テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習:テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分)事後学習(135分)					
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、生涯発達や現代の家族や家庭について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。					
テキスト	『保育実践に求められる子ども家庭支援』 橋本好市・直島正樹編 ミネルヴァ書房					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【お休み】 講義日のお昼休み。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの理解と援助 (20230)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	楯 佳子
授業の到達目標	1. 子ども一人ひとりに応じた心身の発達や育ちを把握することの大切さを理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。 3. 子どもを理解し適切な援助をするための具体的な方法を知る。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。また、子どもを理解するために必要な観察の視点や子どもの育ちにかかわる環境、職員・保護者・地域との連携について学習する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子どもの理解と援助の基本（1）子どもの行為の意味を探る				
	2	子どもの理解と援助の基本（2）保育者に求められるもの				
	3	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（1）0歳児の子どもと大人のかかわり				
	4	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（2）1歳児の子どもと大人のかかわり				
	5	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（3）2歳児の子どもと大人のかかわり				
	6	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（4）3歳児の子どもと大人のかかわり				
	7	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（5）4歳児の子どもと大人のかかわり				
	8	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（6）5歳児の子どもと大人のかかわり				
	9	子どもを理解する方法 職員間や保護者との情報共有・保育における観察と記録				
	10	子どもを理解する視点 親になるプロセスの理解				
	11	子どもの理解に基づく発達援助（1）保育の中で気になる子どもと親の理解と援助				
	12	子どもの理解に基づく発達援助（2）特別な配慮を要する子どもと親の理解と援助ー発達障害ー				
	13	子どもの理解に基づく発達援助（3）様々な問題を抱えた子ども・家族とのかかわり				
	14	子どもの理解に基づく発達援助（4）多職種や地域との協働・連携				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度)（20%） 「その他」：授業内課題（60%）レポート、ファイル等提出物（20%） ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題（レポート等）のフィードバック	・予習：事前に各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 ・復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考える。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：事前に各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 ・復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考える。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	・ファイル(配付プリント用)を持参すること。ファイルは提出することがある。 ・授業では毎回演習を取り入れながら進めるので、グループワークなどに積極的に取り組むこと。 ・classroomを通じて連絡することがあるので、各自で確認しておくこと。					
テキスト	『実践につながる 新しい子どもの理解と援助』—今、ここに生きる子どもの育ちをみつめて— 編著：大浦賢治 ミネルヴァ書房 適宜、授業時プリントなどを配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【Wiスター】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育の計画と評価 (20660)	講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格必修	中尾 博美
授業の到達目標	1. 保育内容の充実を図り、保育の質を向上するための指導計画の考え方について理解する。 2. 短期指導計画を自分で作成することができるようになる。 3. 子ども理解に基づく保育の計画、実践、評価、改善の過程について理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	事例を通して子どもの理解を深めながら、保育の計画のあり方や保育を展開するための見通しの持ち方など基本的な考え方を理解し、保育の質について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	なぜ保育の計画が必要なのか				
	2	乳幼児教育の基本				
	3	全体的な計画と指導計画の関係性				
	4	乳幼児期にふさわしい生活（遊び）と経験すべき内容				
	5	身近な自然の探索(グループワーク①)				
	6	春から夏にかけての保育教材の研究(グループワーク②)				
	7	春から夏にかけての保育をイメージし、指導計画を作成する(グループワーク③)				
	8	計画的な環境の取り入れ方と保育の連続性				
	9	共に育ちあう保育の視点と方法				
	10	0歳児の指導計画の作成				
	11	1・2歳児の指導計画の作成				
	12	3・4・5歳児の指導計画の作成				
	13	保育観と保育の計画・方法の変遷				
	14	保育の質の向上と保育者の役割(ディスカッションと発表)				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」 「平常点」： 授業態度（20%） 「その他」： 課題レポート（50%） グループワークへの参加（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・ 授業内容に関する質問は、個別または全体に回答する。 ・ レポート等の提出物はコメントをつけて返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：自然の変化や、行事や文化などに触れる中で、気づいたことを専用ノートに記録しておくこと。 復習：テキストや配布プリントを通読し、各回の授業内容を理解しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	分からないことはその時に質問し、積極的に授業に参加すること。					
テキスト	保育・教育ネオシリーズ(3)『保育の計画と方法』 小笠原 圭・ト田真一郎 編著 同文書院 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
参考書	授業の中で紹介する。					
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育Ⅱ (20651)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格必修	中尾 博美
授業の到達目標	1. 乳児保育の基本的な知識・技能に基づく援助や関わりのあり方を体得する。 2. 保育の観察と記録の取り方、指導計画の作成などを習得する。 3. 一人一人の発達を支える生活と遊びの環境、職員間の協働などについて理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	乳児保育Ⅰの学びを基に、実際の援助や関わりを通して子ども理解を深め、保育者としてのあり方を考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 乳児保育Ⅰの復習				
	2	3歳未満児の発達の特徴				
	3	食事の習慣形成の獲得と援助の方法(1)				
	4	食事の習慣形成の獲得と援助の方法(2)				
	5	排泄の習慣形成の獲得と援助の方法				
	6	睡眠、清潔の習慣形成の獲得と援助の方法				
	7	ことばの発達と対人関係				
	8	実際の保育から環境構成と保育者の援助を学ぶ				
	9	0歳児の日課と担当制				
	10	保育の計画と記録				
	11	保育教材の研究(グループ活動①)				
	12	保育教材の研究(グループ活動②)				
	13	保育教材の研究の発表(グループ活動③)				
	14	乳児保育に携わる保育者の専門性				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 授業態度 ( 20 %) 「その他」： 課題レポート ( 50 %) グループ活動への参加 ( 30 %)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題はコメントをつけて返却する。 ・授業内容についての質問は個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：3歳未満児にふさわしい保育教材について日ごろから関心を持ち、作ったり試したり、記録したりしておくこと。 復習：授業で学んだ援助の方法(習慣形成について)を自分のものになるまで繰り返し練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分)事後学習(45分)					
履修上の注意	教科書や配布プリントは熟読し、授業時間内で理解するようにし、分からないことは必ず質問すること。					
テキスト	『演習で学ぶ乳児保育』 善本眞弓編著 わかば社 『保育所保育指針』					
参考書	授業の中で紹介する					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導 I B (20831)	演習	1	1年次後期 2年次後期	選択	保育士資格必修	中重 直俊 (実務家教員) 林 幹士
授業の到達目標	1. 福祉施設の内容や機能、また、保育士や施設教員の仕事について講義を通して学び、施設実習が円滑に実践できることを目指す。 2. 実習施設の一日の生活の流れや支援の内容を理解する。 3. 実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	意義と目的、概要、実習生に求められるものなど				
	2	福祉施設、利用者、職員の理解				
	3	DVD「施設実習の基本」				
	4	生活指導、学習指導、社会人としての常識				
	5	療育指導、自立支援				
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設				
	7	児童発達支援センター				
	8	障害者支援施設（入所更生、通所授産）				
	9	個人票作成、オリエンテーションについて				
	10	実習課題、事前確認事項				
	11	実習日誌の書き方				
	12	指導計画の書き方				
	13	実習中のケーススタディ				
	14	グループ討議、お礼状作成				
15	実習の反省とまとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験（10%） 「平均点」：授業態度、課題提出（40%） 「その他」：実習態度、実習評価など（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	教科書、配布プリントを通読しておくこと 授業を欠席した場合、補講を行うので手続きをしにくること					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としてのマナー」を要求する。 ①事前指導の欠席が2回以上の場合、②授業態度、出席状況が悪い場合、 ③授業において課された課題を提出しない場合、④教員による会議で実習が認められないと判断された場合、⑤小テストの成績が著しく低い場合、実習を認めない。					
テキスト	『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子 萌文書林 『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房					
参考書	『保育所保育指針』 必要に応じ配布する					
その他	【オフィスアワー】水曜の昼休み 中重研究室					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「総合表現」 (20607)	演習	2	2年次 後期	選択	保育士資格選択	橋 佳子 (実務家教員) 松本 恭子 向井 順子
授業の到達目標	1. 表現の技術を向上させる。 2. グループワークを通して積極性や協調性を養い、個々の役割の責任を果たす。 3. 表現活動を通して体験、学習したことを教育・保育現場で役立てる。					
学位授与の方針との関連	・保育に関する専門知識・技術を修得している。 ・教科学習及び教育・保育実習等を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本学のキリスト教主義教育に基づき「クリスマス降誕劇（ページェント）」の舞台制作・発表を行い、「表現活動とは何か」を実験する。 ・音楽表現、造形表現、身体表現、言葉の表現など、あらゆる表現を総合的に組み合わせて制作する。 ・表現について考え、互いの意見などを尊重しながら、全員で舞台作品の完成を目指す。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	クリスマス降誕劇についての学習、DVDや紙芝居視聴、感想や意見交換・発表				
	2	〃				
	3	クリスマス降誕劇の台本学習、配役等の確認				
	4	グループワーク:クリスマス降誕劇の体験的学習(配役・トーンチャイムなどの体験、衣装・小道具制作、その他)				
	5	〃				
	6	グループワーク:クリスマス降誕劇練習、クリスマス飾り付け・点灯式練習・準備、その他				
	7	〃				
	8	グループワーク:クリスマス降誕劇の実践練習(全体練習・衣装着用・練習ビデオ撮影・PBL等を含む)				
	9	〃				
	10	〃				
	11	〃				
	12	グループワーク:クリスマス降誕劇リハーサル・制作発表				
	13	クリスマス降誕劇制作発表時のDVD視聴、感想や意見交換・発表(シンク・ペア・シェア等を含む)				
	14	保育・教育現場で役立つ表現活動				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 授業態度・取り組み姿勢、授業内での提出物（40%） 「その他」： レポート（50%） ページェント発表（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業に関する質問や相談は、個別又は全員に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：プリントやクリスマス物語の本などをよく読み、聖劇への理解を深めること。 台詞や讃美歌を覚える。 授業に必要なものをグループごとに話し合い、事前に準備しておく。 復習：計画通りに進められているか等グループで振り返り、次の授業に繋げる。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・グループワークが中心となるため、自分たちの役割を果たせるよう協力しながら進めていく。 ・他のグループと進捗状況等確認しながら進め、全員で連携しながら劇を作り上げていけるようにする。 ・クリスマスページェントの日を目標にして、計画的に取り組むこと。 ・舞台機器や制作活動の状況などにより、シラバスを変更する場合がある。					
テキスト	・ページェント台本、トーンチャイム・聖歌隊楽譜（プリント配布） ・『聖書』『讃美歌』『讃美歌21』『こどもさんびか』『幼児さんびか』 ・その他、適宜、プリントを配布する。					
参考書	クリスマスに関する聖書物語の絵本・紙芝居・DVD等、聖書など					
その他	【Wi-Fi】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅡA (20722)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	向井 順子
授業の到達目標	1. 幼児音楽Ⅰで習得した基礎的な技術をもとに、より高度な音楽的技術を習得する。 2. 保育現場で生かせる実践的な音楽指導法を身につける。 3. 器楽合奏を通して、基本的な楽器の扱いや奏法を習得し、豊かな音楽的表現力を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	実践的な音楽演習を通して、幼児と直接関わる保育者として必要なコミュニケーション力と基礎的な技能及び表現力を身につける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業内容説明、幼児音楽Ⅰで学んだことの復習と確認				
	2	姿勢・呼吸法・弾き歌い				
	3	発声・呼吸法・歌詞朗読・弾き歌いの練習				
	4	指導略案作成・グループ分け				
	5	〃				
	6	模擬授業発表(グループワーク・プレゼンテーション)				
	7	〃				
	8	〃				
	9	研究討議				
	10	弾き歌い・歌唱				
	11	〃				
	12	弾き歌い・リズム練習				
	13	弾き歌い・パート練習				
	14	弾き歌い・アンサンブル・独唱				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（40%） 「その他」：実技試験、模擬授業（50%）提出物（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：教材研究と歌および弾き歌いの練習をする。 復習：授業で学んだ教材を十分に練習し、自身のレポーターとなるようにする。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	授業態度を重視 実技中心なので毎日の練習が必要					
テキスト	『こどものうた100』 小林美実 監修 チャイルド本社 随時 プリントを配布					
参考書						
その他	【オフィスワ－】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅡB (20723)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	向井 順子
授業の到達目標	1. 保育現場で生かせる実践的な音楽指導法を身につける。 2. 器楽合奏・合唱を通して、他者とアンサンブルをする経験を通して、個々の音楽的表現力を高める。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	実践的な音楽演習を通して、幼児と直接関わる保育者として必要なコミュニケーション力と基礎的な技能及び表現力を身につける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	前期演習の復習と確認				
	2	弾き歌い（秋の歌を中心に）				
	3	弾き歌い・初見弾き歌い				
	4	各パート分け・弾き歌い（冬の歌を中心に）				
	5	パート練習・弾き歌い（ " ）				
	6	替え歌合唱練習・弾き歌い（ " ）				
	7	"				
	8	"				
	9	"				
	10	聖歌隊として合唱完成（グループワーク）				
	11	通し稽古（グループワーク）				
	12	クリスマスページェント舞台発表（グループワーク）				
	13	初見弾き歌い・アンサンブル（プレゼンテーション）				
	14	弾き歌い・レパートリー確認・アンサンブル仕上げ（プレゼンテーション）				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（40%） 「その他」：実技試験、模擬授業（50%）提出物（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：教材研究と歌および弾き歌いの練習をする。 復習：授業で学んだ教材を十分に練習し、自身のレパートリーとなるようにする。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要となる。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	授業態度を重視 実技中心なので毎日の練習が必要					
テキスト	『こどものうた100』 小林美実 監修 チャイルド本社 随時 プリントを配布					
参考書						
その他	【Wiｽﾌﾟｰ】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅡA (20723)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 造形1で習得した造形的基礎をもとに、自分で考えて計画的に制作できる技術を習得する。 2. グループ制作から互いのイメージの違いを明確にし、尊重し合いながら表現する方法を会得する。 3. 素材の可能性を深く考察し、作品制作に生かす。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育の現場や実習に役立つ造形表現を自分で考察し展開できるようにする。造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	教材研究 ①アイデアを考える (PBL)				
	2	教材研究 ②制作 (PBL)				
	3	教材研究 ③研究発表 (プレゼンテーション)				
	4	素材研究 ①素材の可能性 (グループワーク・PBL)				
	5	素材研究 ②制作 (グループワーク・PBL)				
	6	素材研究 ③制作 (グループワーク・PBL)				
	7	素材研究 ④制作 (グループワーク・PBL)				
	8	素材研究 ⑤制作 (グループワーク・PBL)				
	9	素材研究 ⑥研究発表・展示 (プレゼンテーション)				
	10	アニメーション①構成・絵コンテ (PBL)				
	11	アニメーション②制作 (PBL)				
	12	アニメーション③制作 (PBL)				
	13	アニメーション④制作 (PBL)				
	14	アニメーション⑤制作 (PBL)				
15	アニメーション⑥観賞 (PBL)					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業の参加度 (40%) 「その他」：提出課題 (60%)					
課題(レポート等)のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック(点数やコメント等)はそこで行う。また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『造形芸術の基礎』 ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』 溝上慎一・成田秀夫編 東信堂					
その他	【オフィスワ】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅡB (20733)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 造形Ⅰで習得した造形的基礎をもとに、自分で考えて計画的に制作できる技術を習得する。 2. グループ制作から互いのイメージの違いを明確にし、尊重合いながら表現する方法を会得する。 3. 素材の可能性を深く考察し、作品制作に生かす。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育の現場や実習に役立つ造形表現を自分で考察し、展開できるようにする。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。 卒業制作で研究の成果を市内の会場で展示を行い、様々な視点からフィードバックを得る。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	教材研究 ①制作 (PBL)				
	2	教材研究 ②制作 (PBL)				
	3	教材研究 ③研究発表 (プレゼンテーション)				
	4	クレイアニメ ①クレイアニメを知る・ストーリーと絵コンテ (グループワーク・PBL)				
	5	クレイアニメ ②粘土で制作 (グループワーク・PBL)				
	6	クレイアニメ ①撮影 (グループワーク・PBL)				
	7	クレイアニメ ①撮影・発表 (プレゼンテーション)				
	8	卒業制作 ① (PBL)				
	9	卒業制作 ② (PBL)				
	10	卒業制作 ③ (PBL)				
	11	卒業制作 ④ (PBL)				
	12	卒業制作 ⑤ (PBL)				
	13	卒業制作 ⑥ (PBL)				
	14	卒業制作 ⑦ (PBL)				
15	卒業制作 ⑧ (PBL)					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業の参加度 (40%) 「その他」：提出課題 (60%)					
課題(レポート等)のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック(点数やコメント等)はここで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『造形芸術の基礎』 ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』 溝上慎一・成田秀夫編 東信堂					
その他	【Wi-Fi】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ⅡA (20733)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	小野 昌二
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導性を高める。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児期における身体教育の意味や価値について理解を深め、それらを子どもに体感させるために□働きかけや関わりについて考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	集団遊び 多種多様な鬼ごっこ				
	3	集団遊びの指導計画作成				
	4	集団遊びの指導実践				
	5	発表した集団遊びプログラムの省察				
	6	大型遊具を使った遊び マット、跳び箱				
	7	大型遊具を使った遊び 平均台、鉄棒				
	8	大型遊具を使った遊びの指導計画作成				
	9	大型遊具を使った遊びの指導実践				
	10	発表した大型遊具を使った遊びプログラムの省察				
	11	小型遊具を使った遊び ボール				
	12	小型遊具を使った遊びの指導計画作成				
	13	小型遊具を使った遊びの指導実践				
	14	発表した小型遊具を使った遊びプログラムの省察				
15	安全管理と応急手当					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、意欲（50%） 「その他」：指導実践の評価（30%） 指導案（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。					
事前・事後の学習等の内容	予習:食事、睡眠等、体調を整えておくこと。次回の授業内容の概要を把握し、おもな遊びを□予習しておくこと。（指導実践担当者は指導案提出） 復習:指導実践後、集団討議した内容を各自まとめておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能・技術面での評価ではなく、授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。</li> <li>・ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。</li> <li>・運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。・各自で水分、タオルを用意すること。</li> <li>・各自で貴重品の管理をすること。・授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。</li> <li>・体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。</li> <li>・運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。</li> </ul>					
テキスト	適宜資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」					
その他	【ワイスター】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育II B (20743)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	小野 昌二
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導性を高める。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児期における身体教育の意味や価値について理解を深め、それらを子どもに体感させる□ ために必要な働きかけや関わりについて考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	親子体操の習得と指導				
	3	リズム遊び				
	4	リズム遊びの指導計画作成				
	5	リズム遊びの指導実践				
	6	発表したリズム遊びプログラムの省察				
	7	身近なものを使った遊び 新聞紙、段ボール				
	8	身近なものを使った遊びの指導計画作成				
	9	身近なものを使った遊びの指導実践				
	10	発表した身近なものを使った遊びプログラムの省察				
	11	小型遊具を使った遊び なわ				
	12	小型遊具を使った遊び フープ				
	13	小型遊具を使った遊びの指導計画作成				
	14	小型遊具を使った遊びの指導実践				
15	発表した小型遊具を使った遊びプログラムの省察					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、意欲（50%） 「その他」：指導実践の評価（30%） 指導案（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：食事、睡眠等、体調を整えておくこと。次回の授業内容の概要を把握し、おもな遊びを予習□しておくこと。（指導実践担当者は指導案提出） 復習：指導実践後、集団討議した内容を各自まとめておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	・技能・技術面での評価ではなく、授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 ・ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 ・運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。・各自で水分、タオルを用意すること。 ・各自で貴重品の管理をすること。・授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 ・運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。					
テキスト	適宜資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」					
その他	【ホワイト】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導Ⅱ (20825)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	藤田 貴久 (実務家教員) 川島 直子 松本 恭子
授業の到達目標	1. 保育所や福祉施設の内容や機能や保育士や施設職員の仕事について講義を通して理解する。 2. 保育実習では保育理論と実践の統合を図り、保育を総合的に理解し、保育士としての専門性を具体的に学び、施設実習では、入所者理解と援助する実践現場での体験を通して理解する。 3. 保育士資格取得に向け自己課題を明確にする。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	保育者になるための基本的な知識を身につけ、実習の意義や実習施設について確認・理解をする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	実習1について 実習の目的と意義				
	2	保育所実習の目的と意義 ビデオ視聴 課題作成 (1) 保育実技・絵本				
	3	保育実習の具体的内容 課題作成 (2) 保育実技・手遊び (グループワーク)				
	4	保育実習事前指導 個人票作成 1				
	5	" 保育所生活1日の流れを把握する。(乳児)				
	6	" オリエンテーションについて (1)				
	7	" オリエンテーションの日程を決める。(グループワーク)				
	8	" 保育所生活1日の流れを把握する(幼児)実習記録の書き方(2)				
	9	" 実習記録の書き方(3) 研究保育案(1)				
	10	" 実習記録の書き方(3) 研究保育案(1)				
	11	" 実習先での立ち居振る舞いについて 守秘義務について研究保育案(2)				
	12	" 自己紹介(2) (グループワーク)				
	13	" 保育実習に臨むために(心構え、服装、身だしなみ、持ち物確認)				
	14	事後実習指導 実習先へのお礼状 (グループワーク)				
15	まとめ 保育実習の反省と課題					
授業の評価	「試験」: 「平常点」:授業態度、提出物など(60%) 「その他」:実習評価、実習や実習日誌への取組みなど(40%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	保育実習にかかわる準備(教材作り等)を行うこと。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分)事後学習(45分)					
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としての行動とマナー」を要求する。 履修登録をしていても、学外実習参加を認めない場合がある。 ①授業態度が不良である。②授業において課された課題を提出しない場合。 ③授業において出された指示・指導に従わない場合。 ④教員による会議で実習が認められないと判断された場合。 ⑤事前実習指導欠席2回以上の場合。 実習の評価と授業評価とを、総合的に評価する。					
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』生活技術教育研究会編 ななみ書房 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』駒井美智子 萌文書林					
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』、守巧・小櫃智子 著 わかば社					
その他	【Wiis7w】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導Ⅲ (20833)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	藤田 貴久 (実務家教員) 川島 直子
授業の到達目標	1. 社会福祉施設実習の体験を踏まえ、福祉施設の意義や現状、その役割についての知識を深める。 2. 利用者の理解、援助のあり方等について追及し、実践を円滑に、また効果的に行うことができることを目指す。 3. 実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。</li> <li>・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。</li> </ul>					
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育実習Ⅲの目的・内容				
	2	実習先を知る－社会福祉施設と役割の意義				
	3	福祉制度と福祉施設の現状				
	4	実習課題の明確化				
	5	利用者の理解－乳幼児、児童について				
	6	利用者の理解－障がい（児）者について（1）				
	7	利用者の理解－障がい（児）者について（2）				
	8	援助のあり方（1）				
	9	援助のあり方（2）				
	10	実習記録の書き方（1）				
	11	実習記録の書き方（2）				
	12	実習記録の書き方（3）				
	13	日誌・提出書類等の配布と指導				
	14	実習に臨むために 実習課題の明確化				
15	実習の心得の確認 実習前点検・確認					
授業の評価	「試験」： 「平均点」：授業態度、課題提出（20%）、レポート（10%） 「その他」：実習態度、実習評価など（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	・1回生時の実習の振り返りを行い、自分の課題を明確にしておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習は利用者の生活の場に入り、そして職員の仕事の場においてともに働くことになる。</li> <li>一人の社会人としての自覚を持ち、実習に臨むこと。</li> <li>・履修しても実習以前の評価によっては学外実習を認められない場合がある。</li> <li>・実習評価と授業評価を合わせて、総合的に評価する。</li> </ul>					
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房					
参考書	保育所保育指針、必要に応じ配布する					
その他	【オフィスワーカー】					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
総合音楽 (20750)	演習	2	2年次 前期	選択		池田 京子
授業の到達目標	1. 保育・教育現場で役立つ音楽の知識や技術を獲得している。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を「知る」「演奏する」をコンセプトに、課題や演奏の実習、グループワークを交えた授業を行う。</li> <li>・保育・教育現場で役立つよう、様々な楽器や楽曲の紹介、音楽理論・和声による編曲の基礎知識などを学習する。また、讃美歌や親しみやすい楽曲によるトーンチャイム合奏実習なども取り入れる。</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション、楽器の分類、音楽の起源など				
	2	世界の宗教と音楽、世界の三大オーケストラ、西洋・東洋・日本の音楽				
	3	西洋音楽の歴史、様々な作曲家の作品				
	4	"				
	5	和音の機能、和音の進行と禁則、和声音と非和声音、課題の実習				
	6	"				
	7	"				
	8	"				
	9	"				
	10	トーンチャイムによる合奏実習：讃美歌や親しみやすい楽曲の演奏 / その他				
	11	"				
	12	"				
	13	"				
	14	"				
15	"					
授業の評価	「試験」： レポート（50%） 「平常点」： 授業への取り組み状況、提出物など（50%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：幼児音楽Ⅰで学習したことを確認して授業に臨むこと。 復習：授業で学習した知識などを自分なりに整理すること。 課題を実際にピアノで演奏し、音で確かめること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安易に欠席しないこと。</li> <li>・受講者数がごく少数の場合は、トーンチャイムによる合奏実習を別の内容に変更する。</li> <li>・各自、ノートや五線紙を持参すること。</li> </ul>					
テキスト	バイエルピアノ教則本、『子どものうた100』など その他、適宜、プリントを配布する。					
参考書	和声－理論と実習Ⅰ 島岡情著 音楽の友社 和声と楽式のアナリーゼ 島岡譲著 音楽の友社 和声のしくみ・楽曲のしくみ 島岡情著 音楽の友社 その他、適宜、紹介する。					
その他	【Web】授業の前後や放課後、SNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
絵画表現 (20760)	演習	2	2年次 後期	選択		佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 絵画表現の基礎となるデッサンを学び、見る力を養う。 2. 様々な表現技法を学び、あそびや表現の幅を広げる。 3. 習得した技法を使って、こどもの造形表現の指導や、アート・デザインを志向する者に効果的な表現方法を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	様々な技法での表現を通して、基本的な画材の扱い方やそれらの混合技法を学び、展開方法を考える。造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	デッサン ①基本的な形の把握				
	2	デッサン ②明暗・光と影				
	3	デッサン ③質感の表現				
	4	水彩 ①アクションペインティング				
	5	水彩 ②アクションペインティング				
	6	水彩 ③マーブリング				
	7	版 ①身近な素材で版を作る				
	8	版 ②身近な素材で版を作る				
	9	染 ①反応染料を使用した絞り染め				
	10	染 ②直接染料を使用した絞り染め				
	11	水彩 ④アクリリックポーリング				
	12	研究制作 ①				
	13	研究制作 ②				
	14	研究制作 ③				
15	研究制作 ④					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業の参加度（40%） 「その他」：提出課題（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『造形芸術の基礎』 ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』 溝上慎一・成田秀夫編 東信堂					
その他	【オプショナル】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
WORD演習 II (20920)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1. WORD演習 I で習得した基礎技能を基に、より実践的な文書作成技法を演習し、実践力を身につける。 2. WORDを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力の習得をめざす。 3. 文書表現を通して、コミュニケーションとしての応用的な力を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	実社会ではコミュニケーション手段の一つとしてドキュメントの果たす役割は重要である。あらゆるビジネスシーンに応じて、的確で分かり易いドキュメント作成技法を習得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	文書表現の概観： コミュニケーション手段としての役割、文書表現手法の概要				
	2	文書表現手法1： 文章作成における基本事項（WORD演習 I の復習）				
	3	各種文書書式1： 文字書式、段落書式、インデント				
	4	各種文書書式2： ページ書式、ヘッダー・フッター、ページ区切り				
	5	文書表現手法2： コミュニケーションツールとしての文章表現手法				
	6	オブジェクト利用1： レイヤー構造、文字列の折返し、スタイルの利用				
	7	オブジェクト利用2： 図、クリップアート、トリミング				
	8	オブジェクト利用3： テキストボックス、ワードアート、SmartArt				
	9	文書の構成・校閲： 段組み、セッション区切り				
	10	表計算との連携： 表作成、Excelとの連携手法				
	11	文書表現手法3： 情報をわかりやすく的確に伝えるための文書表現手法				
	12	わかりやすい文章表現： 相手に的確に情報を伝える手法				
	13	総合実践演習1： わかりやすい文章表現の工夫1 PBL<課題解決型学習>				
	14	総合実践演習2： わかりやすい文章表現の工夫2 PBL<課題解決型学習>				
15	総合実践演習3： まとめ演習					
授業の評価	「試験」：筆記試験、実技試験（60%） 「平均点」：受講態度、小テスト（20%） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。					
テキスト	『完全マスター Word 2016』 noa出版（WORD演習 I の教科書と同じ、継続使用）					
参考書	『Word 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
EXCEL演習Ⅱ (20931)	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1. EXCEL演習Ⅰで習得した基礎技能を基に、より実践的な表計算技法の習得を目標とする。 2. EXCELを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力の習得を身につける。 3. 数値データの表現力の応用技能を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	数値情報を含む処理（データの視覚化・蓄積管理等）は実社会においても欠かせない手法である。これらの基本概念を理解し、具体的操作方法を演習していく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	表計算機能の基本事項： 数値情報の基本的な取扱い手法、視覚化・蓄積の重要性				
	2	特殊な表示形式作： シートの書式設定、セルの取扱、テーブルの書式設定				
	3	簡単な数式と関数： 数式の仕組み、データの集計				
	4	関数の利用（1）基本関数： 各種基本関数の基本操作				
	5	関数の利用（2）応用関数： 各種応用関数の応用利用				
	6	入力規則： 条件付き制御				
	7	条件付き書式： 条件付き数式でのデータ集計				
	8	グラフの作成1： 各種グラフを使つてのデータの視覚化処理				
	9	グラフの作成2： 各種グラフの特徴に合わせたグラフ選択				
	10	複雑なグラフ： 各種オブジェクトを使つて総合的な視覚化処理				
	11	データの並べ替えと抽出： データの統計的な取り扱い				
	12	データの集計： 検索・データベース関数利用による集計				
	13	総合実践演習1： 実社会でのさまざまな応用関数の利用形態1 PBL<課題解決型学習>				
	14	総合実践演習2： 実社会でのさまざまな応用関数の利用形態2 PBL<課題解決型学習>				
15	総合演習： まとめ演習					
授業の評価	「試験」：筆記試験、実技試験（60%） 「平均点」：受講態度、小テスト（20%） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。</li> <li>復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>課外においても継続的な練習が望ましい。</li> </ul>					
テキスト	『完全マスター Excel 2016』 noa出版（EXCEL演習Ⅰの教科書と同じ、継続使用）					
参考書	『Excel 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム					
その他	【オフィスワーカー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
プレゼンテーション演習 (20960)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	白井 智子
授業の到達目標	1. 何を課題にするか、目的は何か、どのようにプレゼンテーションをするかを考える力を身につける。 2. パワーポイントを活用して効果的なスライド作成力を習得する。 3. プレゼンテーションを通して正確に分かりやすく人に伝える力を身につける。					
学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。</li> <li>・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。</li> </ul>					
授業の概要	発表のテーマ選択、必要な資料・情報収集、レジュメおよびパワーポイントによるスライド作成、プレゼンテーションの練習を通して、効果的なプレゼンテーションの基本を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	プレゼンテーションの概要説明				
	2	テーマ、ねらい、内容を考えまとめる				
	3	パワーポイントの使用方法、効果的なスライドの作成法				
	4	プレゼンテーションのアウトラインを考える				
	5	必要な資料・情報の収集①				
	6	必要な資料・情報の収集②				
	7	スライドの作成①				
	8	スライドの作成②				
	9	スライドの作成③				
	10	スライドの作成④				
	11	レジュメの作成				
	12	リハーサル				
	13	プレゼンテーションと質疑応答、評価				
	14	評価に対する手直し				
15	反省と自己評価					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：出席、授業態度、授業への参加意欲（20%） 「その他」：プレゼンテーション（テーマ・内容、資料使用力、作成力、発表力）と授業内レポート提出（80%） ・プレゼンテーションのためのテーマの選択、資料・情報収集、レジュメ・スライド作成、発表等について、適宜個別にアドバイスをする。 ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのためのテーマの選択、資料・情報収集、レジュメ・スライド作成、発表等について、適宜個別にアドバイスをする。</li> <li>・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：選択したテーマと目的を意識して、必要な資料や情報を収集しておくこと。 復習：授業で作成したスライドが、選択したテーマや目的に合致しているかを見直しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	社会では情報発信力、コミュニケーション能力、プレゼン力など社会人基礎力が求められている。これらを身につけられるように意識してプレゼンテーションの準備・作品作成に臨むこと。					
テキスト	適宜プリントを配布する。					
参考書	『「分かりやすい説明」の技術』藤沢晃治著 BLUE BACKS新書 2002年					
その他	【WiSアワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルグラフィックス I (20960)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. AdobeのIllustrator・Photoshopの基本を習得する。 2. デジタルアートワークの実践を通してビジュアルデザインにおいて必要な要素を学び、効果的に情報を伝達する力を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	グラフィックデザインに必要な知識とスキルを学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	Illustrator ①特徴・基本操作				
	2	Illustrator ②図形の組み合わせ				
	3	Illustrator ③アイコンの作成				
	4	Illustrator ④アイコンの作成				
	5	Illustrator ⑤文字のデザイン				
	6	Illustrator ⑥文字のデザイン				
	7	Illustrator ⑦ロゴの作成				
	8	Illustrator ⑧ロゴの作成				
	9	Photoshop ①特徴・基本操作				
	10	Photoshop ②色調補正				
	11	Photoshop ③画像の切り抜き				
	12	Photoshop ④様々な加工				
	13	印刷物の作成 ①制作 (PBL)				
	14	印刷物の作成 ②制作 (PBL)				
15	振り返り・まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 授業参加度 (40%) 「その他」： 授業内課題 (40%) 提出作品 (20%)					
課題(レポート等)のフィードバック	質問については各ステップ毎に、全体又は個別に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握し、制作するものは予め考えておくこと。 身の回りのビジュアルデザインについてよく観察すること。 復習：各授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	筆記試験に備えて授業の内容はメモをとること。 作品の提出期限は守ること。					
テキスト						
参考書						
その他	【オアシスワー】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルグラフィックスⅡ (20941)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. AdobeのIllustrator・Photoshopの応用とInDesignの基本を習得する。 2. デジタルアートワークの実践を通してビジュアルデザインにおいて必要な要素を学び、効果的に情報を伝達する力を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	グラフィックデザインに必要な知識とスキルを学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	Illustrator ①画像トレース				
	2	Illustrator ②パスの編集				
	3	InDesign ①特徴・基本操作				
	4	InDesign ②チラシの作成 新規ドキュメントの作成・環境設定				
	5	InDesign ③チラシの作成 オブジェクトを描く				
	6	InDesign ④チラシの作成 定規とガイドでレイアウトを作成する				
	7	InDesign ④チラシの作成 文字の入力・間隔の調整				
	8	InDesign ④チラシの作成 画像を配置・オブジェクトに色をつける				
	9	InDesign ⑤実技小テスト				
	10	三つ折りパンフレットの作成 ① (PBL)				
	11	三つ折りパンフレットの作成 ② (PBL)				
	12	三つ折りパンフレットの作成 ③ (PBL)				
	13	三つ折りパンフレットの作成 ④ (PBL)				
	14	三つ折りパンフレットの作成 ⑤ (PBL)				
15	振り返り・まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業参加度（40%） 「その他」：授業内課題（40%） 提出作品（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	質問については各ステップ毎に、全体又は個別に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握し、制作するものは予め考えておくこと。 身の回りのビジュアルデザインについてよく観察すること。 復習：各授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	筆記試験に備えて授業の内容はメモをとること。 作品の提出期限は守ること。					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスワーカー】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルムービー I (20941)	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 課題を考え、何を訴えたいかを考え、表現の大切さを修得する。 2. もの作りにおいて完成させる大変さと達成感を獲得する。 3. 写真及びアニメをデジタルムービー化する編集技術を修得する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	撮影をした写真や描いたアニメのコマを編集ソフトによってムービー化し、発表し評価し合う。表現の大切さを学ぶとともに情報発信について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	制作写真ムービーの例を見て概要、目的を理解し、課題・題目・ねらいを考える				
	2	資料収集、撮影及び作成①				
	3	資料収集、撮影及び作成②				
	4	資料収集、撮影及び作成③				
	5	資料収集、撮影及び作成④				
	6	資料収集、撮影及び作成⑤				
	7	発表と評価				
	8	デジタルビデオの例を見て概要、目的を理解し、課題・題目・ねらいを考える				
	9	ビデオ撮影および作成①				
	10	ビデオ撮影および作成②				
	11	ビデオ撮影および作成③				
	12	ビデオ編集①				
	13	ビデオ編集②				
	14	ビデオ編集③				
15	発表と評価					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：作成2=80%、発表20%、計（100%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・課題、撮影、作成におけるアドバイスをする。 ・発表におけるプレゼンについてのアドバイスをする。					
事前・事後の学習等の内容	事前：毎回作品を作る前に常に課題・目的に沿っているかを見直し、資料収集・撮影を行う。 事後：作った作品に対する評価を試み、再度訴えたいことに合致しているか吟味する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	製作は、制作技術力だけではなく、何を訴えたいか、どう発信するかという発信力が大切である。この能力は社会人基礎力としても求められている。これらを身につけるように意識して取り組むこと。					
テキスト	指定なし					
参考書	Web上の編集ソフトの使用方法等を参考					
その他	【オフィス7-】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理実習Ⅱ (20971)	実習	1	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. ビジネスソフト表計算処理(Excel)とデータベース(Access)の違いについて理解する。 2. データベースで利用するオブジェクトについて理解するとともに各オブジェクトの使い方を修得する。 3. Excelで作成した数種類のデータをインポートしてデータベースとして活用できるようになる。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	データベースのオブジェクトであるテーブル、クエリ、レポート、フォームそれぞれの特性を理解し、データベースの正しい仕組みを修得し、データを管理・活用できるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	データベース(Access)を使う理由				
	2	テーブルの設計・整合性・インポート				
	3	テーブルの設計・整合性・インポート				
	4	クエリの基本①				
	5	クエリの基本②				
	6	リレーションシップ①				
	7	リレーションシップ②				
	8	レポート				
	9	フォーム①				
	10	フォーム②				
	11	オリジナル学生情報データベース作成①				
	12	オリジナル学生情報データベース作成②				
	13	オリジナル学生情報データベース作成③				
	14	オリジナル学生情報データベース作成④				
15	オリジナル学生情報データベース作成⑤ 発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：各オブジェクト作成（50%）、オリジナル学生情報データベース作成（50%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・テーブル設計やクエリ設定、リレーションシップの設定について助言力する。 ・各オブジェクトの理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：次回テーマに該当するオブジェクト等を学習し、授業で取り組めるようにしておくこと。 事後学習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。特に正確にデータを取り扱う能力は必要とされている。 表計算処理(Excel)とは違うデータベースAccessについてはとても重要な能力である。 社会人としての情報処理能力を修得することを意識して学ぶこと。					
テキスト	『Access本格作成入門』今村ゆうこ著（技術評論社）2017年					
参考書						
その他	【オフィスワーカー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
簿記演習 (21012)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	簿記3級検定試験レベルの問題を解く力をつける。					
学位授与の方針との関連	・数科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本講義は初級簿記A・Bを履修し基礎力をつけたうえで、簿記検定3級問題が解ける力を養う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	試算表① 合計試算表、残高試算表				
	2	決算手続き①				
	3	決算手続き② 現金過不足、貸倒引当金				
	4	決算手続き③ 減価償却、有形固定資産売却				
	5	決算手続き④ 売上原価の算定、消費税納付額計算				
	6	決算手続き⑤ 収益の前受、費用の未払、収益の未収				
	7	決算手続き⑥ 法人税等の処理、問題				
	8	決算手続き⑦ 問題				
	9	決算手続き⑧ 問題				
	10	簿記3級レベル演習①				
	11	簿記3級レベル演習②				
	12	簿記3級レベル演習③				
	13	簿記3級レベル演習④				
	14	簿記3級レベル演習⑤				
15	簿記3級レベル演習⑥					
授業の評価	「試験」：定期試験（60%） 「平常点」：小テスト（40%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：テキストの不安な箇所を、必ず目を通しておくこと。 ・復習：問題を解いて間違ったところ、解らなかったところを見直すこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・分からない問題、用語、勘定科目等があれば必ず理解するように心掛けること。					
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書 第9版』：滝澤ななみ著 TAC出版 『日商簿記検定模擬試験問題集3級 模試8回』：ネットスクール出版					
参考書						
その他	【オプショナル】					

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ会計 I (21020)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 実務で使用されている会計ソフト「弥生会計」について、基本的な操作を学ぶ。 2. 企業の一連の取引を入力することにより、コンピュータ会計の基礎知識を習得する。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本講義は初級簿記Aを履修した者で、簿記の基礎を学習したことを前提に行う。 ・課題をこなすことによりコンピュータ会計の力をつけるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	企業の経営活動と経理・財務、経営情報の活用と作成について				
	2	計算書の仕組みと役割、経理のルールについて				
	3	会計ソフトの操作について				
	4	会計データの入力操作と帳簿の体系について				
	5	基幹業務の内容とビジネス法務について				
	6	企業の基幹業務と会計処理 現金、小切手、預金関連				
	7	企業の基幹業務と会計処理 売上、仕入関連				
	8	企業の基幹業務と会計処理 経費、債権・債務関連				
	9	企業の基幹業務と会計処理 給与関連				
	10	企業の税金業務と会計処理 法人税、消費税関連				
	11	会計データの入力処理と集計				
	12	会計データの入力処理と集計				
	13	会計データの入力処理と集計				
	14	会計データの入力処理と集計				
15	月次決算に関する業務と会計処理					
授業の評価	「試験」：定期試験（60%） 「平常点」：課題（40%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・提出された課題は、次の時間にコメントを付けて返却する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：前回の内容を振り返り、疑問点があれば書き出しておく。 ・復習：解らなかつたところ、疑問に思った点はテキスト等で理解をすること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ） 事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	・課題をこなすことで力がつくので課題は必ずすること。					
テキスト	『令和4年度版コンピュータ会計基本テキスト（弥生会計22プロフェッショナル）』：実務出版					
参考書						
その他	【OJISアワー】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ会計Ⅱ (21020)	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 会計ソフトの使用方法を修得する。 2. 企業の一連の取引を入力することにより、コンピュータ会計の基礎知識を修得する。 3. 個々の取引の内容を自ら考え、処理し、企業会計業務について理解する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本講義はコンピュータ会計Ⅰを履修したうえで、企業の会計業務の基礎を学ぶ。 ・課題をこなすことによりコンピュータ会計の力をつけるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	企業と会計処理				
	2	会計ソフトの操作基礎知識				
	3	企業の基幹業務と会計処理①				
	4	企業の基幹業務と会計処理②				
	5	税金に関する業務と会計処理				
	6	会計データの入力処理と集計①				
	7	会計データの入力処理と集計②				
	8	会計データの入力処理と集計③				
	9	月次決算にかんする業務と会計処理				
	10	会計データの入力①				
	11	会計データの入力②				
	12	コンピュータ会計総合練習①				
	13	コンピュータ会計総合練習②				
	14	コンピュータ会計総合練習③				
15	コンピュータ会計総合練習④					
授業の評価	「試験」：定期試験（60%） 「平常点」：課題（40%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・提出された課題は、次の時間にコメントを付けて返却する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：次回の内容を読み、疑問点があれば書き出しておく。 ・復習：課題で解らなかったところ、指示を受けたところを復習する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	・課題をこなすことは力がつくので課題については積極的に取り組むこと。					
テキスト	『令和4年度版コンピュータ会計基本問題集（弥生会計22プロフェッショナル）』：実教出版					
参考書						
その他	【ワイズワール】授業の前後					

1 年 次

専 攻 科

専  
攻  
科  
1年次

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育心理学特論	講義	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	崎浜 聡
授業の到達目標	1. 心理学の知見から幼児を理解する。 2. 心理学の知見を応用した保育実践の技法を学ぶ。 3. 教育効果に関する評価の方法を理解する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	心理学における「認知」「学習」に関する理論を学び、これらの知見を教育・保育実践に活用する手法を中心に学んでいく。心理学の知見を活用した実践のあり方についてグループディスカッションを通して理解を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 授業概要について				
	2	認知過程（学習）の基礎 - 人間の学び続ける仕組みとは -				
	3	人間が自然から学ぶ仕組み① - スキーマについて -				
	4	人間が自然から学ぶ仕組み② - 子どもの認知について -				
	5	遊びが学びになるとは① - 遊びと学びの関係 -				
	6	遊びが学びになるとは② - 幼児の遊びの特徴 -				
	7	遊びが学びになるとは③ - 遊びの動機づけ -				
	8	事例分析① (グループワーク)				
	9	事例分析② (グループワーク)				
	10	事例分析③ (グループワーク)				
	11	事例分析④ (グループワーク)				
	12	事例分析⑤ (グループワーク)				
	13	学び（遊び）の評価法について				
	14	近年の教育心理学における幼児教育の方法				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：授業内課題（70%）提出物（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（120分） 事後学習（120分）					
履修上の注意						
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【7/15アワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容特論	講義	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	澁田 陽子
授業の到達目標	1. 「子どもたちの創造性を豊かにする」ために相応しい保育現場での幼児の生活や保育者の役割を理解する。 2. 保育全体をとらえる中で、「子どもたちの創造性を豊かにする」指導や援助法を作成する能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	幼稚園教育要領や保育指針に記載されている「創造性を豊かにする」に焦点をあて、授業を通して、指導法、援助法を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼児教育の基本を、現場での実践をディスカッションを含めながら、理想と現実を考える。				
	2	社会性を育てる表現遊びを考える				
	3	社会性を育てる表現遊びを体験する				
	4	心を育てる表現遊びを考える				
	5	心を育てる表現遊びを体験する				
	6	創造力を育てる表現遊びを考える				
	7	創造力を育てる表現遊びを体験する				
	8	感覚や気づきを育てる表現遊びを考える				
	9	感覚や気づきを育てる表現遊びを体験する				
	10	1回目から9回目の授業を基に、表現教育を考案し発表、ディスカッションを行う。				
	11	応答的保育の理論について学ぶ。				
	12	子どもとの言葉を通しての教育について学ぶ。				
	13	体を育てる表現遊びを考える				
	14	体を育てる表現遊びを体験する				
15	これからの保育方法について、考えあう。					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：毎授業ごとに配布するミニレポート（40%） 「その他」：発表（40%）、小テスト（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	配布した資料を読み込んでおく。1人1回、保育内容について発表を行う					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	積極的に参加してください					
テキスト	『誰にも聞けなかった！保育者のいろいろお悩み相談』 徳田克己監修・水野智美著/文；西村実穂著/文 中央法規出版					
参考書	『保育の表現技術実践ワーク』今井真理編著（保育出版社） 『応答的保育』宮原和子・宮原英種 ナカニシヤ出版					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児理解特論	講義	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	津田 由加子
授業の到達目標	1. 幼児の内面に湧き起こる様々な感情に目を向け、表出する行動を検討し、幼児理解を深める。 2. 幼児一人ひとりの特性を理解し、個に応じた指導のあり方を学ぶ。 3. 幼児の年齢の違いによる育ちや課題を理解し、年齢に応じた具体的な保育実践方法を学ぶ。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び、実践力を習得している。					
授業の概要	幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を身につけるために、観察の視点、記録の仕方、保育計画等について、講義やグループ討議を通して解説し検討・分析・考察を行う。また、映像によるカンファレンスやロールプレイを行うことにより実践力を高める。さらに、レジュメ・レポートを作成して発表し、検討・分析・考察を深めるという形式で授業を行う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	環境を通しての教育と子ども理解				
	3	子ども理解とは				
	4	子どもの発達する姿をとらえる				
	5	子どもの発達と特性				
	6	子どもの発達と遊び				
	7	子どもを理解するための保育者の姿勢				
	8	子ども理解の方法				
	9	子ども理解にもとづく保育者の援助				
	10	事例を通して考える ①遊びの場面				
	11	事例を通して考える ②生活の場面				
	12	事例を通して考える ③クラス全体の活動の場面				
	13	子ども理解と評価				
	14	子育ての支援と保育相談				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（30%） 「その他」：授業内課題（50%）・ワークシート等提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：事前に配布された資料を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：各回の配布プリント等を通読し授業内容について理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	・配付されたプリントはファイリングしておくこと。					
テキスト	適宜プリント配付					
参考書	授業内で紹介する					
その他	【7/15アワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育学研究 I	演習	2	1年次 前期	選択		藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 文献を通して、遊びの本質について理解を深め、専門性を高める 2. 子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる 3. 乳幼児期の子どもにおける現状を理解し、考察を深めて検討することができる					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している					
授業の概要	この授業では、園での子どもの遊びをどう理解するか、どう保育を構想するかについて明らかにし遊びについての理解を深め、専門性を高めることを目的とする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	遊びを中心とした保育とは				
	3	子どもの遊びを理解する				
	4	子どもの遊びを援助する				
	5	保育に生きる記録とは				
	6	保育記録のなかの計画性				
	7	育ち合う子どもと保育者				
	8	行事のとらえ方と指導				
	9	子どもと保育者が織りなす生活				
	10	遊びの意義				
	11	総合的な学びを保障する				
	12	保育者の役割				
	13	観察法について				
	14	エピソードをもとに討論する				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平均点」：出席状況、授業態度（40%） 「その他」：授業内課題（50%）、提出物（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、次回使用するテキストを配布するので、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	必ず配布資料を持参すること。					
テキスト	特になし					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』					
その他	【オフィスアワー】					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育学研究Ⅱ	演習	2	1年次 後期	選択		藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 保育・幼児教育の歴史的な展開と特質を時代的な背景を交え理解し、説明できる 2. 乳幼児期の子どもにおける現状を理解し、考察を深めて検討することができる 3. 子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している					
授業の概要	この授業では、保育・幼児教育に対する認識や取り組みを歴史的に読み解き理解を深め、現代の保育・幼児教育をめぐる問題を考察することを目的とする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	諸外国の教育思想				
	3	諸外国の教育の歴史				
	4	日本の教育思想・歴史				
	5	海外の幼児教育から考える (1) 取り組みの比較を通して				
	6	海外の幼児教育から考える (2) 保育者に視点をあてて				
	7	現代の保育・幼児教育をめぐる現状				
	8	中間まとめ				
	9	現場から学ぶ(1) 保育所				
	10	現場から学ぶ(2) 幼稚園				
	11	現場から学ぶ(3) 幼保連携型認定こども園				
	12	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える (1) 子どもの遊びと活動				
	13	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える (2) 環境構成に着目して				
	14	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える (3) 保育者の役割				
15	学生のプレゼンテーションによる振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平均点」：出席状況、授業態度 (40%) 「その他」：授業内課題 (50%)、提出物 (10%)					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	毎回、課題を出すので、次回までに課題を行なって授業に臨むこと また、授業内容についてまとめておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (135分) 事後学習 (135分)					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること 配付資料をファイリングして持参すること					
テキスト	特になし					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』					
その他	【オプスワー】					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
発達心理学特論	講義	2	1年次 前期	選択		崎浜 聡
授業の到達目標	1. 胎児から幼児期の発達段階について理解する。 2. 発達段階を踏まえた保育実践技法を修得する。 3. 個々の発達の差異に柔軟に対応する実践技法を学ぶ。 4. 障害について発達の視点から理解する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	乳幼児期の発達を出発点に「視覚」「聴覚」「言語」及び「知識」「身体」「社会性」の発達について概観する。また、発達段階に応じた援助の実践方法を修得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 授業の概要				
	2	発達心理学の実験方法 - 選好注視法 -				
	3	視覚の発達① - 形と動き -				
	4	視覚の発達② - 色と空間 -				
	5	視覚の発達③ - 顔認識 -				
	6	聴覚の発達① - 胎児から新生児 -				
	7	聴覚の発達② - 言葉及び音楽 -				
	8	言語の発達				
	9	知識の発達				
	10	身体の発達				
	11	社会性の発達				
	12	発達と障害				
	13	幼児の「育ち」について				
	14	発達の評価				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：提出物、授業態度（30%） 「その他」：授業内課題（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意						
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【ホワイト】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
児童家庭福祉特論	講義	2	1年次 前期	選択		吉田 隆三
授業の到達目標	1. 児童憲章、子どもの権利に関する条約から児童の権利について理解する。 2. 児童家庭福祉の理解を深め、子どもとその家族が必要とする具体的な援助の方法を身につける。 3. 児童家庭福祉に関連する法律・制度・施設・機関等の社会的支援の状況を知り、さらに他の社会資源との連携・協調して、問題解決に導く能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	家庭での児童養育を支援する必要性についての理解を深め、児童家庭福祉実践に必要な知識と技術について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	現代社会の子どもと家庭の状況について				
	2	子どもの権利と権利擁護について				
	3	諸外国と日本の児童家庭福祉について				
	4	児童福祉法、その他児童関連法について				
	5	児童家庭福祉行政と実施機関、施設について				
	6	子育て支援サービスと児童健全育成施策について				
	7	母子保健の理念とサービス実施と体系について				
	8	保育所と待機児童、保育サービスについて				
	9	児童虐待、DVについて				
	10	社会的養護の状況と今後の動向、課題について				
	11	ひとり親家庭の現状と生活状況、福祉サービスについて				
	12	障がい児の定義と現状、福祉サービスについて				
	13	情緒障がい児の定義と対応、非行少年の法制度とその対応について				
	14	児童家庭福祉にかかわる専門職とその専門性について				
	まとめ、ふりかえり(グループ発表)					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、講義ノート（30%） 「その他」：レポート等提出物（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 レポート等の課題はコメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	自らの学習に対して、意欲的に取り組むこと					
テキスト	『保育と児童家庭福祉』櫻井奈津子編 みらい 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい					
参考書	必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オイスター】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会福祉特論	講義	2	1年次 後期	選択		吉田 隆三
授業の到達目標	1. 社会福祉学の基本的概念について理解し、説明できる力を身につける。 2. 社会福祉の専門性と専門職について理解する。 3. 現代社会福祉学の課題を発見し、解決に向けて考える能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会福祉の形成過程、先人の社会福祉学研究対象と研究方法論について学び、現代社会福祉学について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	生活課題と社会福祉について				
	2	社会福祉の概念と保育と社会福祉の関係について				
	3	欧米と日本の社会福祉のあゆみについて				
	4	社会保障の概念と体系（社会保険、公的扶助）について				
	5	高度経済成長と社会福祉六法の成立について				
	6	福祉の行政機関と福祉の財源について				
	7	社会福祉施設の目的と運営について				
	8	子どもの権利条約と保育制作の動向について				
	9	社会福祉の専門職と専門性、倫理について				
	10	相談援助の原則とその動向について				
	11	日常生活自立支援事業と第三者評価について				
	12	権利擁護と苦情解決のしくみについて				
	13	地域福祉の理念と方法について				
	14	ネットワークの重要性と方法				
15	社会福祉専門職としての保育士のあり方について					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、講義ノート（30%） 「その他」：レポート等提出物（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 レポート等の課題はコメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	自らの学習に対して、意欲的に取り組むこと					
テキスト	『保育と社会福祉』橋本好市編 みらい 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい					
参考書	必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと生活	演習	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	山本 郁子
授業の到達目標	<p>1. 今日の乳幼児、児童を取り巻く生活環境について様々な角度から理解する。</p> <p>2. 学習指導要領をもとに生活科の目標や学習内容を理解する。保・幼・小の保育・教育に連続した生活習慣に対する理解を深める。</p>					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の子どもたちを取り巻く社会問題、学校現場の状況や子どもの様子を把握するとともに幼児教育と小学校教育との連続性を踏まえた体験的な活動の必要性について学ぶ。</li> <li>昭和初期の子どもたちの家庭における役割を民具を使って、香寺民族資料館館長による体験学習で学ぶとともに、現代の子どもたちの生活を見つめ直す。</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・子どもの生活実態を考察、課題を検討				
	2	情報化社会における乳幼児の生活				
	3	子どもの理想的な生活リズム				
	4	保・幼・小の連続した生活習慣				
	5	幼児教育からみた生活科とは				
	6	生活科の実践① 生活の中の化学			(体験学習)	
	7	生活科の実践② 野外で生活			(体験学習)	
	8	実践のプレゼンテーション				
	9	昔の暮らしから学ぶ① 穀物を粉にする			ゲストスピーカーによる講演	
	10	昔の暮らしから学ぶ①				
	11	昔の暮らしから学ぶ② 稲作の栽培・収穫過程を学ぶ				
	12	昔の暮らしから学ぶ②				
	13	昔の暮らしから学ぶ③ 衣服の歴史。綿を作り、綿糸から布に				
	14	昔の暮らしから学ぶ③				
15	まとめ：					
授業の評価	<p>「試験」：</p> <p>「平常点」：授業態度、学習意欲、提出物（40%）</p> <p>「その他」：授業内課題（60%）</p>					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容等に関する質問については、個別又は、全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自計画的に取り組む。</li> <li>予習：低学年の子どもの発達特性に関する書籍に目を通しておくこと。</li> <li>常に、子どもにとって日常生活の中で教材になりそうな自然環境に関心を持つ。</li> <li>復習：授業内容についてまとめておく。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>学外活動授業に対する意欲的な姿勢、学生としてのマナーを重視する。</li> <li>欠席の無いよう自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。</li> </ul>					
テキスト	資料を配布する。					
参考書	『幼稚園教育要領解説』文科省 『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領 生活編』					
その他	【Wiis777】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
図画工作演習	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 造形教育において自らの目的を見出す。 2. 目的を持って自らの研究に取り組む。 3. 他者との違いを受け入れる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	造形表現を自分で考察し、保育の現場に応用できるようにする。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。 自分なりに造形教育のビジョンを持って研究に取り組む。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	素材研究 ①				
	2	素材研究 ②				
	3	素材研究 ③				
	4	素材研究 ④				
	5	素材研究 ⑤ 発表				
	6	表現研究 ①				
	7	表現研究 ②				
	8	表現研究 ③				
	9	表現研究 ④				
	10	表現研究 ⑤ 発表				
	11	修了研究 ①				
	12	修了研究 ②				
	13	修了研究 ③				
	14	修了研究 ④				
15	修了研究 ⑤ 発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業参加度（40%） 「その他」：課題（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はここで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『造形芸術の基礎』ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』溝上慎一・成田秀夫編 東信堂					
その他	【オプショナル】水曜の昼休み 造形準備室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容研究「人間関係」	演習	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	川島 直子
授業の到達目標	1、領域「人間関係」のねらいと内容、保育実践上の配慮について理解を深める 2、人とのかかわる力をはぐくむための保育方法を考えることができる 3、人とのかかわりを育む遊びの重要性を理解する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもは生活の中で、人とのかかわりをどのような過程を経て発達させていくのか、また、それを支える保育者の援助はどうあるべきなのか等、「人間関係」領域の理解を深めていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	「人間関係」とは				
	2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本				
	3	自分を知る～偏見と差別の異なり～				
	4	生態学的環境として関係をとらえる				
	5	乳児の保育所における人とのかかわり				
	6	保育者が居場所一ものを「欲張る」ことにも意味がある				
	7	自己主張と自己抑制—幼児期の「なかよし」とは?				
	8	園生活の充実感を支えるもの				
	9	かけがえのない一人一人の存在				
	10	保育者の援助と言動				
	11	道徳性・規範意識の芽生え				
	12	協同する体験を重ねること				
	13	特別なニーズをもつ子ども				
	14	小学校へつなぐ				
15	質の向上に向けて					
授業の評価	「試験」：レポート試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：課題（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	与えられた課題は必ず期限を守ること。					
テキスト	『社会情動的スキルを育む 保育内容人間関係』 無藤隆 編 北王路書房					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』					
その他	【7/17アワー】 講義日のお昼休み。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容研究「表現」	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	澁田 陽子
授業の到達目標	1. 音楽表現のための基礎理論を習得する。 2. 基礎的な音楽理論に基づいた表現のための応用力を身につける。 3. 保育現場でのより具体的な音楽表現の可能性と実践力を養う。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育現場を念頭に置いた音楽表現の実践的な展開能力の育成を目標とする					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育内容領域「表現」について幼稚園教育要領「保育内容表現」を読み取る。				
	2	子どもの発達と音楽表現活動について子どもの発達の過程と音楽表現の関係性を学ぶ。				
	3	乳幼児の「わらべうた・あそびうた」の意義				
	4	「わらべうた・あそびうた」の実践				
	5	保育現場における音楽表現の実際「季節のうた」				
	6	保育現場における音楽表現の実際「生活のうた」				
	7	小学校との接続における音楽表現活動の研究 学習指導要領「音楽」を研究する。				
	8	総合的な表現活動の研究 (1) 指導案と指導計画を立案する				
	9	総合的な表現活動の研究 (2) 指導案の確認と検証 立案した指導案を発表する。				
	10	総合的な表現活動の研究 (3) 音作り グループワーク				
	11	総合的な表現活動の研究 (4) うたづくり グループワーク				
	12	総合的な表現活動の研究 (5) 斉唱時の伴奏方 講義				
	13	総合的な表現活動の研究 (6) 斉唱時の伴奏方 実践				
	14	総合的な表現活動の研究 (7) リトミックとは				
15	総合的な表現活動の研究 (8) リトミックの実践					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度・意欲（10%） 「その他」：提出物（30%）、発表（40%）、小試験（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	幼稚園教育要領「保育内容表現」を熟読しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	個性豊かなグループ発表を期待している。					
テキスト	『誰にも聞けなかった！保育者のいろいろお悩み相談』□ 徳田克己監修・水野智美著/文；西村実穂著/文 中央法規出版□					
参考書						
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践研究 I	演習	2	1年次 後期	選択		崎浜 聡
授業の到達目標	1. 子どもにおける遊びの意義を理解する。 2. 幼稚園指導要領の保育内容を踏まえた遊びを理解する。 3. 遊びで育つ内容を把握し、環境構成を通した指導案を作成することができる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもの遊びを通した育ちを支援するために遊びそのものを実際に行う。子どもの日常生活で生じる遊びの中には個性的な遊びがあり、これを「名前のないあそび」と呼ぶが、この子どもの遊びの本質を出発点として、保育における遊びとは何か、を探索していく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 授業の概要				
	2	幼児教育における遊びの意義				
	3	子どもの遊び研究①:手を使った遊び				
	4	子どもの遊び研究②:足を使った遊び				
	5	子どもの遊び研究③:体を使った遊び				
	6	子どもの遊び研究④:身近な素材を使った遊び				
	7	子どもの遊び研究⑤:季節の遊び				
	8	子どもの遊び研究⑥:行事の遊び				
	9	子どもの遊び研究⑦:言葉を使った遊び				
	10	子どもの遊び研究⑧:名前のないあそび				
	11	遊びの指導案作成				
	12	教材研究①				
	13	教材研究②				
	14	模擬授業発表				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」: 「平常点」: 授業態度 (20%) 「その他」: 指導案 (60%) 提出物 (20%) ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題 (レポート等) のフィードバック						
事前・事後の学習等の内容	予習: 該当箇所の通読を行うこと。 復習: 授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (135分) 事後学習 (135分)					
履修上の注意						
テキスト	資料を配布する。					
参考書	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008年					
その他	【オプショナル】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
体育演習	演習	2	1年次 後期	選択		小野 昌二
授業の到達目標	1. 保育としての体育プログラムの立案、実施することができる。 2. 段階的指導及び展開方法を学び、指導実践により指導技術および技能を身につける。 3. 実際の現場に見立てた計画を立てる指導力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	幼児期の運動遊びに携わる保育者が保育現場で、プログラムを立案し、実践できるように必要な基本的な知識や技能を修得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・アイスブレイク				
	2	幼児期の発育発達を理解（運動・認知・情緒）				
	3	運動の分解と段階的指導				
	4	運動技能と運動遊びの立案と実施（歩く・走る・跳ぶ）				
	5	運動技能と運動遊びの立案と実施（まわる・ぶらさがる・よじのぼる）				
	6	運動技能と運動遊びの立案と実施（押す・引く・支える）				
	7	運動技能と運動遊びの立案と実施（くぐる・はう・ころがる・バランスをとる）				
	8	運動技能と運動遊びの立案と実施（身をかかわす・投げる・ころがす）				
	9	運動技能と運動遊びの立案と実施（つく・ける・とる・まわす）				
	10	運動技能と運動遊びの立案と実施（動きの表現・リズムに合わせる）				
	11	集団あそびの立案と実施				
	12	ルールのある遊びの立案と実施				
	13	サーキット運動の立案と実施				
	14	45分の運動遊びの立案と実施				
15	45分の運動遊びの立案と実施					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度及び取り組み意欲（50%） 「その他」：指導実践の評価（30%） 指導案（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。</li> <li>・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。</li> <li>・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。</li> <li>・各自で水分およびタオルを用意する。</li> <li>・各自で貴重品を管理する。</li> <li>・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。</li> </ul>					
テキスト	適時資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</a>					
その他	【オプショナル】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理研究 I	演習	2	1年次 後期	選択		津田 敏
授業の到達目標	1. ビジネスソフト表計算処理(Excel)とデータベース(Access)の違いについて理解する。 2. データベースで利用するオブジェクトについて理解するとともに各オブジェクトの使い方を修得する。 3. Excelで作成した数種類のデータをインポートしてデータベースとして活用できるようになる。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している					
授業の概要	データベースのオブジェクトであるテーブル、クエリ、レポート、フォームそれぞれの特性を理解し、データベースの正しい仕組みを修得し、データを管理・活用できるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	データベース(Access)を使う理由				
	2	テーブルの設計・整合性・インポート				
	3	テーブルの設計・整合性・インポート				
	4	クエリの基本①				
	5	クエリの基本②				
	6	リレーションシップ①				
	7	リレーションシップ②				
	8	レポート				
	9	フォーム①				
	10	フォーム②				
	11	オリジナル学生情報データベース作成①				
	12	オリジナル学生情報データベース作成②				
	13	オリジナル学生情報データベース作成③				
	14	オリジナル学生情報データベース作成④				
15	オリジナル学生情報データベース作成⑤ 発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：各オブジェクト作成(50%)、オリジナル学生情報データベース作成(50%) 「その他」：					
課題(レポート等)のフィードバック	・ テーブル設計やクエリ設定、リレーションシップの設定について助言助力する。 ・ 各オブジェクトの理解不足について指摘し補う。 ・ 授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：次回テーマに該当するオブジェクト等を学習し、授業で取り組めるようにしておくこと。 事後学習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。特に正確にデータを取り扱う能力は必要とされている。表計算処理(Excel)とは違うデータベースAccessについてはとても重要な能力である。社会人としての情報処理能力を修得することを意識して学ぶこと。					
テキスト	『Access本格作成入門』今村ゆうこ著(技術評論社)2017年					
参考書						
その他	【オプショナル】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修士研究 I-1	演習	6	1年次 通期	選択		崎浜 聡
授業の到達目標	1. 研究論文の書き方を理解する 2. 関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する 3. 第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	前期は、研究論文の書き方について、とくにテーマ設定や論文の構成についてテキストを中心に学んでいく。 それぞれが関心のあるテーマに基づいた先行研究を読み、担当ごとにレジュメにまとめ、調査方法や研究手段などを確認する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	研究の意義				
	3	研究の計画				
	4	研究方法				
	5	テーマの設定				
	6	テーマに関する先行研究調査 1				
	7	テーマに関する先行研究調査 2				
	8	先行研究調査の発表				
	9	研究の目的				
	10	予備研究の方法 1				
	11	予備研究の方法 2				
	12	予備調査の実施				
	13	予備調査のまとめ				
	14	倫理的配慮と情報保護について				
15	研究論文の構成について					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：出席状況・授業態度（40%） 「その他」：プレゼンテーション（50%）、課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習では、次回授業で使用する資料の一読や関連用語の確認等を行う。</li> <li>事後学習では、前回授業の振り返りや課題への取り組み等を行う。</li> </ul>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 225 分） 事後学習（ 225 分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生の課題や制作物、質問等について授業内で共有する場合がある（共有する場合は、事前に本人に使用許可を求める）。</li> <li>課題の提出期限は必ず守ること</li> </ul>					
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、資料を配布する。					
その他	【ホワイトボード】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修了研究 I-2	演習	6	1年次 通期	選択		崎浜 聡
授業の到達目標	1. 研究論文の書き方を理解する。 2. 関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する。 3. 第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	後期は、各自関心のあるテーマを決め、終了研究論文の研究計画を作成するとともに、調査方法や分析方法をプレゼンテーションやディスカッションをしながら検討し、中間発表を経て自らの調査を進める。					
授業計画	回数	授業内容				
	16	研究テーマの決定				
	17	研究計画の作成 1				
	18	研究計画の作成 2				
	19	研究計画の発表				
	20	研究調査 1				
	21	研究調査 2				
	22	研究調査の発表				
	23	実践記録法 1				
	24	実践記録法 2				
	25	実践記録法の発表				
	26	調査・記録の集計 1				
	27	調査・記録の集計 2				
28	考察・反省					
29	プレゼンテーションの作成					
30	修了研究論文の中間発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：出席状況・授業態度（40%） 「その他」：プレゼンテーション（50%）課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（225分）事後学習（225分）					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること。					
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、資料を配布する。					
その他	【Q&A】 随時					

2 年 次  
専 攻 科

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育者論特講	講義	2	2年次 後期	選択	幼一種免選択	津田由加子
授業の到達目標	1. 教師の役割・専門性について理解する。 2. 現代の教育について理解する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	教職に関する専門的な知識、課題について講義、演習等で検討・考察・分析をする。 また、グループ討議、視聴覚機器を使用して発表するという形式も用いながら授業を進める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	教職論				
	2	教育の本質				
	3	子どもの発達と教育				
	4	幼稚園教育の基本				
	5	幼保小連携教育				
	6	家庭教育・地域社会の教育				
	7	子どもの遊びと学び				
	8	子どもの教育的環境				
	9	教師の特性				
	10	教師の社会的役割				
	11	組織の一員としての教師				
	12	教職への実践的な学び（1）子ども一人ひとりへの指導のあり方				
	13	教職への実践的な学び（2）集団指導のあり方				
	14	学び続けるための教師の課題				
15	教師の職務と服務規定					
授業の評価	「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：授業内課題（50%）・提出物（30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	・はさみ、のりは毎回必ず持参すること。					
テキスト	必要に応じて指示あるいはプリント配布					
参考書	授業時に提示する。					
その他	【ワイアワ】 授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育原理特論	講義	2	2年次 前期	選択	幼一種免選択	崎浜 聡
授業の到達目標	1. 保育者の専門性を原理的に理解する。 2. 保育者の専門性を高めようとするモチベーション（動機づけ）の原理に気づく。 3. 指導要録や園務分掌など保育者の実務力を育む。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	保育者の専門性は「見える専門性」と「見えない専門性」に大別されるが、両者の特性を原理的側面から理解し、その中でも実務力(見える専門性)である「指導要録」や「園務分掌」等を修得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 教育を原理的に理解することとは				
	2	保育者の質向上を支える原理とは				
	3	保育者の専門性（1）：「見える専門性」と「見えない専門性」				
	4	「見える専門性」の事例検討（グループワーク）				
	5	「見えない専門性」の事例検討（グループワーク）				
	6	保育者の専門性（2）：幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園園児指導要録について				
	7	幼稚園幼児指導要録の作成①：学籍に関する記録				
	8	幼稚園幼児指導要録の作成②：指導に関する記録				
	9	幼稚園幼児指導要録の作成③：3歳園児の記録の書き方				
	10	幼稚園幼児指導要録の作成④：4歳園児の記録の書き方				
	11	幼稚園幼児指導要録の作成⑤：5歳園児の記録の書き方				
	12	保育者の専門性（3）：子どもの育ちを記録する視点				
	13	保育者の専門性（4）：保育所・こども園・小学校との連携・接続				
	14	保育者の専門性（5）：園務分掌、園内園外研修、初任者研修、中堅者研修、キャリアアップ研修				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：レポート課題（70%） 提出物（10%） ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題（レポート等）のフィードバック						
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意						
テキスト	『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』2021年、文科省、フレーベル館 『指導と評価に生かす記録』2013年、文科省、フレーベル館					
参考書	適宜、資料を配布する。					
その他	【オプショナル】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育制度論特講	講義	2	2年次 前期	選択	幼一種免選択	崎浜 聡
授業の到達目標	1. 教育の制度、行政、法規に関する基礎的な歴史、用語・事実に関する知識を獲得する。 2. 幼児教育の制度、行政、法規に関する基礎的な歴史、用語・事実に関する知識を獲得する。 3. 幼児教育の課題を制度の視点から理解し、課題解決に必要な実践へと結びつけて考えることができる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	教育制度の成り立ちと今日の学校教育制度を概観し、それらの基本的な問題を検討する。とりわけ、幼児教育・保育制度の問題について具体的に考察する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 授業の概要				
	2	教育制度について；教育の理念とその実現のための法との関係				
	3	公教育の誕生について；教育制度の原点とは				
	4	近代公教育制度の成り立ち①：西欧における教育制度・教育関係法規について学ぶ。				
	5	近代公教育制度の成り立ち②：日本における教育制度・教育関係法規について学ぶ。				
	6	教育法規①：日本国憲法、改正教育基本法				
	7	教育法規②：改正学校教育法				
	8	教育法規③：改正学校教育法施行規則				
	9	教育法規④：幼稚園教育指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
	10	幼児教育制度の課題①：幼保一元化				
	11	幼児教育制度の課題②：子育て支援				
	12	幼児教育制度の課題③：危機管理（災害・事件・事故等）				
	13	幼児教育制度の課題④：他機関との連携				
	14	幼児教育課題への取り組みの事例検討				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：提出物、授業態度（30%） 「その他」：授業内課題（70%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意						
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【Q&A】 随時					

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育特論	講義	2	2年次 後期	選択	幼一種免選択	中尾 博美
授業の到達目標	1. 乳児期の心身の発達を理解する。 2. 乳児保育の環境を構成する力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	最初の3年間の人生における意義を学び、保育者としての在り方や今後の学び方について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	0～1歳の特性（出産という試練）				
	3	0～1歳の特性（人生早期の母子結合）				
	4	0～1歳の特性（欲求の充足と基本的信頼感）				
	5	0～1歳の特性（3か月微笑と8か月不安）				
	6	1～3歳の特性（自立の第1歩）				
	7	1～3歳の特性（自律性を培う時期）				
	8	3～6歳の特性（個の芽生えと反抗）				
	9	3～6歳の特性（独立心と依存心の葛藤）				
	10	3～6歳の特性（遊びと発達）				
	11	事例を通して保育の質を考える① 討議と発表				
	12	事例を通して保育の質を考える② 討議と発表				
	13	保育者としての在り方①				
	14	保育者としての在り方②				
15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：受講態度（20%） 「その他」：授業内課題（80%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	・私語雑談は、慎むこと。 ・積極的に授業に参加すること。					
テキスト	『生涯人間発達論』 服部祥子著 医学書院					
参考書	参考資料：保育所保育指針 その他授業の中で紹介する					
その他	【オフィスワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽演習 I	演習	2	2年次 前期	選択	幼一種免選択	池田 京子
授業の到達目標	1. ソナタ形式の楽曲など、素早い動きにも正確に対応した演奏ができる。 2. 楽譜に記載されている指示記号に従って、楽曲の表情を工夫した演奏ができる。 3. 授業時だけでなく特別に緊張している状態でも、比較的安定した演奏ができる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。</li> <li>ピアノ演奏技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。</li> <li>こどものための楽曲や讃美歌などの演習を重ね、読譜力の強化を計りながらレパートリーを増やすと同時に、楽曲に適した表情を楽譜から読み取る技術を獲得する。このため、様々な季節や題材の任意の楽曲に挑戦する。</li> <li>適宜、よりよい演奏をするための意見交換や発表などを実施し、表現技術向上を目指す。</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション、グレード判定など				
	2	進度別課題① これまでの復習	こどものための楽曲・讃美歌など、実践・実習			
	3	進度別課題② ブルグミュラー25の練習曲 15番	季節の歌（春）			
	4	進度別課題③ ハ短調とハ長調	〃			
	5	進度別課題④ 跳躍する音を正確に演奏する	季節の歌（夏）			
	6	進度別課題⑤ ミステリアスな雰囲気表現する	〃			
	7	進度別課題⑥ ソナチネアルバムI巻7番	いつでも歌えるこどもの歌			
	8	進度別課題⑦ ソナタ形式の楽曲を学習する	〃			
	9	進度別課題⑧ 素早い音階を演奏する	動物を題材にした楽曲			
	10	進度別課題⑨ 細やかな音の動きに対応する	〃			
	11	進度別課題⑩ 様々な跳躍に対応する	讃美歌			
	12	進度別課題⑪ 音の粒を正確に演奏する	〃			
	13	進度別課題⑫ トリラなどの装飾音の練習	付点のリズムによるうた			
	14	進度別課題⑬ 全体的な表現のバランスを考える	〃			
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習					
授業の評価	「試験」：実技試験（80%） 「平常点」：課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度（20%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別のグレードによっては、ソナチネアルバムII巻、モーツァルトなどの古典派ソナタ、ショパンなどのロマン派作品、ドビュッシー・ラヴェルなどの近現代作品を学習する。</li> <li>爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリー類の使用は認めない。</li> <li>適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。</li> <li>教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。</li> <li>授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。</li> <li>譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。</li> </ul>					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムI・II、その他</li> <li>『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社</li> <li>『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著、全音楽譜出版社</li> <li>讃美歌、童謡に関連する任意の楽譜、その他、適宜、プリントを配布する。</li> </ul>					
参考書						
その他	【オプショナル】授業の前後や放課後などのほか、SNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽演習Ⅱ	演習	2	2年次 後期	選択	幼一種免選択	池田 京子
授業の到達目標	1. ソナタ形式の楽曲などを、より正確に演奏ができる。 2. 強弱記号・指示記号だけでなく、アーティキュレーションを意識した表情豊かな演奏ができる。 3. 特別に緊張している状態でもあまり動じることなく、安定した演奏ができる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。</li> <li>・ピアノ演奏技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。</li> <li>・こどものための楽曲や讃美歌などの演習を重ね、読譜力の強化を計りながらレパートリーを増やすと同時に、楽曲に適した表情や、アーティキュレーションを伴った演奏技術を獲得する。このため、様々な季節や題材の任意の楽曲に挑戦する。</li> <li>・適宜、よりよい演奏をするための意見交換や発表などを実施し、表現技術向上を目指す。</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション、グレード判定など				
	2	進度別課題① ソナチネアルバムⅡ巻10番	季節の歌（秋）			
	3	進度別課題② 卜長調によるソナタ形式の楽曲学習	〃			
	4	進度別課題③ 順次変化する分散和音の練習	季節の歌（冬）			
	5	進度別課題④ レガートによるメロディーの表現	〃			
	6	進度別課題⑤ 正確なタイミングで前打音を入れる	いつでも歌えるこどものうた			
	7	進度別課題⑥ 左手の素早いアルペジオ	〃			
	8	進度別課題⑦ 6/8拍子による明るく軽やかな表現	任意の楽曲によるリズム表現の練習			
	9	進度別課題⑧ ソナチネアルバムⅠ巻4番	〃			
	10	進度別課題⑨ 1ページを超える楽曲の学習	讃美歌			
	11	進度別課題⑩ シンコペーションのリズム	〃			
	12	進度別課題⑪ 特徴的なアクセントとアーティキュレーション	生活発表会等のためのこどものうた			
	13	進度別課題⑫ 音階のメロディー	〃			
	14	進度別課題⑬ 表現のバランスを意識した伴奏法	〃			
15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習					
授業の評価	「試験」：実技試験（80%） 「平常点」：課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度（20%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のグレードによっては、モーツァルトなどの古典派ソナタ、シューベルトやショパンなどのロマン派作品、ドビュッシー・ラヴェルなどの近現代の作品、邦人作曲家の作品を学習する。</li> <li>・爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、ブレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。</li> <li>・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。</li> <li>・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。</li> <li>・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。</li> <li>・譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。</li> </ul>					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他</li> <li>・『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社</li> <li>・『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著、全音楽譜出版社</li> <li>・讃美歌、童謡に関連する任意の楽譜、その他、適宜、プリントを配布する。</li> </ul>					
参考書						
その他	【Wi-Fiあり】授業の前後や放課後などのほか、SNSにて対応する。					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践研究Ⅱ	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	林 幹士
授業の到達目標	1、保育実践研究Ⅰで学習した内容について、文章として記述してまとめることができる。 2、保育実践研究Ⅰで学習した内容について、説明することができる。 3、保育実践研究Ⅰの実践内容をふり返り、課題について分析することができる。 4、オンライン保育実践について実践できる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	保育実践研究Ⅰで実践したオンライン保育実践の保育内容を振り返る。振り返りのために、オンライン保育実践を論文としてまとめていく。論文作成しながら、オンライン保育実践における課題を明らかにする。さらに、オンライン保育実践内容について検討していく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	オンライン保育実践（第1回目から第3回目）の振り返り				
	3	オンライン保育実践（第4回目から第6回目）の振り返り				
	4	オンライン保育実践（第7回目から第9回目）の振り返り				
	5	オンライン保育実践（第1回目）の論文作成				
	6	オンライン保育実践（第2回目）の論文作成				
	7	オンライン保育実践（第3回目）の論文作成				
	8	オンライン保育実践（第4回目）の論文作成				
	9	オンライン保育実践（第5回目）の論文作成				
	10	オンライン保育実践（第6回目）の論文作成				
	11	オンライン保育実践論文中間発表会				
	12	オンライン保育実践（第7回目）の論文作成				
	13	オンライン保育実践（第8回目）の論文作成				
	14	オンライン保育実践（第9回目）の論文作成				
15	オンライン保育実践論文最終発表会					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：オンライン保育実践論文（100%）					
課題（レポート等）のフィードバック	オンライン保育実践論文作成について、アドバイスをを行う。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：オンライン保育実践について、事前によく振り返っておくこと。 事後学習：オンライン保育実践について、少しずつ文章化していくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	積極的に文章を記述することを求めます。最終的には、保育実践研究Ⅰで実施したオンライン保育実践について、論文としてまとめていきます。					
テキスト	授業時に適宜紹介する					
参考書	授業時に適宜紹介する					
その他	【マイアワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
臨床心理アセスメント	講義	2	2年次 後期	選択		崎浜 聡
授業の到達目標	1. 保育カウンセラーの役割について理解する。 2. 保育カウンセリングのアセスメント法を学ぶ。 3. アセスメントによる臨床援助の技法を学ぶ。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	子どもの「個々の内面を理解する客観的方法（アセスメント）」としての「面接法」「観察法」「検査法」の手法を学び、保育カウンセリングの視点から子どもの臨床的な援助の技法を検討する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション：子どもの臨床心理アセスメントとは				
	2	保育カウンセラー導入の背景と役割				
	3	保育カウンセリングにおける臨床心理アセスメント				
	4	アセスメントの方法①：面接法				
	5	アセスメントの方法②：観察法				
	6	アセスメントの方法③：検査法				
	7	保育現場におけるアセスメントの技法①：発達障害のアセスメント				
	8	保育現場におけるアセスメントの技法②：発達障害のグレーゾーン				
	9	保育現場におけるアセスメントと支援の方法				
	10	事例カンファレンス①（グループワーク）				
	11	事例カンファレンス②（グループワーク）				
	12	事例カンファレンス③（グループワーク）				
	13	事例カンファレンス④（グループワーク）				
	14	保育者における関連機関との連携				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：レポート課題（70%）提出物（10%） ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）					
履修上の注意						
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、資料を配布する。					
その他	【ホワイトボード】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
相談援助研究	演習	2	2年次 後期	選択		川島 直子
授業の到達目標	<p>1. 子どもの育ちにかかわる様々な課題、保護者のニーズについての理解を深める。</p> <p>2. 保育及び教育の現場で相談援助や保護者支援を行う際の視点・考察力を身につける。</p>					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	ソーシャルワークについての理解を深め、さらにそれを演習によって深める。事例をもとに子どもや保護者のこころの動きを考えたり、模索しながら、保育者に求められる役割について共に考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション（相談援助とは）				
	2	ソーシャルワークの考え方と視点				
	3	ソーシャルワークの機能と実際				
	4	ソーシャルワークの方法と技術				
	5	ソーシャルワークの重要性				
	6	保護者との関係構築				
	7	地域子育て支援				
	8	事例分析に必要な手法				
	9	保育者の資質向上に向けた事例分析				
	10	保育所における相談援助の事例分析				
	11	児童養護施設における相談援助の事例分析				
	12	知的障害児施設における相談援助の事例分析				
	13	児童家庭支援センターにおける相談援助の事例分析				
	14	児童相談所における相談援助の事例分析				
15	まとめ					
授業の評価	<p>「試験」：筆記試験（60%）</p> <p>「平常点」：授業態度、講義ノート（20%）</p> <p>「その他」：レポート等提出物（20%）</p>					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<p>予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。</p> <p>復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。</p>					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	与えられた課題は必ず期限を守ること。					
テキスト	『保育実践に求められるソーシャルワーク』橋本好市・直島正樹編 ミネルヴァ書房 その他、必要に応じて資料を配布する。					
参考書	適宜、参考図書を指定する。 その他、必要に応じて資料を配布する。					
その他	【ワ157ア7】 講義日のお昼休み。					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと健康	演習	2	2年次 前期	選択		小野 昌二
授業の到達目標	1. 乳幼児の心身にとって健康で安全な保育・教育を理解する 2. 現代社会における乳幼児の心身の発達に影響を及ぼす問題点を認識し、保育に必要な援助・支援のあり方に関する知識を獲得する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	乳幼児の健康と安全に関する知識を習得し保育者に必要とされる判断力や実践力を身に付ける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	健康保育・安全保育の概念				
	3	乳幼児の健康・安全について幼稚園教育要領・保育所保育指針を参考に				
	4	現代社会における乳幼児の健康課題について				
	5	保育環境における保健・衛生について				
	6	幼稚園・保育園における乳幼児の健康管理（1）基本的な生活習慣				
	7	幼稚園・保育園における乳幼児の健康管理（2）健康と食生活・睡眠について				
	8	幼稚園・保育園における乳幼児の健康管理（3）健康と遊び・運動について				
	9	幼稚園・保育園における乳幼児の健康管理（4）感染症・衛生				
	10	保育における事故について				
	11	保育における事故について				
	12	危険予知、事前の事故予防の取り組み				
	13	乳幼児の健康な生活習慣に関する取り組みと保護者啓発について（グループ討議・ワーク）（1）				
	14	乳幼児の健康な生活習慣に関する取り組みと保護者啓発について（グループ討議・ワーク）（2）				
15	乳幼児の健康な生活習慣に関する取り組みと保護者啓発について（グループ討議・ワーク）（3）					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：受講態度・取り組み（30%） 「その他」：授業内課題・試験(50%) 提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	提出物は授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。					
事前・事後の学習等の内容	課題に応じて予習・復習し授業内容のまとめを行うこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 授業態度が著しく悪い場合は退場を命じることがある。					
テキスト	適宜資料等を配布					
参考書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） 『これならわかる！子どもの保健演習ノート』（診断と治療社） 子どもと健康 [第2版]（みらい）					
その他	【Wi-Fi】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理研究Ⅱ	演習	2	2年次 前期	選択		津田 敏
授業の到達目標	1. テキストエディタを使用してWebサイトを作成する能力を修得する。 2. Webサイトの作成をHTMLとCSSで学び、情報発信力を修得する。 3. Webサイトの作成に当たり、画像の編集や形式、パスについて学び、それらに伴う知識を修得する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	情報発信作成の基礎を身につけ社会での情報発信の在り方について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	Webサイトを制作を始める前に				
	2	制作の準備と基本のHTML				
	3	リンクと画像の挿入①				
	4	リンクと画像挿入②				
	5	2ページ以降の作成①				
	6	2ページ以降の作成②				
	7	CSSの基礎①				
	8	CSSの基礎② テキスト・フォントサイズ				
	9	CSSの基礎③ 行間の調整				
	10	フロート、テーブル、フレックスボックス				
	11	フォームの作成				
	12	自作Webサイト制作①				
	13	自作Webサイト制作②				
	14	自作Webサイト制作③				
15	自作Webサイト制作④ 発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：各回の理解度・作成度60%、自作Webサイト作成40% 計100% 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・HTML&CSSの使用タグは多くあるので基礎を修得するためのフォローする。 ・Webサイト作成におけるHTMLやCSSについての質問に個別に回答する。 ・HTMLは多々ある言語の一つで、他のWebサイトも同様にいくつかの言語で作成していることを認識する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：HTML、CSSについての用語等を調べておくこと。 復習：HTML、CSSで作成した内容、ルールについて理解し対処できるようにすること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	Webサイト作成の基礎について修得し、今後就職先で貢献するとの思いで取り組むこと。					
テキスト	『スラスラわかるHTML&CSSのきほん 第2版』狩野祐東著（SBクリエイティブ）2021年					
参考書	なし					
その他	【オフィスアワー】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修士研究Ⅱ-1	演習	6	2年次 通期	選択		勝木 洋子 中重 直俊
授業の到達目標	1. 研究論文の書き方を理解する 2. 結果、考察、結論、引用文献が研究テーマや目的と合致するようにまとめる 3. 研究の意義と残された課題、要旨を完成させ、第三者に伝わるプレゼンテーションを行う					
学位授与の方針との関連	専門分野の研究能力を身につけている。					
授業の概要	前期は、論文の完成を目指し取り組む。調査。観察。実践などの結果整理を行う。同時に考察を進め、論文の概要を整える。前期中の完成を目指して、論文の全体像を明確にする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	研究テーマと背景				
	3	先行研究の追加				
	4	研究の方法				
	5	倫理的配慮				
	6	研究計画の発表				
	7	研究の結果の集計				
	8	研究の結果の図表化				
	9	結果の整理				
	10	研究の考察1				
	11	研究の考察2				
	12	残された課題				
	13	註、引用文献、参考文献				
	14	謝辞と目次				
15	最終チェック					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：出席状況、授業態度（40%） 「その他」：課題（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	次回までの課題を提示するので、しっかりと予習・調査を行うこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 225 分） 事後学習（ 225 分）					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること					
テキスト						
参考書	研究テーマに応じて指示する					
その他	【オフィスアワー】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修士研究Ⅱ-2	演習	6	2年次 通期	選択		勝木 洋子 中重 直俊
授業の到達目標	1. 研究論文の書き方を理解する 2. 関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する 3. 第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う					
学位授与の方針との関連	専門分野の研究能力を身につけている。					
授業の概要	後期は、最終チェックと提出を行う。また、論文について討議を行い、関連分野への知見を加え学びを深める。修士時期には研究成果として学内発表を行う準備を進める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	論文提出				
	2	残された課題 1				
	3	残された課題 2				
	4	全体討議 1				
	5	全体討議 2				
	6	全体討議 3				
	7	全体討議 4				
	8	全体討議 5				
	9	全体討議 6				
	10	妙録の作成 1				
	11	妙録の作成 2				
	12	プレゼンテーション作成				
	13	配布資料作成				
	14	発表練習				
15	修士研究発表					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：出席状況、授業態度（40%） 「その他」：課題（60%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	次回までの課題を提示するので、しっかりと予習・調査を行うこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 225 分） 事後学習（ 225 分）					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること					
テキスト						
参考書	研究テーマに応じて指示する					
その他	【オプショナル】 授業の前後					